

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第94集

# 音明寺第2遺跡

Onmyouji 2 Site  
(二次調査)

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6

2005

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター94集 音明寺第2遺跡(二次調査) 正誤表

誤	正
<p>10頁 9-13行目 石材 石材の分類については、理化学的な手段ではなく、肉眼観察による分類を行った。手触り、表面の石質の違い、識別しにくいものについては、双眼実態顕微鏡を使用した。</p>	<p>石材 石材の分類については、理化学的な手段ではなく、肉眼観察による分類を行った。手触り、表面の石質の違い、識別しにくいものについては、双眼実態顕微鏡を使用した。</p>
<p>164頁 利用石材 流紋岩A 流紋岩B 流紋岩C 流紋岩D 凝灰岩 尾鈴山酸性 珪石 黒曜石 岩類 頁岩A 頁岩B 頁岩C 砂岩</p>	<p>利用石材 砂岩 頁岩C 頁岩B 頁岩A 凝灰岩 凝灰岩 尾鈴山酸性 珪石 黒曜石 岩類 流紋岩D 流紋岩C 流紋岩B 流紋岩A</p>





遺跡遠景（西より）



I区 道路状遺構

## 序

宮崎県埋蔵文化財センターでは、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施して参りました。この報告書は、東九州自動車道の都農～西都間の児湯郡新富町に所在する音明寺第2遺跡（二次調査）の発掘記録であります。

音明寺第2遺跡は、児湯郡新富町大字新田字音明寺にあり、南東向きの斜面に位置しました。発掘の結果、旧石器時代から近世にかけての遺構・遺物が多数検出されました。

主な遺構・遺物は、旧石器時代では礫群4基、角錐状石器・ナイフ形石器等、縄文時代早期では、炉穴3基、陥し穴状遺構1基、土器片・石鏃等、古代～近世では、道路状遺構19条が検出されました。

これらの遺構・遺物は、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料となるものと考えます。本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、埋蔵文化財の保護に対する理解の一助になることを期待しています。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導いただいた先生方、並びに地元の方々に厚くお礼申し上げます。

平成17年1月

宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 宮園 淳一

# 例 言

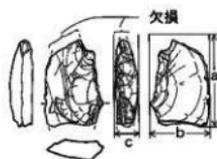
- 1 本書は、平成14年度に実施した東九州自動車道（郡農～西都間）建設に係る音明寺第2遺跡（二次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団から委託を受け宮崎県教育委員会が実施した。
- 3 現地での実測等の記録は、山下健一、福松東一、高橋浩子、小宇都あずさが行った。
- 4 本書使用の遺物実測は、山下が行ったほか整理作業員が補助した。一部石器実測は、九州文化財研究所株式会社に委託した。
- 5 本書に使用した実測図等の浄書は、山下が行ったほか整理作業員が補助した。一部石器の実測図及び浄書は、九州文化財研究所株式会社に委託した。
- 6 現地での写真撮影は、山下、福松が行い、出土遺物写真は、阿部直人が撮影した。
- 7 測量・空中写真・理化学的分析等は次の機関に委託した。  
グリッド杭設定：㈱黒木測量設計コンサルタント  
空中写真：宮崎県文化財調査・サポート協同組合  
放射性炭素年代測定・植物珪酸体分析・テフラ分析：㈱古環境研究所
- 8 本報告書で使用する略号は次のとおりである。  
SI = 標群      SE = 溝状遺構      SG = 道路状遺構  
SC = 土坑      SH = ピット
- 9 本書に使用した遺跡分布図は、国土地理院発行の1/50000の図をもとに、また、遺跡周辺地形図等は、日本道路公団宮崎工事事務所から提供の1/1000図をもとに作成した。
- 10 本書で用いた標高は海拔高であり、方位は座標北（G. N.）を基本とし、位置図等の一部に磁北（M. N.）を使用した。
- 11 国土座標は、平成12年度に設置された音明寺第1遺跡発掘調査基準点「TK. 2」と「TK. 3」の国土座標を基に設定している。但し、改訂前の旧平角直角座標系Ⅱ（日本測地形）である。
- 12 土器及び土層の色調については農林省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」に準拠した。
- 13 出土遺物の石材については、赤崎広志に同定をお願いした。
- 14 本書執筆は山下、編集は阿部、金丸琴路が担当した。
- 15 本遺跡の出土遺物、その他諸記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

# 凡 例

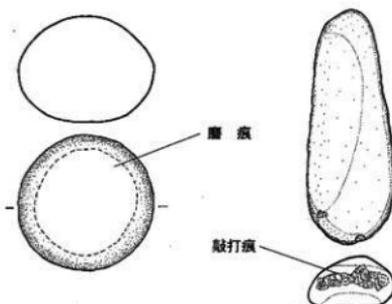
- 各調査区を北からF～I区に分けて、表示した。
- 遺物実測図の挿図の縮尺は次のとおりである。
  - 基本的な縮尺……2/3
  - 最大長が10cm以上の石器……1/2
  - 土師器、土器……1/3
- 遺物実測図以外の挿図縮尺は次のとおりである。
  - 遺跡周辺図……1/2,000・1/50,000
  - 土層図……1/20・1/40・1/60
  - 道路状遺構関連図……1/100・1/120
  - 炉穴、陥し穴状遺構実測図……1/20
  - 礫群実測図……1/20・1/40
  - 遺物出土分布図……1/150・1/200・1/300・1/400

以上を基本とし、これ以外のものもある。

- 石器計測表及び観察表の計測値は、下記の計測法によるものである。単位はcm、gである。
- 石器実測図の中の記号・表示は以下のものを示す。
  - 石器の節理面は一点鎖線表示する。
  - 「折れ」の状態が確認された石器には、欠損部分に / の記号を示す。
  - 敲打痕、磨痕は下記の要領で記す。



a = 長さ  
b = 幅  
c = 厚さ



- 東九州自動車道関連の発掘調査においては、出土層位の比較をしやすいするために、基本的に認められるテフラやローム層、黒色土帯については、共通の略称を用いた。

K-Th … 高原スコリア      Kr-Kb … 小林軽石  
K-Ah … 鬼界アカホヤ      AT … 始良Tn

アカホヤ火山灰層下のローム層の場合は上からML 1・ML 2…、黒色土帯の場合はMB 1・MB 2…とした。

# 本文目次

第Ⅰ章 はじめに .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 調査の組織 .....	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	
第Ⅲ章 調査の経緯と方針	
第1節 確認調査の概要 .....	5
第2節 発掘調査の方法 .....	5
第3節 整理作業及び報告書作成 .....	8
第Ⅳ章 調査の記録	
第1節 調査の概要 .....	9
第2節 基本層序 .....	9
第3節 旧石器時代の遺構と遺物	
1 旧石器時代Ⅰ文化層	
(1) 遺構 .....	12
(2) 遺物 .....	12
(3) 小結 .....	12
2 旧石器時代Ⅱ文化層	
(1) F区の調査	
① 調査の概要 .....	15
② 遺構 .....	15
③ 遺物 .....	19
(2) G区の調査	
① 調査の概要 .....	34
② 遺構 .....	34
③ 遺物 .....	39
(3) H区の調査	
① 調査の概要 .....	52
② 遺構 .....	52
③ 遺物 .....	56
(4) I区の調査	
① 調査の概要 .....	104
② 遺物 .....	104
(5) 小結 .....	107
第4節 縄文時代早期の遺構と遺物	
1 F区の調査	

(1) 調査の概要 .....	108
(2) 遺構 .....	108
(3) 遺物 .....	108
2 G区の調査	
(1) 調査の概要 .....	113
(2) 遺構 .....	113
(3) 遺物 .....	113
3 H区の調査	
(1) 調査の概要 .....	115
(2) 遺構 .....	115
(3) 遺物 .....	115
4 小 結	
第5節 アカホヤ降灰以降の遺構と遺物	
1 F区の調査	
(1) 調査の概要 .....	118
(2) 遺構 .....	118
(3) 遺物 .....	122
2 I区の調査	
(1) 調査の概要 .....	122
(2) 遺構 .....	122
(3) 遺物 .....	127
3 小 結 .....	127
第V章 自然科学分析	
第1節 テフラ検出分析 .....	129
第2節 屈折率測定 .....	129
第3節 植物珪酸体分析 .....	129
第VI章 まとめ .....	132

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (1/50,000) .....	3	第9図 F区第Ⅱ文化層出土石器分布図 (1/300) ...	16
第2図 遺跡周辺地形図 (1/2,000) .....	4	第10図 F区土層断面図1 (1/60) .....	17
第3図 確認調査トレンチ配置図 (1/1,000) ...	6	第11図 F区土層断面図2 (1/60) .....	18
第4図 調査区グリッド配置図 (1/1,000) .....	7	第12図 F区第Ⅱ文化層出土石器分布図 【頁岩A・C】 (1/400) .....	21
第5図 旧石器時代遺構分布図 (1/800) .....	11	第13図 F区第Ⅱ文化層出土石器分布図 【流紋岩】 (1/400) .....	22
第6図 第Ⅰ文化層遺構・遺物分布図 (1/200) ...	13	第14図 F区第Ⅱ文化層出土石器分布図 【ホルンフェルス】 (1/400) .....	23
第7図 第Ⅰ文化層S I 4実測図 (1/40) .....	14	第15図 F区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
第8図 第Ⅱ文化層石器ブロック1 (1/150) ...	15		

	【黒曜石】(1/400) .....	24		【その他の石材】 1 .....	50
第16図	F区第Ⅱ文化層出土石器分布図		第40図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図	
	【その他の石材】(1/400) .....	25		【その他の石材】 2 .....	51
第17図	F区第Ⅱ文化層出土礫分布図(1/300) .....	26	第41図	H区第Ⅱ文化層遺構・遺物分布図(1/300) .....	52
第18図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図		第42図	H区土層断面図 1 (1/60) .....	53
	【頁岩】 1 .....	27	第43図	H区土層断面図 2 (1/60) .....	54
第19図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図		第44図	S I 2 実測図 (1/20) .....	55
	【頁岩】 2 .....	28	第45図	S I 3 実測図 (1/20) .....	55
第20図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図		第46図	H区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
	【流紋岩】 .....	29		【頁岩 A】 (1/300) .....	60
第21図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図		第47図	東部拡大図【頁岩 A】 (1/150) .....	60
	【ホルンフェルス】 1 .....	30	第48図	西部拡大図【頁岩 A】 (1/150) .....	61
第22図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図		第49図	H区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
	【ホルンフェルス】 2 .....	31		【頁岩 B】 (1/300) .....	61
第23図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図		第50図	東部拡大図【頁岩 B】 (1/150) .....	62
	【ホルンフェルス・黒曜石】 .....	32	第51図	H区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
第24図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図			【頁岩 C】 (1/300) .....	62
	【その他の石材】 .....	33	第52図	H区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
第25図	第Ⅱ文化層石器ブロック 2 (1/200) .....	34		【流紋岩 A】 (1/300) .....	63
第26図	G区第Ⅱ文化層遺構・遺物分布図(1/200) .....	35	第53図	H区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
第27図	G区土層断面図 1 (1/60) .....	36		【流紋岩 B・C・D】 (1/300) .....	63
第28図	G区土層断面図 2 (1/60) .....	37	第54図	H区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
第29図	S I 1 実測図 (1/40) .....	38		【ホルンフェルス】 (1/300) .....	64
第30図	G区第Ⅱ文化層出土石器分布図		第55図	東部拡大図【ホルンフェルス】(1/150) .....	64
	【頁岩】(1/250) .....	41	第56図	西部拡大図【ホルンフェルス】(1/150) .....	65
第31図	G区第Ⅱ文化層出土石器分布図		第57図	H区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
	【流紋岩】(1/250) .....	42		【砂岩】(1/300) .....	65
第32図	G区第Ⅱ文化層出土石器分布図		第58図	H区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
	【ホルンフェルス】(1/250) .....	43		【黒曜石】(1/300) .....	66
第33図	G区第Ⅱ文化層出土石器分布図		第59図	H区第Ⅱ文化層出土石器分布図	
	【その他の石材】(1/250) .....	44		【その他の石材】(1/300) .....	66
第34図	G区第Ⅱ文化層出土石器分布図(1/200) .....	45	第60図	H区第Ⅱ文化層出土礫分布図(1/200) .....	67
第35図	G区第Ⅱ文化層出土礫分布図(1/200) .....	46	第61図	H区第Ⅱ文化層出土石器実測図	
第36図	G区第Ⅱ文化層出土石器実測図			【頁岩 A】 1 .....	68
	【頁岩・流紋岩】 .....	47	第62図	H区第Ⅱ文化層石器実測図	
第37図	G区第Ⅱ文化層出土石器実測図			【頁岩 A】 2 .....	69
	【ホルンフェルス】 1 .....	48	第63図	H区第Ⅱ文化層出土石器実測図	
第38図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図			【頁岩 A】 3 .....	70
	【ホルンフェルス】 2 .....	49	第64図	H区第Ⅱ文化層石器実測図	
第39図	F区第Ⅱ文化層出土石器実測図			【頁岩 A】 4 .....	71

第65図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩A】5	72	第85図	H区第Ⅱ文化層出土石器実測図 【ホルンフェルス】4	92
第66図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩A】6	73	第86図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【ホルンフェルス】5	93
第67図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩A】7	74	第87図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【ホルンフェルス】6	94
第68図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩A】8	75	第88図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【ホルンフェルス】7	95
第69図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩A】9	76	第89図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【ホルンフェルス】8	96
第70図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩A】10	77	第90図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【ホルンフェルス】9	97
第71図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩A】11	78	第91図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【ホルンフェルス】10	98
第72図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩A】12	79	第92図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【ホルンフェルス】11	99
第73図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩B】1	80	第93図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【ホルンフェルス】12	100
第74図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩B】2	81	第94図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【砂岩】1	101
第75図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【頁岩B・C、流紋岩A】	82	第95図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【砂岩】2	102
第76図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【流紋岩A】1	83	第96図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【その他の石材】	103
第77図	H区第Ⅱ文化層出土石器実測図 【流紋岩A】2	84	第97図	I区第Ⅱ文化層遺物分布図(1/200)	104
第78図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【流紋岩A】3	85	第98図	I区土層断面図(1/60)	105
第79図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【流紋岩A】4	86	第99図	I区第Ⅱ文化層石器実測図	106
第80図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【流紋岩A・B】	87	第100図	F区縄文早期遺構・遺物分布図(1/300)	109
第81図	H区第Ⅱ文化層出土石器実測図 【流紋岩B・C・D】	88	第101図	F区縄文早期遺構実測図(1/20)	110
第82図	H区第Ⅱ文化層出土石器実測図 【ホルンフェルス】1	89	第102図	F区縄文早期土器実測図1	111
第83図	H区第Ⅱ文化層出土石器実測図 【ホルンフェルス】2	90	第103図	F区縄文早期土器実測図2	112
第84図	H区第Ⅱ文化層石器実測図 【ホルンフェルス】3	91	第104図	G区縄文早期遺構・遺物分布図(1/250)	113
			第105図	G区縄文早期遺構実測図(1/20)	114
			第106図	G区縄文早期土器実測図	114
			第107図	H区縄文早期遺構・遺物分布図(1/300)	115
			第108図	陥し穴状遺構実測図(1/20)	116
			第109図	炉穴実測図(1/20)	116
			第110図	F・H区縄文早期石器実測図	117
			第111図	SG 1~4全体図(1/100)	119
			第112図	SG 1~4土層断面図(1/20)	119

第113図	SG5・6、SE1・2全体図(1/100)……	120
第114図	SG5・6、SE1・2土層断面図(1/40)……	121
第115図	SG2出土遺物実測図……………	122
第116図	I区道路状遺構全体図(1/120)……	124
第117図	I区道路状遺構土層断面図1(1/20)……	125
第118図	I区道路状遺構土層断面図2(1/20)……	126
第119図	SG16出土遺物実測図……………	127
第120図	道路状遺構分布図(1/2000)………	128

## 表 目 次

第1表	SI4石材別観察表……………	12
第2表	H区第I文化層石器石材組成……………	12
第3表	F区第II文化層石器石材組成……………	19
第4表	F区第II文化層礫石材別観察表……………	20
第5表	SI1石材別観察表……………	39
第6表	G区第II文化層石器石材組成……………	39
第7表	G区第II文化層礫石材別観察表……………	40
第8表	SI2石材別観察表……………	56
第9表	SI3石材別観察表……………	56
第10表	H区第II文化層石器石材組成……………	57
第11表	H区石器接合資料石材組成……………	57
第12表	H区第II文化層礫石材別観察表……………	59
第13表	I区第II文化層礫石材別観察表……………	107
第14表	石器の石材比較……………	107
第15表	石器の器種比較……………	107
第16表	礫の石材比較……………	107
第17表	テフラ分析結果(1)……………	130
第18表	テフラ分析結果(2)……………	131
第19表	植物珪酸体分析結果1……………	131
第20表	植物珪酸体分析結果2……………	132
第21表	植物珪酸体分析結果3……………	132

## 図版目次

巻頭図版	遺跡遠景・I区道路状遺構	
図版1	調査区遠景調査区全景……………	163
図版2	土層断面利用石材……………	164
図版3	……………	165
	SI1検出状況 SI2検出状況 SI4検出状	

	況 C区東部遺物集中区 陥し穴断面	
	SG1・2・3・4検出状況 SG5・6断面	
	SG7・8断面	
図版4	……………	166
	SG9・10断面 SG16・17・18断面	
	SG12・17断面 SG17・18・19断面	
	SG5・6SE1・2完掘状況 I区道路状遺構完掘状況 作業風景 現地説明会	
図版5	第II文化層石器(F区)……………	167
図版6	第II文化層石器(G区・H区)……………	168
図版7	第II文化層石器(H区・G区)……………	169
図版8	第II文化層石器(H区)……………	170
図版9	第II文化層石器(H区)……………	171
図版10	第II文化層石器(H区)……………	172
図版11	……………	173
	第II文化層石器(H区・I区)	
	縄文早期石器(F・H区) 縄文早期土器(G区)	
	アカホヤ降灰以降の遺物(F・I区)	
図版12	縄文早期土器(F区)……………	174

# 第I章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道都農～西都間は、平成元年2月に基本計画がなされ、平成9年3月には整備計画路線となった。さらに平成9年12月に建設大臣から日本道路公園へ施行命令が出され、公出は翌年の2月から事業に着手している。それに伴い、県教育委員会は、平成10年度に路線上の遺跡分布調査を行い、計79箇所におよぶ遺跡の存在を推定した。そこで、工事施工によって影響が出る部分については、工事着手前に発掘調査を実施することとなった。調査は、平成11年度から日本道路公園の委託を受け、宮崎県埋蔵文化財センターで行っている。

本遺跡では、確認調査を3回実施している。平成12年6月2日～6月14日に実施された第一次確認調査によって、町道で分割される南部2,400㎡の本調査が決定した。その後、第一次本調査を平成12年9月4日～平成13年2月15日まで実施し、旧石器時代の遺構・遺物、古代から中世にかけての遺構と推測される道路状遺構が検出されている<sup>1)</sup>。

さらに、平成13年2月16日～2月22日と平成14年2月18日～3月19日に第二次確認調査と第三次確認調査を実施した。第二次確認調査では、アカホヤ面に道路状遺構と思われる硬化面を検出し、旧石器土層中より細石刃核が出土した。第三次確認調査では、表土下より道路状遺構と思われる硬化面を検出し、縄文早期土層中より土器片、旧石器土層中より剥片が出土した。

これらの確認調査の結果をもとに全調査対象面積を5,700㎡として、平成14年5月16日～平成14年12月26日まで本調査を実施した。整理作業は平成14年10月から実施し、平成15年度に終了した。

### [注]

- (1) 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第81集  
「音明寺第2遺跡」2003

## 第2節 調査の組織

音明寺第2遺跡(二次調査)の調査組織は次のとおりである。

- 調査主体 宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 米良 弘康(平成14年度～15年度)  
宮園 淳一(平成16年度)  
副所長兼総務課長  
大藪 和博(平成14年度～16年度)  
副所長兼調査第二課長  
岩永 哲夫(平成14年度～16年度)  
主幹兼総務係長  
石川 恵史(平成15年度～16年度)  
総務係長 野邊 文博(平成14年度)  
調査第一課長  
兎玉 章則(平成14年度～15年度)  
高山 富雄(平成16年度)  
主幹兼調査第二係長  
長津 宗重(平成14年度～16年度)  
調査第一係長  
谷口 武範(平成14年度～16年度)  
調査担当  
主査 山下 健一(平成14年度～15年度)  
主査 福松 東一(平成14年度)  
主任主事 高橋 浩子(平成14年度)  
調査員 小宇都あずさ(平成14年度)  
調査指導 小畑 弘己(熊本大学)  
泉 拓良(奈良大学)  
本田 道輝(鹿児島大学)  
田崎 博之(愛媛大学)  
柳沢 一男(宮崎大学)  
広瀬 和雄(奈良女子大学)  
禰宜田佳男(文化庁記念物課)

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

音明寺第2遺跡は、宮崎県児湯郡新富町大字新田字音明寺に所在する。新富町は、宮崎平野の北部一角を占める児湯郡に属し、九州山地を源とする一ツ瀬川が南流から東流へと大きく湾曲する流域左岸の沖積平野と、標高70m～90mの台地にかけて町域を有する。町域の大きな割合を占める洪積台地は、宮崎平野に広がる平坦地の顕著な段丘地形となっており、地形区分でいう茶臼原面（海拔約120m）、三財原面（海拔約90m）、新田原面（海拔約70m）の3つに分けられる。沖積平野部は、この洪積台地を大きく東西に開折して、ほぼ東流する鬼付女川によって形成された急峻な谷の底部と、一ツ瀬川流域沿いの低位段丘面、海岸部の4～5つの砂丘面に区分でき、それぞれ有効な土地利用を可能としている。また、本町は、北に高鍋町、西に一ツ瀬川を界し西都市、南に同じく一ツ瀬川を界して佐上原町と接しており、東に日向灘を望む。

本書で報告する音明寺第2遺跡（二次調査）は、鬼付女川左岸、三財原台地上の丘陵部南東斜面（標高約85m～95m）に位置する。調査地は、畑地や宅地として階段状に削平されているが、旧地形は北西から南東に傾斜する丘陵斜面で、西側に谷が接近している。この谷下には湧水点も存在する。

今回の調査においては旧石器時代の遺構・遺物縄文時代早期の遺構・遺物、古代から近世にかけての遺構と推測される道路状遺構が検出されたことから、周辺遺跡分布状況については、同時期と推察されるものについて概観したい。

旧石器時代では、新田原台地上に4つの遺跡が位置する。これらの遺跡では、縄文時代草創期の遺物を含み、集石遺構に伴って遺物が出土した例が多い。町内最古の溜水遺跡でナイフ形石器が出土しており、その他の遺跡では細石器が多い。これらの細石器の多くは、畦原地区を中心に表採・部類された「畦原型細石器」と呼ばれるもので、南九州を代表する標識資料となっている。

三財原台地上では、東九州自動車道建設に伴い当遺跡以外にも、東畦原第1・第2・第3遺跡、西畦

原第1・第2遺跡、（新富町大字新田）などで調査されている。これらの遺跡では、旧石器時代の遺構・遺物が多数検出されている。

縄文時代早期では、新田原台地の西南端の一ツ瀬川遺跡で掘り込みを伴う集石遺構を検出し、押型土石器・隆起線文土器・貝殻条痕土器が出上している。また、音明寺第1遺跡でも多数の押型土器が出土した。

古代から近世にかけては、14世紀頃まで営まれた集落を検出した町中央部の上岡遺跡、南部の河岸段丘面には古墳時代後期から中世の住居が確認された北田遺跡、縄文時代後期から中世までの各種遺構が確認された祇園原地区遺跡がある。しかし、古代から中世の集落については資料が少ない。

### 【参考文献】

- 新富町文化財調査報告書「平成8年度 町内遺跡発掘調査概要報告書第21集」
- 新富町文化財調査報告書「平成9年度 町内遺跡発掘調査概要報告書第24集」
- 新富町文化財調査報告書「町内遺跡15」平成10年度町内遺跡発掘調査概要報告書第27集」
- 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第81集「音明寺第2遺跡」2003



- |           |           |            |            |
|-----------|-----------|------------|------------|
| 1 音明寺第2遺跡 | 2 東畦原第1遺跡 | 3 東畦原第2遺跡  | 4 東畦原第3遺跡  |
| 5 西畦原第1遺跡 | 6 西畦原第2遺跡 | 7 音明寺第1遺跡  | 8 牧内第2遺跡   |
| 9 牧内第1遺跡  | 10 小並第1遺跡 | 11 唐木戸第3遺跡 | 12 祇園原地区遺跡 |
| 13 瀬戸口遺跡  | 14 新田原遺跡  | 15 丸尾B遺跡   | 16 平伊倉A遺跡  |
| 17 上崗遺跡   | 18 溜水遺跡   | 19 山之坊上遺跡  | 20 北田遺跡    |

(1～11は東九州自動車道建設に伴う調査遺跡、12～20は新宮町による調査遺跡)

第1図 遺跡位置図 (1/50,000)



第2圖 遺跡周辺地形圖 (1/2,000)

## 第三章 調査の経過と方針

### 第1節 確認調査の概要

本調査に先立って平成12年度と平成13年度に3回にわたり確認調査を実施した(第3回)。

第一次確認調査は、平成12年6月2日～同年6月14日のうち9日間、約2,200㎡を対象面積として、2m×2mの8つのトレンチを設定して行った。K-Ah、A Tとも良好な残存状況を示したが、第6トレンチより剥片1点が出土しただけで、遺構は確認されなかった。この調査により、第一次確認調査区の2,200㎡が本調査より除外されることとなった。

第二次確認調査は、平成13年2月16日～同年2月22日のうち5日間、約900㎡を対象面積として、2m×2mの6つのトレンチを設定して行った。この調査で、第1トレンチのアカホヤ面に道路状遺構と思われる硬化面を、さらに第4トレンチで溝状遺構を検出し、Kr-Kbを含む層より細石刃核が、攪乱層より搔器が出土したことで調査区南西部900㎡の本調査が決定した。

第三次確認調査は、平成14年2月18日～3月19日のうち16日間、面積約6,700㎡を対象として23のトレンチを設定して行った。この調査で、調査区最上段東部の第6トレンチの表土下より道路状遺構と思われる硬化面を検出し、複数のトレンチのML1より土器片、MB1より剥片が出土した。なお、調査区二段目の東部及び三段目からは遺構・遺物とも検出されなかった。その結果、調査区の二段目の東部及び三段目の約1,900㎡を調査から除外し、約4,800㎡の調査が決定した。

以上3回の確認調査の結果をもとに第二次調査対象面積を5,700㎡とした。

### 第2節 発掘調査の方法

音明寺第2遺跡の二次調査区は、丘陵の南東斜面に位置しており、発掘調査前は、畑地や宅地として利用されており、階段状に削平されていたが、旧石器面からは良好な状態で遺存していた。発掘調査は、平成14年5月16日から平成14年12月26日まで実施した。

発掘調査に際しては、調査区北東部の標高の一番高いF区、一段低い中央部のG区、最も低い南部のH区、南西部の一段高いI区に分けて調査を行った。調査は、G区→F区→H区・I区の順に進め、国土座標(旧平角直角座標系Ⅱを基準に10m間隔の区画(グリッド)を設定して調査を実施した。グリッドは西から東へ1, 2, 3, …、北から南へA, B, C…、と呼ぶこととし、グリッドはA-1区というようにアルファベットと数字を組み合わせた呼称とした。(第4回)

さらに、旧石器包含層の調査では、まず10m間隔のグリッドの1/4を掘り下げ(以下「25%調査」と言う)、遺構・遺物が確認できれば、2/4(50%)・3/4(75%)・4/4(100%)と広げていった。

調査の経過については、日誌抄をもってかえる。

#### 日誌抄

5月16日～5月17日

現場事務所等の設置及び器材搬入

#### G区の調査

5月20日～6月4日

重機による表土剥ぎ

V層(ML1)遺構検出及び掘り下げ、遺物取り上げ

遺構検出状況写真撮影、実測

V層(ML1)上面コンター図作成

6月5日～6月25日

VI層(kr-kb)・VII層(MB1)掘り下げ、遺物取り上げ

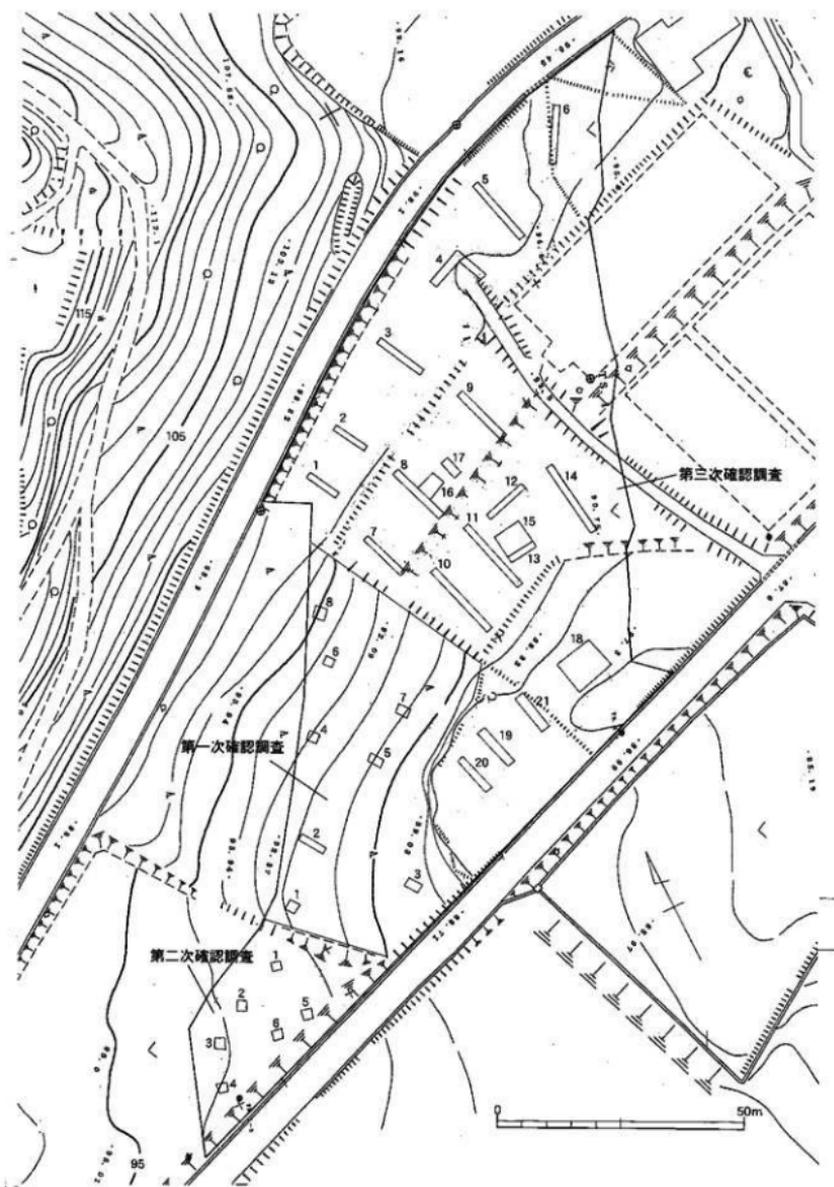
VII層(MB1)上面コンター図作成

稜群写真撮影、実測

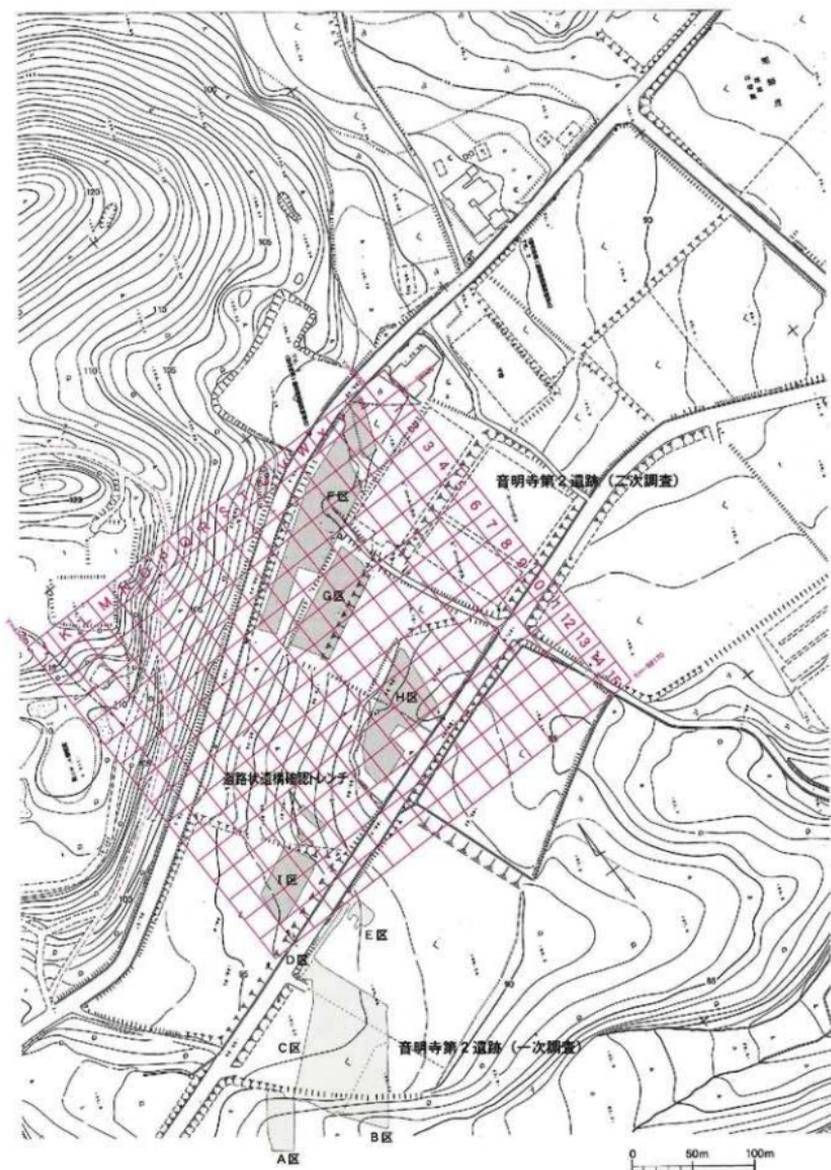
無遺物層除去(Ⅷ層)

土層断面実測

Ⅷ層(MB2, MB3)掘り下げ



第3図 確認調査トレンチ配置図 (1/1,000)



第4図 調査区グリッド配置図 (1/2,000)

## F区の調査

6月26日～7月23日（F区中央部・西部）

重機による表土剥ぎ～生じた土砂はG区へ廃棄  
V層遺構検出及び掘り下げ  
遺構検出状況写真撮影・遺構実測  
遺物取り上げ  
V層上面コンター図作成

7月24日～9月6日（F区中央部・西部）

重機による無遺物層除去（Ⅵ層）  
Ⅵ層掘り下げ、遺物取り上げ  
Ⅵ層上面コンター図作成  
無遺物層除去（Ⅶ層）  
Ⅶ層掘り下げ、土層断面実測  
生じた土砂は、G区へ廃棄した。

9月9日～10月25日（F区道路状遺構の調査）

道路状遺構検出及び検出状況写真撮影  
遺構掘り下げ、実測、写真撮影  
Ⅲ層上面コンター図作成

## H区の調査

9月9日～9月26日

重機による表土剥ぎ～生じた土砂はF区へ廃棄  
V層遺構検出及び掘り下げ  
遺物取り上げ  
遺構実測・写真撮影  
V層上面コンター図作成

10月1日～12月20日

重機による無遺物層除去  
Ⅶ層の掘り下げ、遺物取り上げ  
Ⅶ層上面コンター図作成  
Ⅷ層の掘り下げ、遺物取り上げ  
礫群の実測、写真撮影  
土層断面実測  
陥し穴・炉穴の掘り下げ、実測、写真撮影  
生じた土砂はG区へ廃棄した。

## I区の調査

9月11日～10月2日

重機による表土剥ぎ～生じた土砂はF区へ廃棄  
客土の除去

10月3日～11月25日

道路状遺構の検出、検出状況写真撮影  
遺構掘り下げ、実測、写真撮影  
Ⅲ層上面コンター図作成

11月26日～12月20日

重機による無遺物層除去  
Ⅷ層の掘り下げ、遺物取り上げ  
Ⅸ層の掘り下げ、土層断面実測

11月7日

現地説明会～参加者82名（新富町立上新田中学校1年生46名を含む）  
東睦原第1遺跡と共同で開催  
道路状遺構を中心に見学してもらい、出土した旧石器時代の遺物も展示した。

11月20日

空中写真撮影

12月24日～12月26日

調査区埋め戻し  
事務所後片付け、器材搬出  
プレハブ撤去

## 第3節 整理作業及び報告書作成

平成14年10月からは、現場事務所で開催作業と平行しながら、水洗・注記を行った。そして平成15年2月から東睦原整理作業棟で礫の接合作業を始め、3月末には整理を終えた。

平成15年6月から、埋蔵文化財センター本館で土器・石器の接合、土器の拓本・石膏入れ、遺物の実測・製図・レイアウト・写真撮影などを行った。石器の接合資料及び製品・石核等の一部については実測委託とした。

土器の接合、石膏入れを6月中に終わり、7月～8月で石器の接合及び計測を終えた。土器実測及び拓本、石器の実測を9月より始めた。

## 第IV章 調査の記録

### 第1節 調査の概要

F区～I区について本調査を行ったところ、主として後期旧石器時代からアカホヤ火山灰降灰以降にかけての遺構及び遺物を確認し、下記の成果を得た。

調査区	時代	主な遺構・遺物
F区	旧石器時代	ナイフ形石器、蔽石、剥片、角錐状石器
	縄文時代早期	土坑、押型文土器片
	アカホヤ火山灰降灰以降	道路状遺構、溝状遺構、土師器片
G区	旧石器時代	礫群、ナイフ形石器、蔽石、剥片
	縄文時代早期	押型文土器片、石鏃
H区	旧石器時代	礫群、ナイフ形石器、蔽石、剥片、角錐状石器
	縄文時代早期	陥し穴状遺構、炉穴、石鏃
I区	旧石器時代	角錐状石器、剥片
	アカホヤ火山灰降灰以降	道路状遺構、溝状遺構

### 第2節 基本層序

音明寺第2遺跡(二次調査)の基本土層は、調査中の土層観察から、I～X層に分けられる。右にその模式図を示した。

- I層 耕作土である。30～40cm前後の堆積があり、調査開始時に重機で除去した。
- II層 黒色土(10YR2/1)。柔らかくバサバサしている。
- III層 明褐色土(7.5YR5/8)。Kr-Ahで下部に1mm～2mm程の橙色粒を含む。
- IV層 黒褐色土(10YR3/1)。ややしまっている。MB0に相当する。
- V層 暗褐色土(10YR3/3)。乾燥するとクラックが入り非常に固く、白色粒、橙色粒を含み粘性がややみられる。ML1に相当する。
- VI a層 褐色土(10YR4/4)。Kr-Kbを少量含む。

VI b層 褐色土(10YR4/4)。Kr-Kbを多く含む暗褐色のブロックが褐色土層の中に密に入る。Kr-Kbだけでは、層を成していない。

VI c層 褐色土(10YR4/4)。Kr-Kbを多く含む暗褐色のブロックは見られず、単独でKr-Kbがまばらに見られる。保水性があり柔らかい。

VII層 暗褐色土(7.5YR3/3)。柔らかく保水性があり、やや粘性もある。MB1に相当する。

VIII a層 濃い黄褐色土(10YR5/4)。ややしまりがあり、径1～3cm程の黒色の輪が見られる。ML2に相当する。

VIII b層 明黄褐色土(10YR5/4)。AT火山灰は粗粒である。

VIII c層 黄土(2.5Y7/8)。AT火山灰で下部に白色粒を含む。

IX a層 暗褐色土(10YR3/4)。白色粒を多く含む粘性がある。縦状のクラックが入る。乾燥すると非常に固い。MB2に相当する。

IX b層 暗褐色土(10YR3/4)。白色粒は見られず、橙色斑が見られる。IX aより柔らかい。MB3に相当する。

X層 明褐色土(7.5YR5/6)。軟質で粘性がある。

I	耕作土
II	黒色土
III	Kr-Ah(アカホヤ火山灰)
IV	MB0
V	ML1
VI a	褐色土(Kr-Kb少量含む)
VI b	褐色土(Kr-Kb密に含む)
VI c	褐色土(Kr-Kb少量含む)
VII	MB1
VIII a	ML2
VIII b	AT
VIII c	AT
IX a	MB2
IX b	MB3
X	明黄褐色土

### 第3節 旧石器時代の遺構と遺物

すべての調査区において旧石器時代の遺物が出土した。これらはⅥc層、Ⅶ層、Ⅷa層に包含される。遺構は、G区・H区で礫群が、F区・G区・H区で石器ブロックが検出された。本節においては小林軽石を含む層（第Ⅵ層）と始良Tn火山灰層（第Ⅶ層）を鍵層と位置づけ、Ⅵc層～Ⅶ層を旧石器時代第Ⅱ文化層、Ⅷa層を旧石器時代第Ⅰ文化層として報告する（第5図）。

本題の前に、旧石器時代の遺構・遺物・石材の基本的な捉え方について述べておきたい。

#### グリッド（第4図）

本遺跡での石器は、すべてグリッド名を付してあるが10mグリッドを四分割し、25%掘りを行ったため、その四分割の区域を1～4の小グリッドとした。

#### 石器ブロック 遺物集中区

本遺跡では、剥片・碎片・敲石等が集中して出土する区域を石器ブロックとした。ブロックの認定は、調査区を2m×2mのメッシュに切り、隣接しているメッシュに石器が2点以上出土しているものどうしを結び、そのまとまりが20点以上で、広がり方が10m以下のものを基本とした。

平面的な広がり方が10mを超えるものは、遺物集中区とした。

#### 礫群

礫群については、礫にまとまりがあり、周りに礫がみられない場合に礫群とし、縮尺1/10で図面を作成した。礫群のほとんどが石器を含み、小礫で構成されているもの、比較的大きな礫で構成されているもの様々であった。

#### 礫

礫については、調査時より、礫群の如何を問わず小礫も含め、ほとんどの礫を取り上げた。しかし、整理作業段階で、1g未満のものは廃棄とした。その他の礫や礫片については、計測と接合・石材の分類・受熱による円磨度・赤化度・完形度・形状・黒色付着物の有無を調べ、次のような判断基準で分類した。

円磨度 : 円…円礫 歪円…歪円礫

亜角…亜角礫 角…角礫

赤化度 : 非…非赤化 弱…弱赤化 中…中赤化 強…強赤化

完形度 : A…90%以上 B…40%以上90%未満 C…40%未満

形状 : 棒…棒状礫 扁平…扁平礫 球…球形礫

#### 石材

石材の分類については、理化学的な手段ではなく、肉眼観察による分類を行った。手触り、表面の石質の違い、識別しにくいものについては、双眼実像顕微鏡を利用した。以下は、それぞれの特徴である。また、図版3に掲載している。

頁岩 A…剥離面は漆黒でザラザラしている。表皮はにぶい黄褐色（10YR5/4）～黒褐色（2.5Y3/1）でヤツルツルしている。

頁岩 B…剥離面は漆黒で、微細な橙色粒、白色粒を含む。表皮はツルツルして、微細な橙色粒、白色粒を含む。

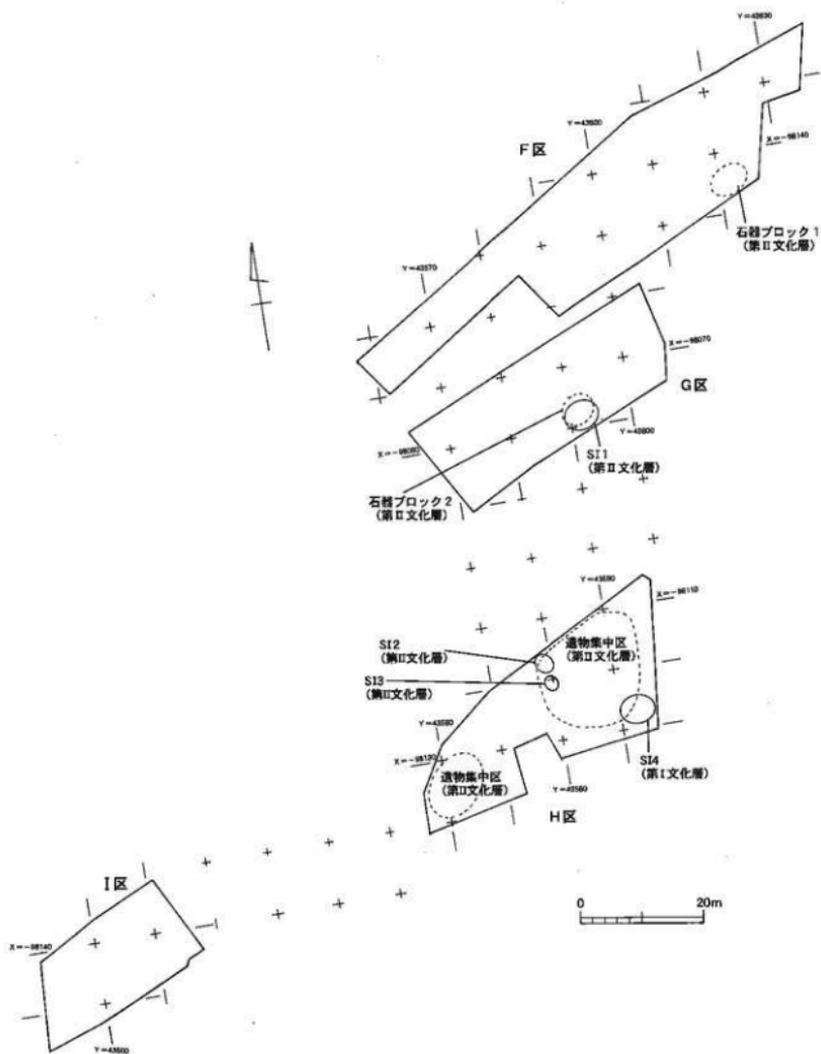
頁岩 C…表皮はにぶい黄褐色（10YR5/4）～黒褐色（2.5Y3/1）で、表皮と剥離面に白～灰色の斑がはいり、ややザラザラしている。

流紋岩 A…灰色（N4/）～暗灰色（N3/）で灰白色から褐色の斑が入る。剥離面はツルツルしている。

流紋岩 B…灰黄色（2.5Y7/2）で、表面はざらっとしているが緻密である。

流紋岩 C…灰黄褐色（10YR4/2）～漆黒で、ガラス質がつよくツヤがあり、ツルツルしている。

流紋岩 D…灰色（5Y5/1）で、青白色の筋が見え、ツルツルしている。



第5図 旧石器時代遺構分布図 (1/800)

## 1 旧石器時代第I文化層

H区では、始良Tn火山灰層下の第IX a層から礫群1基と剥片12点を検出したことから、この層を第I文化層と位置付けた(第6図)。東九州自動車道建設に関する調査においては、「MB2」に相当する。なお、F区・G区・I区では、この第I文化層であるIX a層からは遺物・遺構とも検出できなかった。

以下報告するが、上位の層より遺構番号をつけているので、番号が途中からになっている。

### (1) 遺構

#### SI 4 (第7図)

U11グリッドに位置し、径約7m×約35mの範囲内に剥片7点・碎片3点を含み、礫31点で構成される(第1表)。掘り込みは伴わず、ほぼ平坦に散在した。礫の重量は最大で1,117g、最小で5gと様々である。約半数は、赤化しているが、炭化物は見られない。礫31点のうち58%をホルンフェルスが占め総重量も約7割である。7点が接合し3個体になった。

### (2) 遺物

出土した遺物は、礫群を中心に、剥片9点(頁岩A 4点、頁岩B・流紋岩A・チャート・ホルンフェルス・黒曜石それぞれ1点)、碎片3点(頁岩a 2点、黒曜石1点)である。いずれも小片であったため、図化はしなかった。

### (3) 小結

この文化層からは、剥片や碎片の出土が少ないことから、接合関係を調べ、剥片剥離技術や同一母岩の分布状況を把握するまでには至らなかった。しかし、石器として使われた石材は遺跡周辺で比較的手入れしやすいことから、他地域からの搬入は考えにくい。

南側の道一つ隔てた一次調査のD・E区では、同一と思われる文化層から、79点の石器と49点の礫が出土していることから、調査区はこれらの縁辺部にあたるのではないかと思われる。

石材	個数 (個)	重量 (g)	円磨度				赤化度				完形度			形状			黒色付 着物	
			円	歪 円	歪 角	角	非	弱	中	強	A	B	C	棒	扁 平	球	有	無
頁岩	5	1,195	1	3	0	1	5	0	0	0	2	1	2	0	5	5	0	5
砂岩	2	279	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	0	2	2	0	2
尾鈴山酸性岩	4	1,525	2	1	1	0	2	1	1	0	2	0	2	0	2	2	0	4
ホルンフェルス	18	6,630	0	8	9	1	7	7	4	0	2	8	8	1	13	4	0	18
その他	2	340	0	1	1	0	2	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	2
計	31	9,969	3	14	12	2	17	9	5	0	6	1	14	1	23	7	0	31

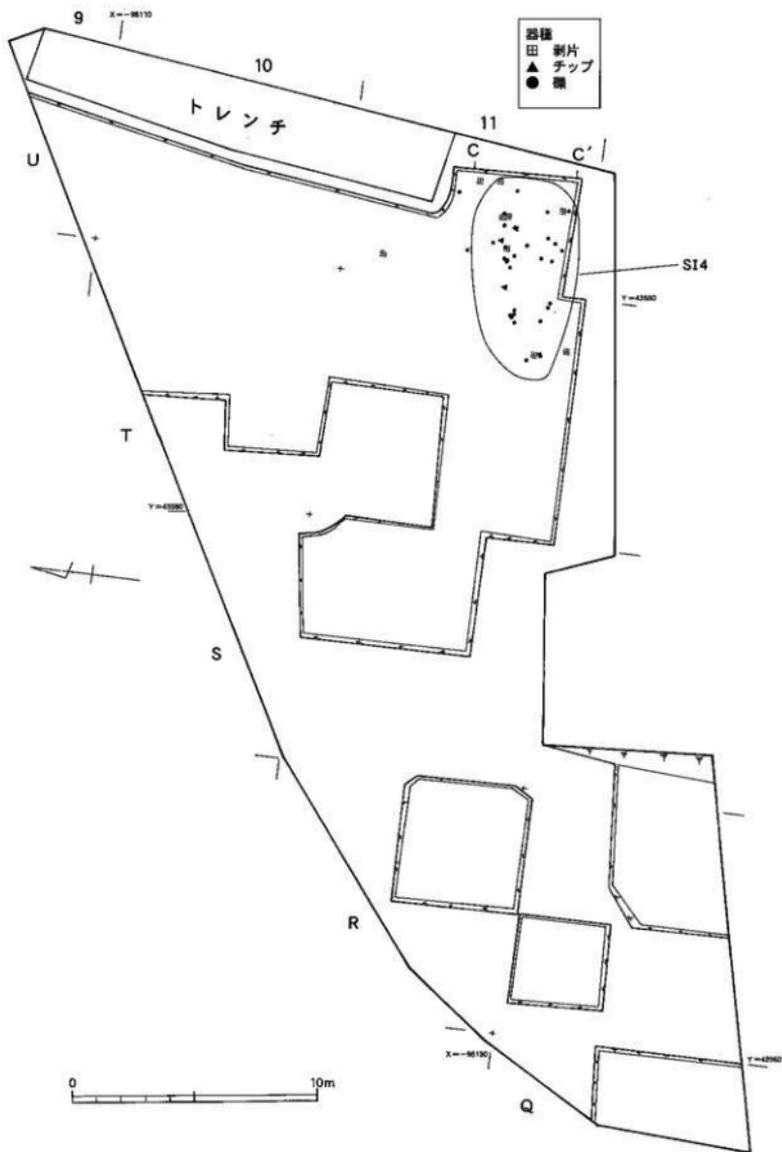
第1表 SI4石材別観察表

重量以外は個数

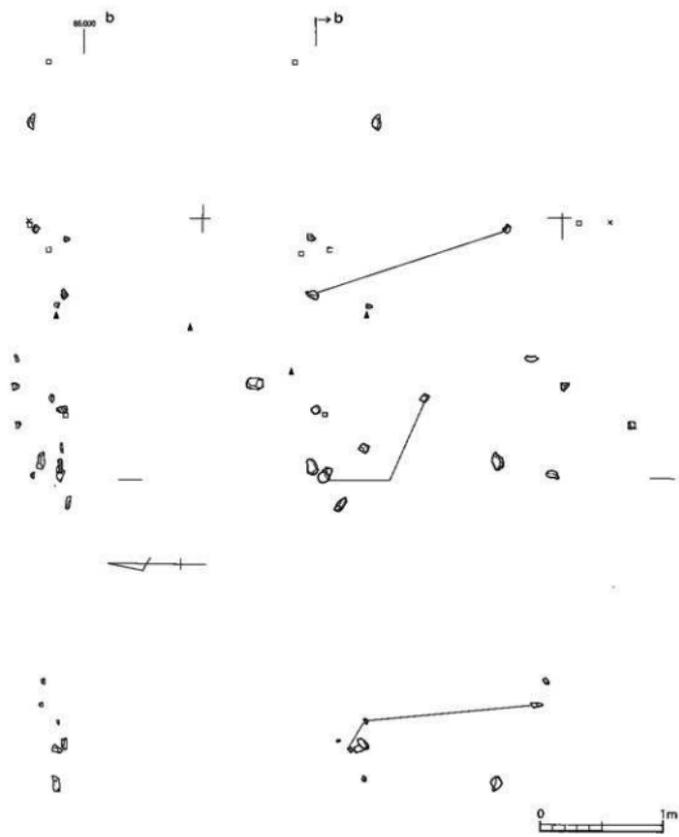
	頁岩A	頁岩C	流紋岩A	チャート	ホルンフェルス	黒曜石	計
剥片	4	1	1	1	1	1	9
碎片	2					1	3

第2表 第1文化層石器石材別組成

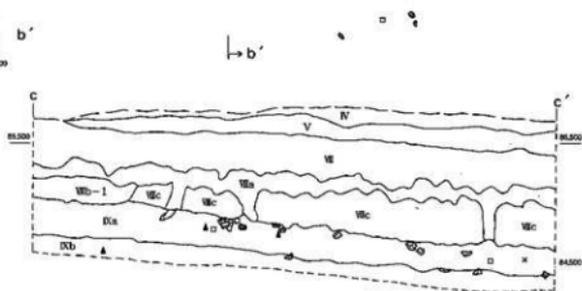
(個)



第6図 旧石器第I文化層出土遺物分布図 (1/200)



- 剥片
- ▲ チップ
- × 小礫



第7図 第I文化層実測図 (1/40)

## 2 旧石器時代第Ⅱ文化層

調査区全区で、Kr-Kbを含む褐色土層下部の第Ⅶc層、その下層の第Ⅶ層、AT上部の第Ⅶa層から石器ブロック並びに礫群が出土したことからこの層を第Ⅱ文化層と位置付けた。この層は、石器ブロック3箇所と遺物集中区2箇所、礫群3箇所を抽出するとともにナイフ形石器や角錐状石器を始めとする石器が約1,900点出土した。遺物のピークレベルは第Ⅶ層で、東九州自動車道建設に伴う調査では、「MB1」に相当する。

### (1) F区の調査

#### ① 調査の概要

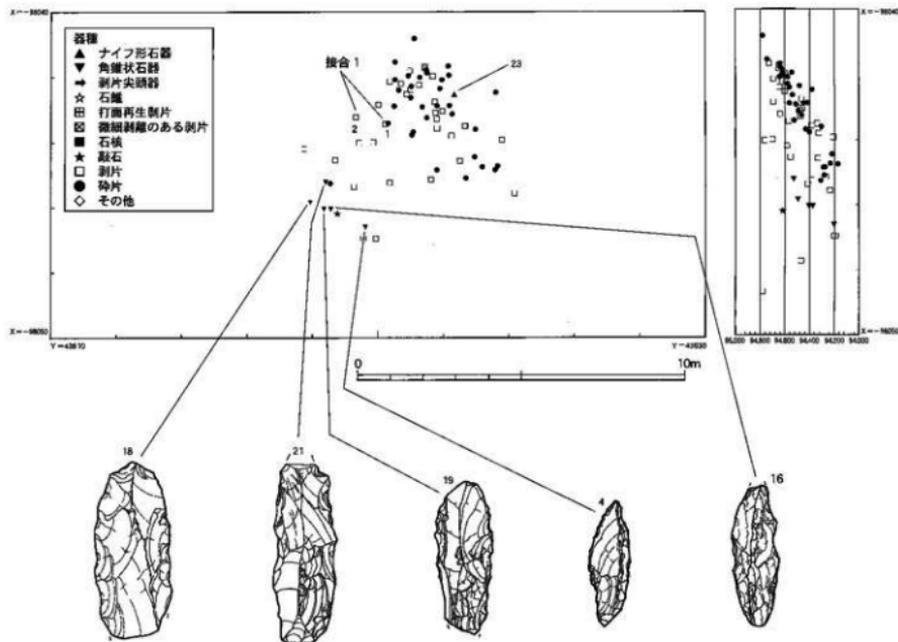
F区は、標高の一番高い調査区で、調査前は斜面を水平に削平して宅地として利用されており、調査

区北側ほど削平が深く、一部はⅦ層まで削平されていた。旧地形は、土層図(第10・11図)で示すように南に傾斜している。遺物は、旧石器時代第Ⅱ文化層である第Ⅶ層に包含され、石器ブロック1箇所を検出した(第9図)。旧石器時代第Ⅰ文化層からは、遺物・遺構とも検出できなかった。

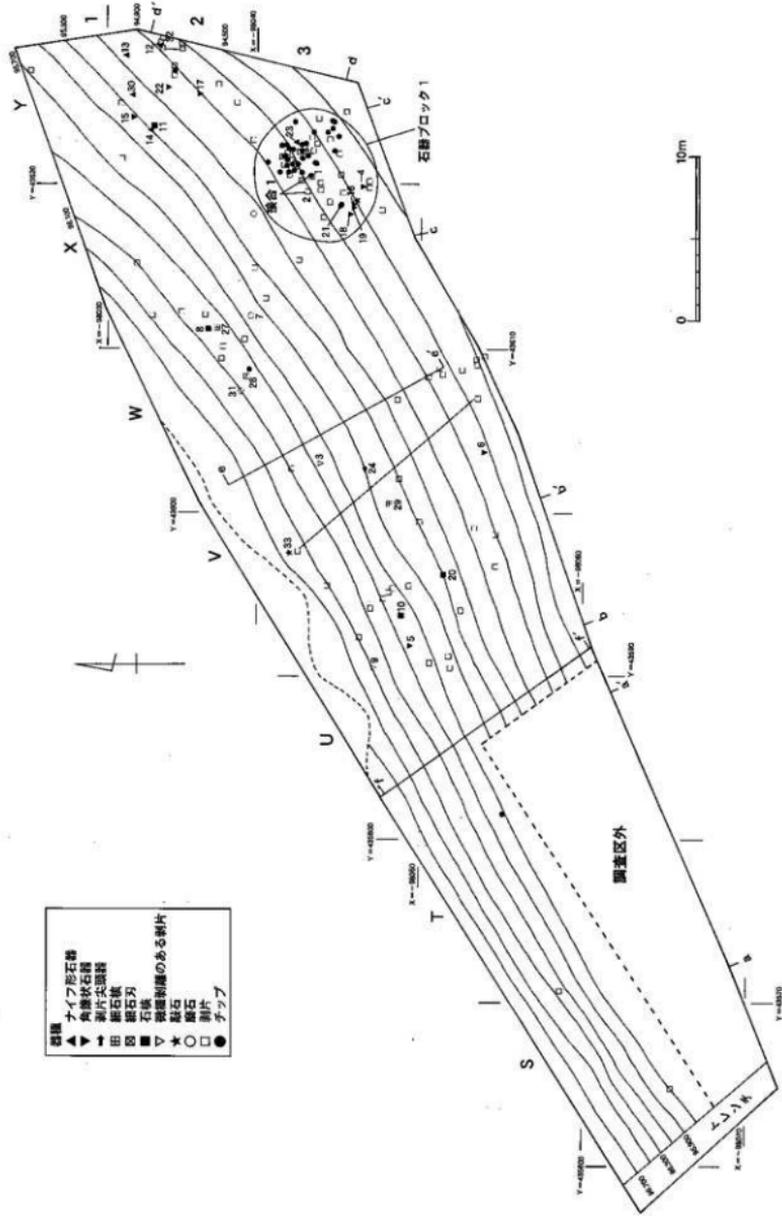
### ② 遺構

#### 石器ブロック1(第8図)

X3グリッドに位置する。長径約7m、短径約5mの範囲に69点の石器が集中して出土した。その組成は、ナイフ形石器1点、角錐状石器5点、敲石1点、剥片30点、砕片32点である。石材は、黒曜石が多い。接合資料が1例ある。

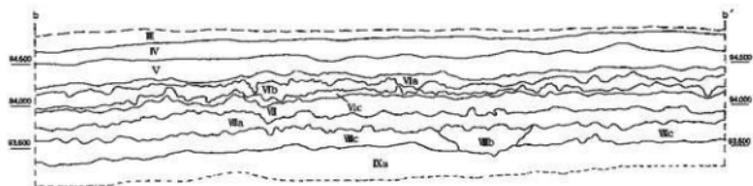
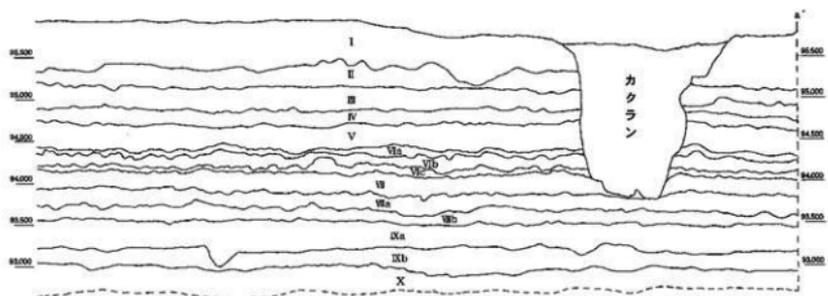
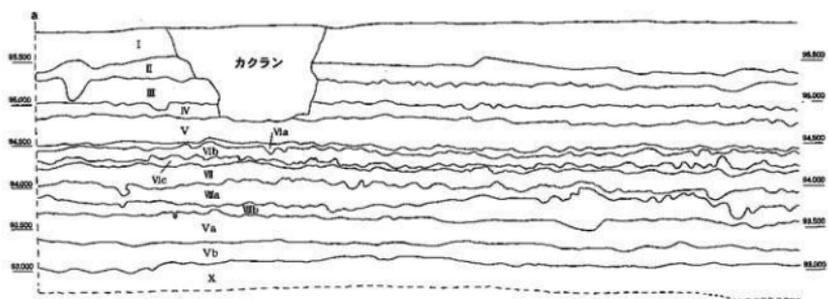


第8図 石器ブロック1分布図(1/150)

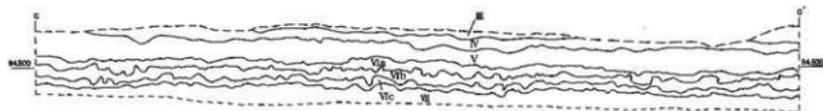


- |   |           |
|---|-----------|
| ▲ | ナイフ形石鏃    |
| △ | 角錐状石鏃     |
| ▶ | 箭片状石鏃     |
| ▫ | 磨石杖       |
| ⊖ | 磨石刀       |
| ▽ | 強硬材質のある銅片 |
| ★ | 銅石        |
| ○ | 磨石        |
| □ | 磨石片       |
| ● | ガラス       |

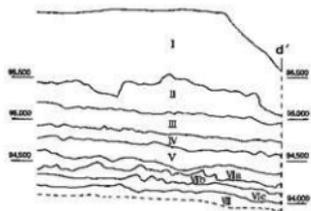
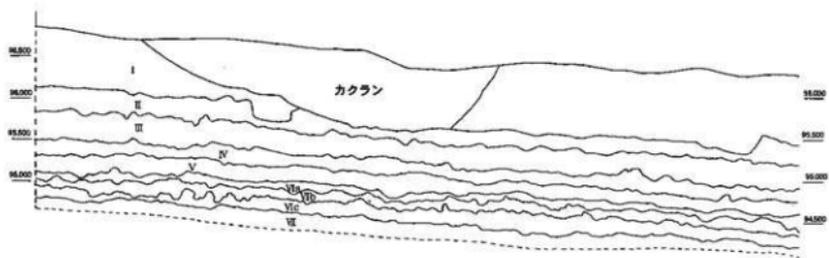
第9図 F区第Ⅰ文化層出土石器分布図 (1/300)



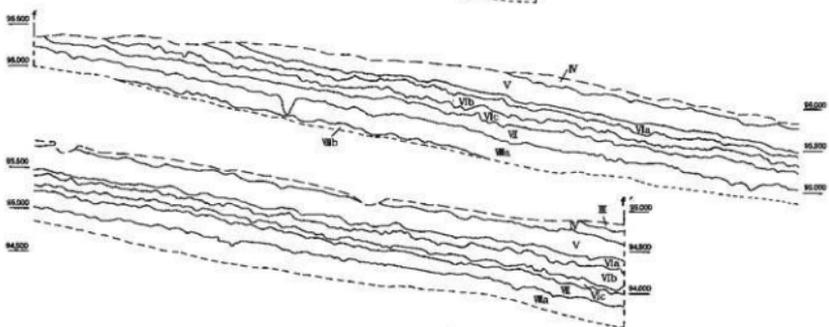
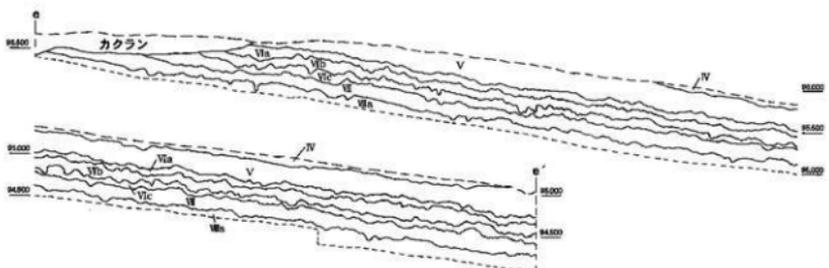
0 2m



第10図 F区土層断面図1 (1/60)



0 2m



第11図 F区土層断面図2 (1/60)

	ナイフ形 石器	角錐状 石器	剥片 尖頭器	細石刃	細石核	微細剥離の ある剥片	石核	磨石	剥片 碎片	計
頁岩 A		3				1		2	27	33
頁岩 B										0
頁岩 C							1		1	2
流紋岩 A						1	1			2
流紋岩 B									1	1
流紋岩 C									5	5
流紋岩 D							1			1
黒曜石	1		1	1	2				59	64
チャート	1									1
砂岩								3		3
尾鈴山酸性岩								1		1
ホルンフェルス	3	7					1	1	25	37
計	5	10	1	1	2	2	4	7	118	150

第3表 F区第II文化層石器石材組成

### ③ 遺物

出土した遺物は、総数150点であり、内訳は第3表のとおりである。それらの石材は、頁岩35点、流紋岩9点、黒曜石64点、チャート1点、砂岩3点、尾鈴山酸性岩1点、ホルンフェルス37点である。黒曜石が卓越しているが、ほとんどは、碎片である。

これらの石器の分布は、調査区西部を除いて満遍なく出土するが、X3グリッドの近くに石器ブロックが見られる。このうち6点が3個体の接合資料となった(第9図)。

#### 【頁岩製石器】(第12・18・19図1~8)

遺物は、頁岩Aが33点、頁岩Cが2点を数える。分布状況は、調査区東側に偏る。

1・2は、剥片の接合で、2は両極打法によって作出されている。

3は、微細剥離のある剥片で、両側縁に裏面からと表面からの調整加工が施されている。

4~6は、角錐状石器である。4は、表面の一面に稜上側からと裏面から調整加工が施される。

5・6は、表面の一面に稜上側からと裏面側から調整加工が、もう一面には裏面側から調整加工が施されている。

7は、磨石で表面に磨面が観察される。

8は、頁岩C製の石核である。打面を転移しながら不定形の剥片を作出している。

#### 【流紋岩製石器】(第13・20図9~11)

流紋岩製の石器は8点と少ないが、調査区の広範囲から出土している。

9は、流紋岩A製で、表面の側縁に裏面側からと表面からの調整加工が見られ、もう側縁に裏面側からの調整加工が見られる。

10は流紋岩D製で、細石刃核を作ろうとして礫面を調整していたが、調整しきれず破棄したものと推察される。

11は流紋岩A製で、打面を作り、小型の縦長剥片を作出したあとが観察される。

#### 【ホルンフェルス製石器】(第14・21~23図12~22)

ホルンフェルス製の石器は、37点出土し、その出土範囲は調査区中央部及び東部に限られる。11点を図化した。

12と13は、二側縁加工のナイフである。縦長剥片を素材とし、基部がやや丸みを帯びている。

14は、側縁加工のナイフである。基部調整が行われている。

15~19は、角錐状石器である。15と16・17は、表

面の二面とも稜上側からと裏面側から調整加工が施されている。16は、裏面の先端部に平坦剥離が施されている。17は、裏面に平坦剥離が施されている。

18と19は表面の二面とも裏面側から調整加工が施されている。18は、裏面に平坦剥離が施されている。

21と22は、表面の一面に稜上側からと裏面側から調整加工が、もう一面には裏面側から調整加工が施されている。ともに裏基部に平坦剥離が施されている。

20は石核で、打面を転移しながら不定形の剥片を作出している。

#### 【黒曜石製石器】(第15・23図23~29)

黒曜石は64点出土し、そのうち58点が南東部のX3グリッドの石器ブロックを中心に出土している。

23は、ナイフ形石器で先端部のみで、基部が欠損している。

24は剥片尖頭器で、両側縁に裏面側から調整加工が施されている。先端部が欠損している。

25と26は、細石刃である。26は、佐賀腰岳産と思われる黒曜石で一部自然面が残る。25は、第三次確認調査の第4トレンチから出土した。

27~29は、細石核である。27と28は、裏面の整形に横方向からの調整剥離が施され、作業面の正面観がやや方形をなす。28は、攪乱からの出土である。29は、作業面の正面観が逆三角形をなしている。

#### 【その他の石材製石器】(第16・23~24図30~34)

30は、チャート製のナイフ形石器である。一側縁加工のナイフで先端部が欠損している。

31は、砂岩製の台石である。表面に浅い窪みが観察される。両側面には、敲打痕が観察され、敲石としても使用されていたと推察される。

32と34は、砂岩製の磨石である。表面に磨面が観察される。

33は、尾鈴山酸性岩製の敲石である。礫の一端に敲打痕が観察される。

#### 礫(第17図)

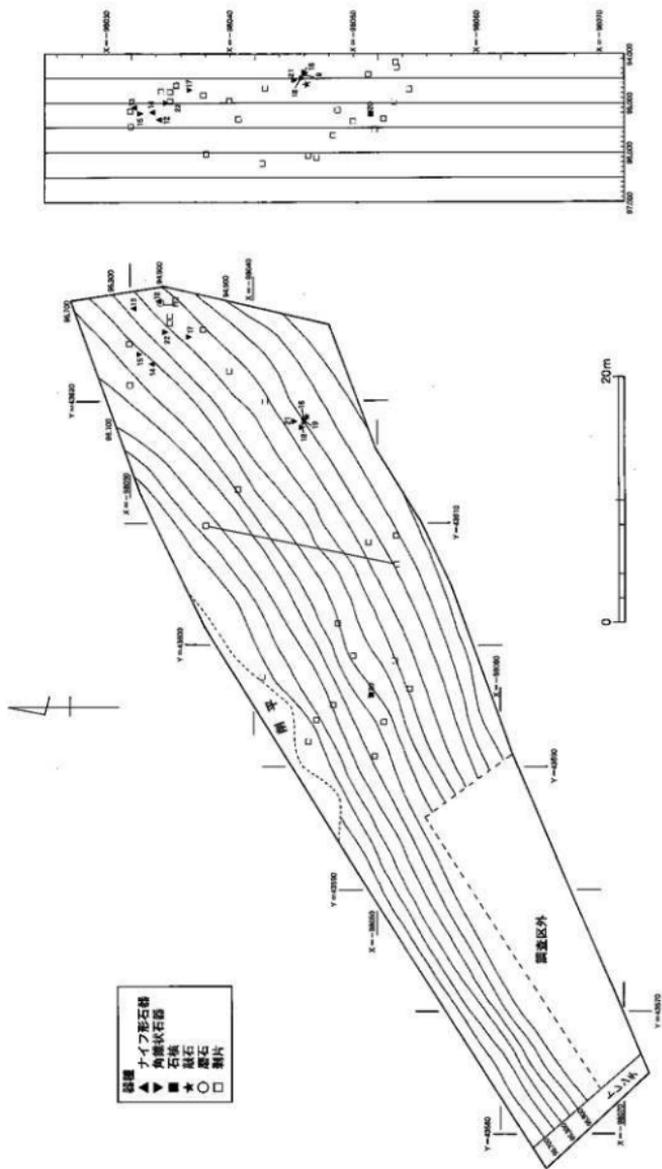
礫は188点出土し、総重量85,933gを量る。個体数はホルンフェルスが42% (79点)、砂岩が42% (79点)を占め、次いで尾鈴山酸性岩の順になる。重量別では、ホルンフェルスが50%、1個体の重量の大きい尾鈴山酸性岩が27%を占める。赤化度に関しては、赤化しているものが60%に達するが、礫群は検出できなかった。完形度では、破砕礫が82%となる。また、31点が接合し、11個体となった。分布状況においては、調査区中央及び東部に偏りが見られる。調査区西部からは、石器同様ほとんど出土しなかった。

石 材	個数 (個)	重量 (g)	円磨度				赤化度				完形度			形状			黒色付 着物	
			円	歪 円	歪 角	角	非	弱	中	強	A	B	C	棒	扁 平	球	有	無
頁 岩	5	4,385	1	0	1	3	4	0	0	1	3	0	2	0	3	2	0	5
砂 岩	79	15,168	3	33	34	9	32	23	15	9	8	13	58	12	53	14	1	78
尾鈴山酸性岩	24	23,493	7	10	7	0	10	11	3	0	7	5	12	2	9	18	0	24
ホルンフェルス	79	42,557	3	23	42	11	27	24	18	10	14	13	52	14	36	29	1	78
そ の 他	1	130	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
計	188	85,933	15	66	84	23	73	59	36	20	33	31	124	28	101	59	2	186

第4表 F区第II文化層礫石材別観察表



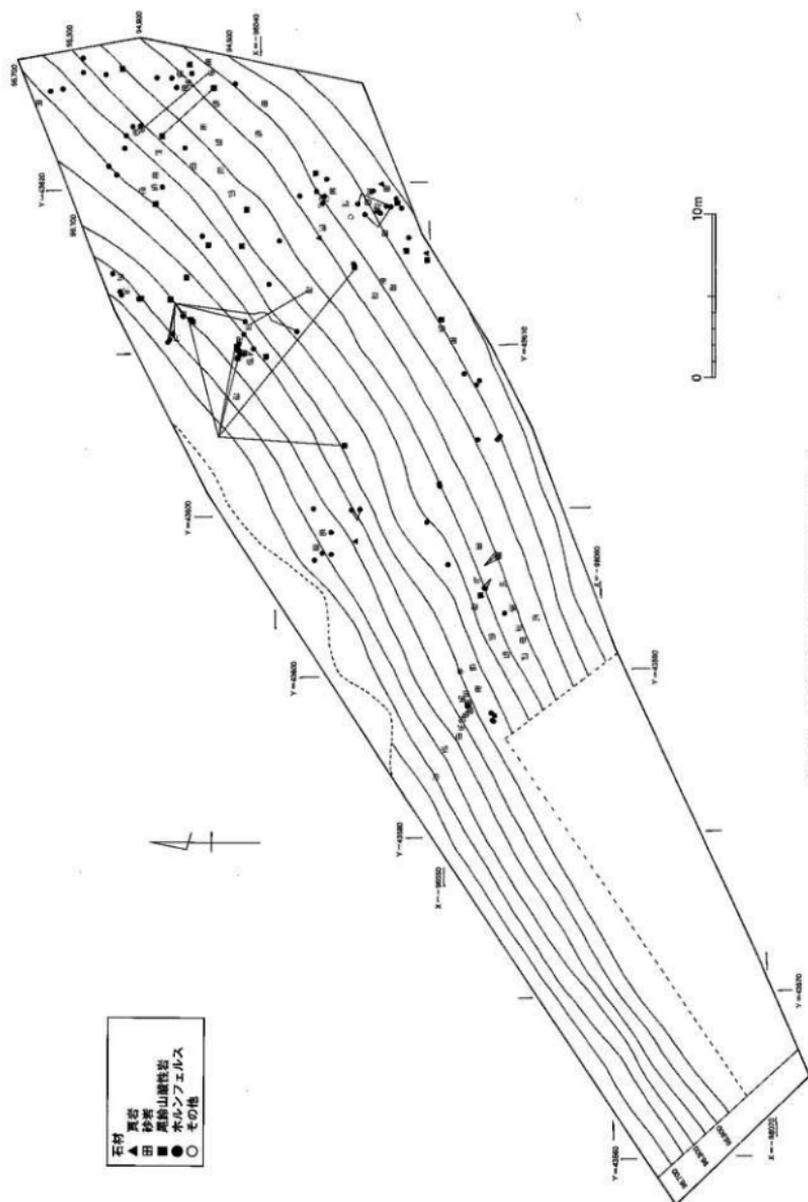




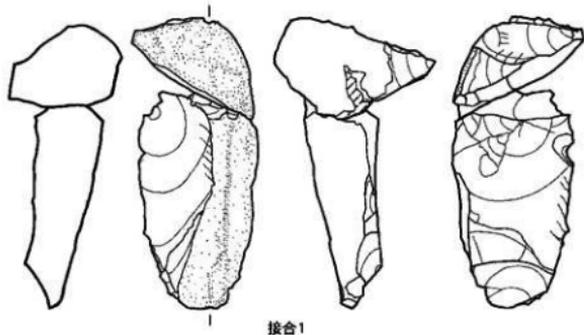
第14図 F区第Ⅱ文化層出土石器分布図〔ホルンフェルス〕(1/400)



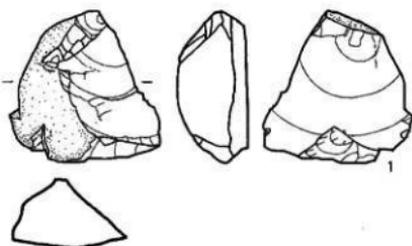




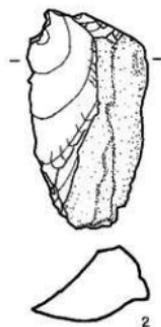
第17図 F区第Ⅱ文化層出土層分布図 (1/300)



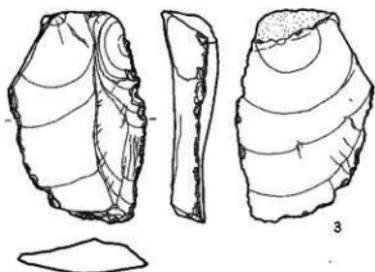
接合1



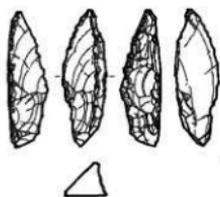
1



2



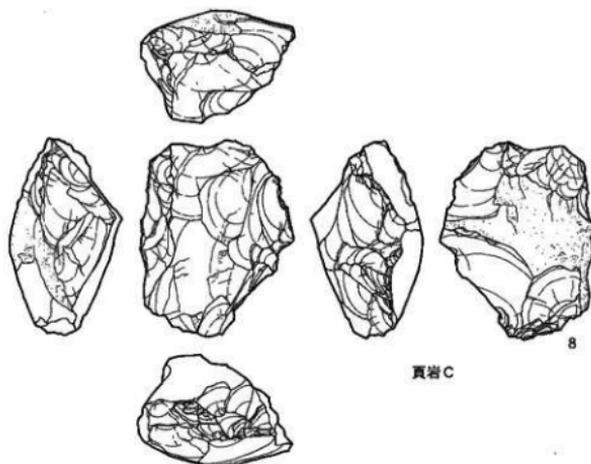
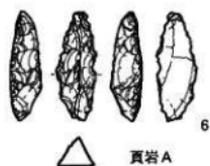
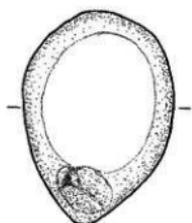
3



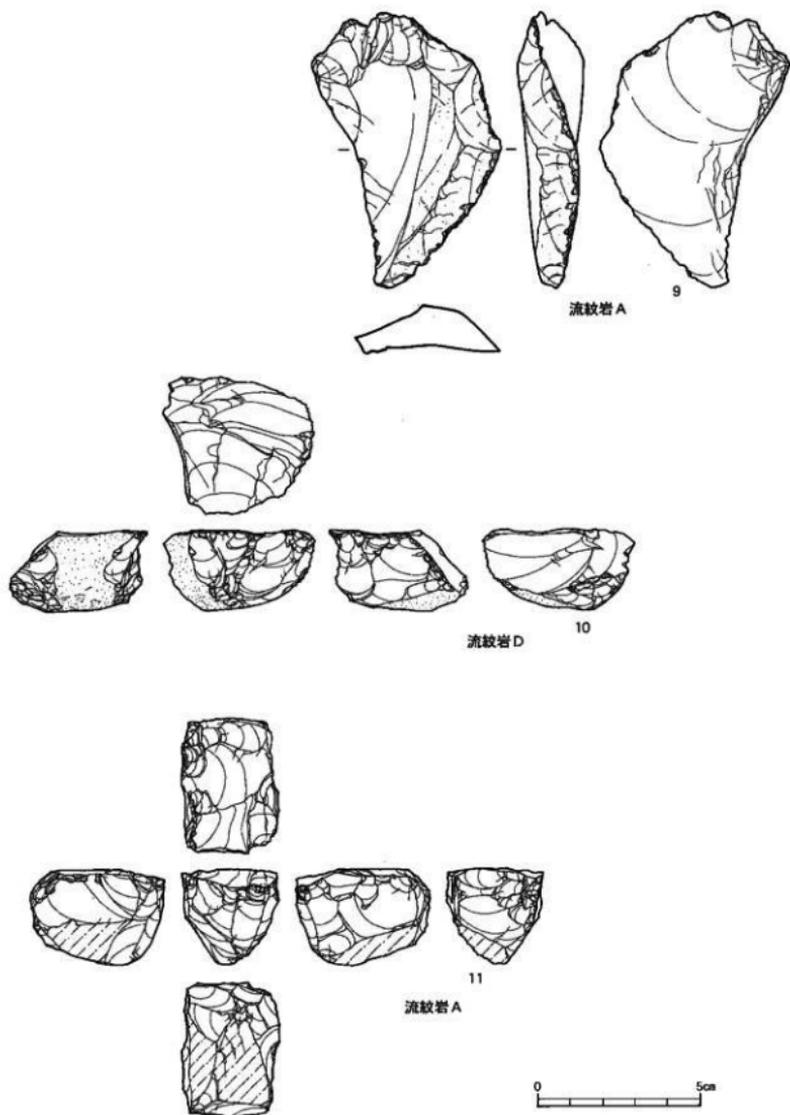
4



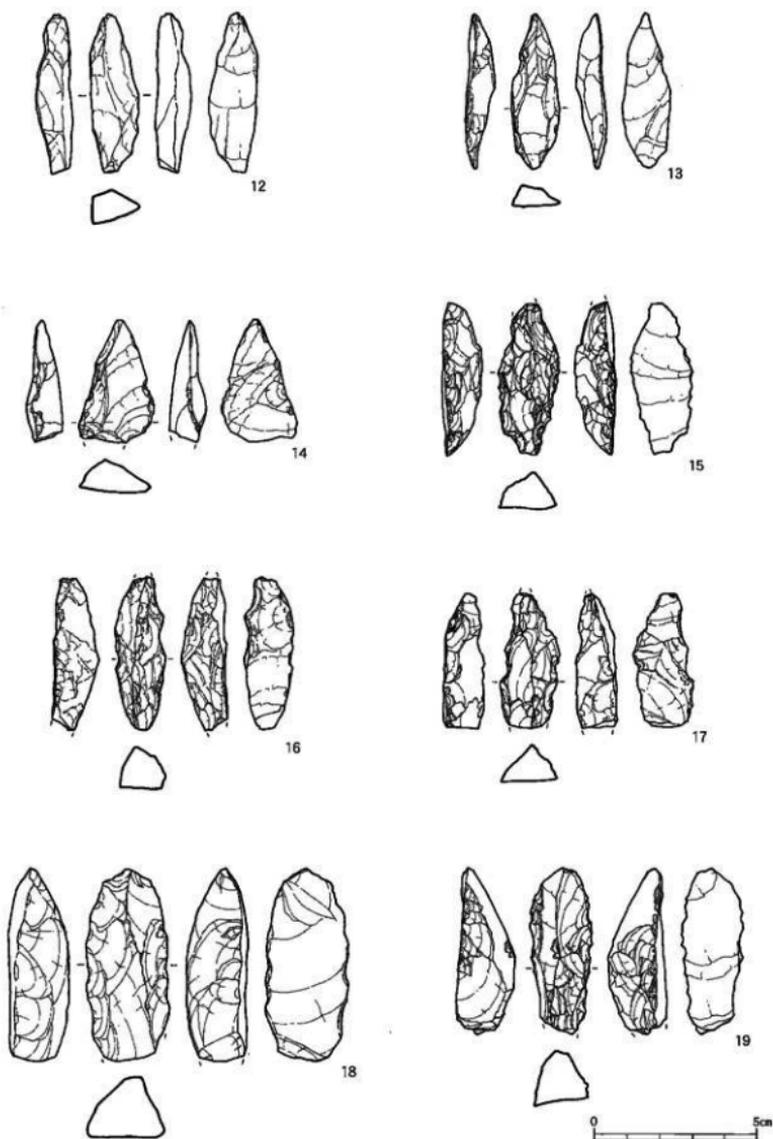
第18图 F区第I文化层石器实测图 [页岩A] (2/3)



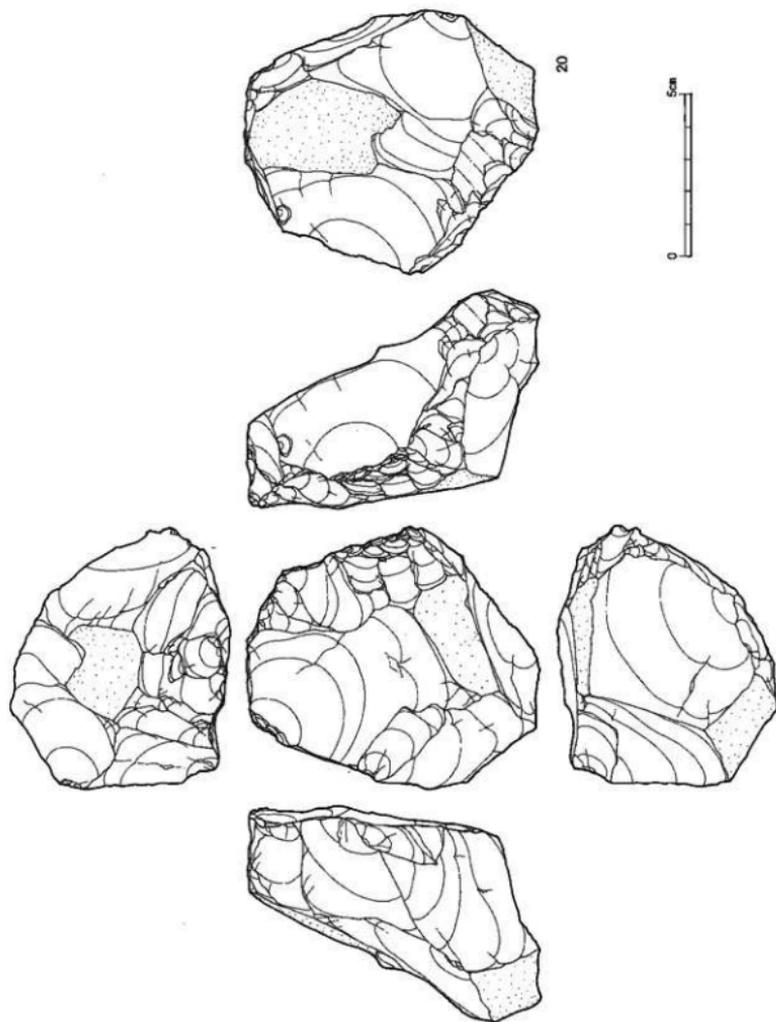
第19圖 F区第II文化層石器実測図 [頁岩A・C] (2/3)



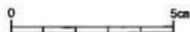
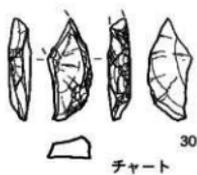
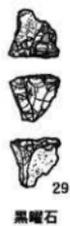
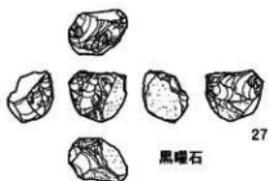
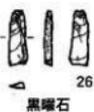
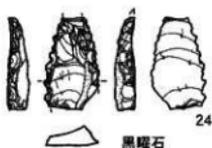
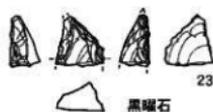
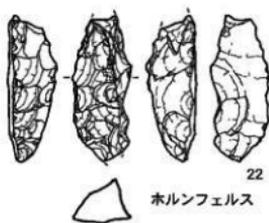
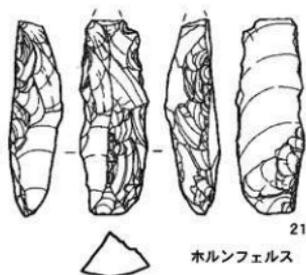
第20图 F区第II文化层石器实测图 [流纹岩A·D] (2/3)



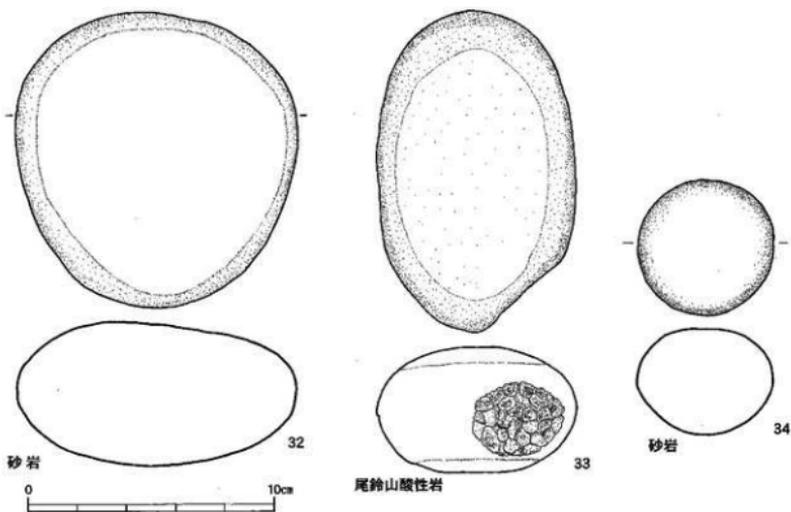
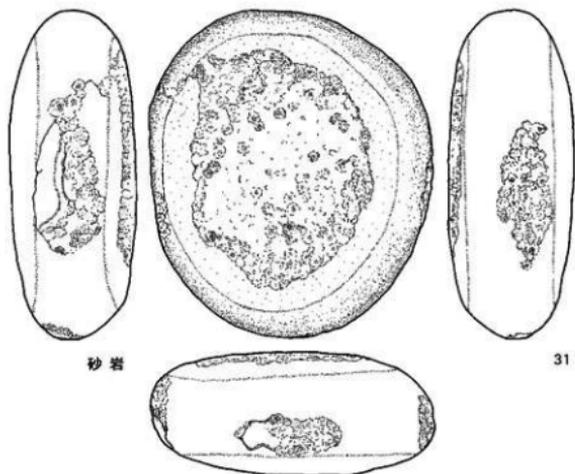
第21図 F区第Ⅱ文化層石器実測図 [ホルンフェルス] 1 (2/3)



第22図 F区第Ⅰ文化層石器実測図〔ホルンフェルス〕2 (2/3)



第23図 F区第Ⅰ文化層石器実測図 [ホルンフェルス・黒曜石・チャート] (2/3)



第24図 F区第Ⅰ文化層石器実測図 [その他の石材] (1/2)

## (2) G区の調査

### ① 調査の概要

G区はF区より一段低く、調査区の中央に位置し、調査前は斜面を水平に削平して畑地として利用されており、調査区北側ほど削平が深く、一部はⅤ層まで至っていた。土層図(第27・28図)で示すように南に傾斜している。遺物は、旧石器時代Ⅱ文化層であるⅤ層に包含され、石器ブロックと礫群を各1基検出した(第26図)。

### ② 遺構

#### 石器ブロック2(第25・26図)

調査区中央部のU6グリッドに位置する。径約6mの円形の範囲に32点の石器が集中して出土した。これは、位置的にはほぼSI1と重なっており、このうち剥片15点はSI1に伴って出土した。

これらの石器の組成は、ナイフ形石器2点、蔽石1点、微細剥離のある剥片1点、剥片26点、碎片2点である。このうち5点が接合し、2個体の接合資

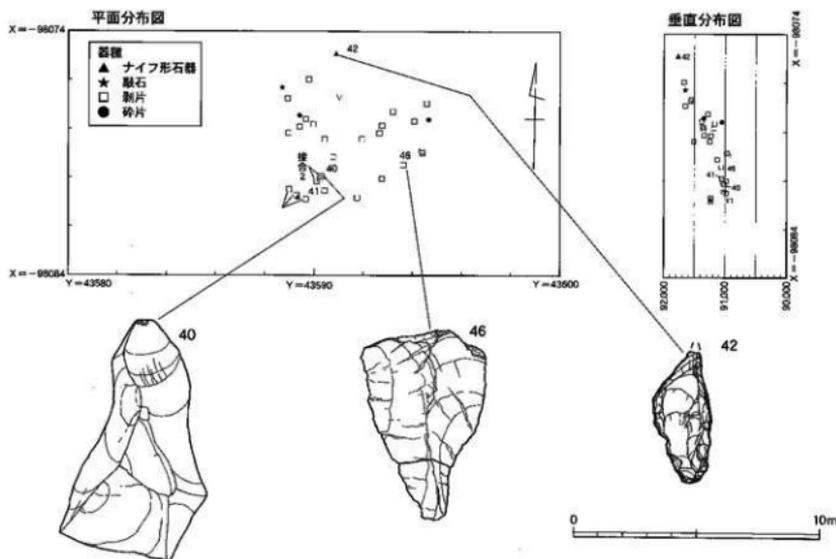
料となった。1点を図示した。

#### SI1(第26・29図)

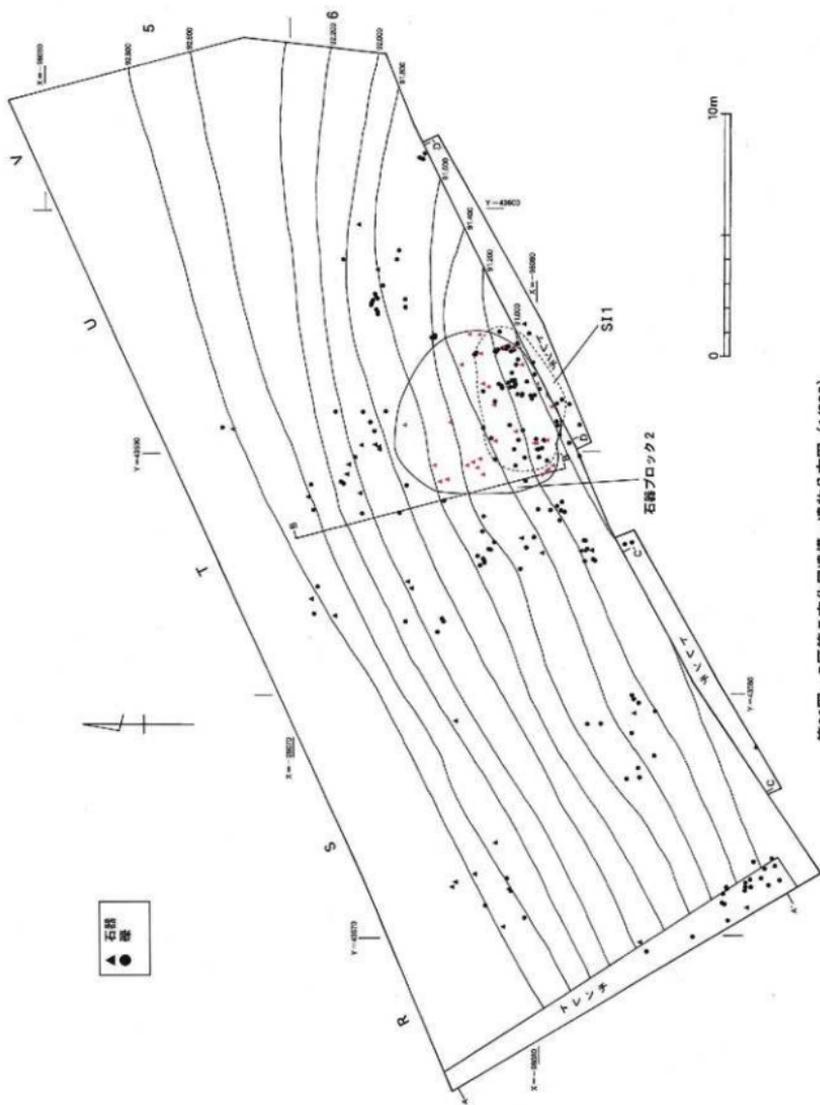
U6グリッドの緩斜面上に位置する。径約7m×約3.5mの範囲内に、剥片15点と礫59点で構成される。礫58点のうち約6割を砂岩が占め、完形度は低いが、7割以上に赤化が見られる。尾鈴山酸性岩は、7点と少ないが1個体当たりの平均重量が一番重く2kgを超える。

礫の接合関係を調べた結果29点、全体の約53%の礫が接合した。このうち14個が一つの個体として接合しほぼ完形の砂岩となったものもある。礫群外の5点の礫とも接合が見られ、違いのもので約6m40cm離れていた。

剥片15点の石材は、頁岩a6点、ホルンフェルス5点、流紋岩c・流紋岩d・黒曜石・尾鈴山酸性岩それぞれ1点である。うち2点が接合した。この接合資料と剥片1点を図示している(第37~39図)。

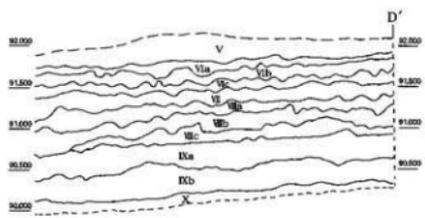
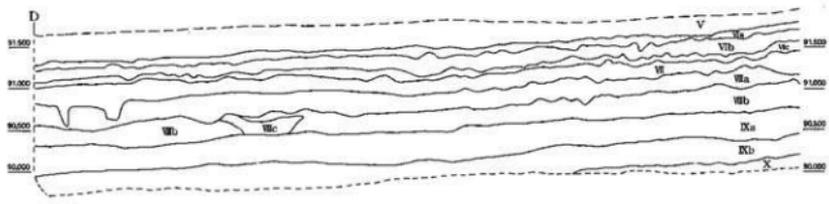
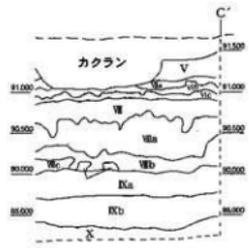
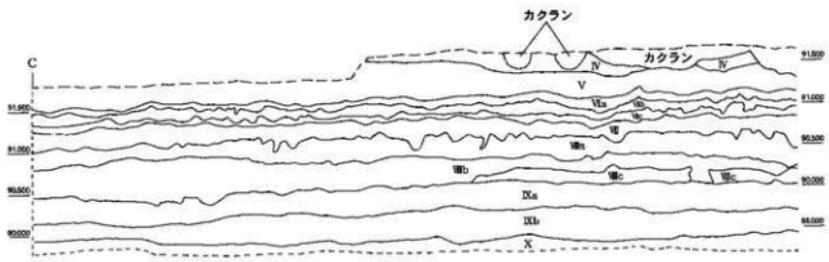


第25図 石器ブロック2 (1/200)

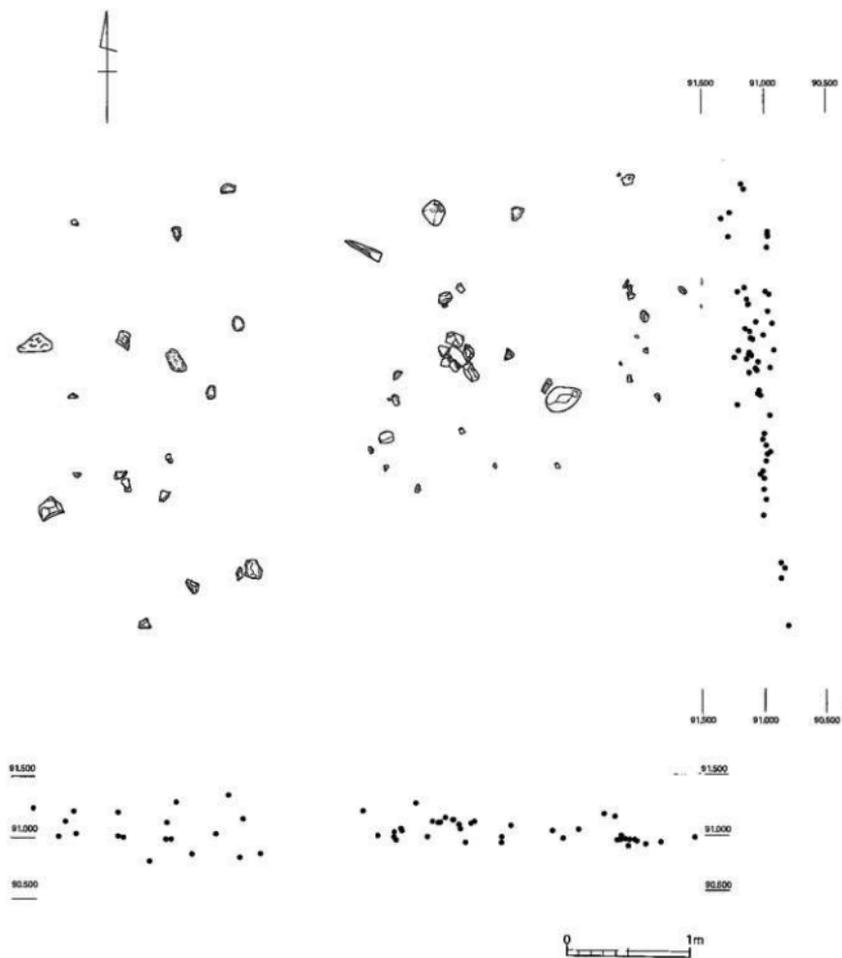


第26図 G区第Ⅱ文化層遺構・遺物分布図 (1/200)





第28図 G区土層断面図2 (1/60)



第29図 SI 1 実測図 (1/40)

			円磨度				赤化度				完形度			形状			黒色付着物		
石 材	個数 (個)	重量 (g)	円	垂	歪	角	非	弱	中	強	A	B	C	棒	扁	球	有	無	
			円	円	角	角									平				
頁 岩	1	10				1	1						1	1					1
砂 岩	35	28,425	1	7	22	5	8	23	4		4	8	23	9	18	8			35
尾鈴山酸性岩	7	14,620	2	2	3		1	2	2	2	2	1	4	1	2	4			7
ホルンフェルス	14	9,074	1	7	5	1	6	3	2	2		4	10	1	7	6			14
そ の 他	1	490				1			1			1				1			1
計	58	52,619	4	16	31	7	16	28	9	5	6	14	38	12	27	19	0	58	

第5表 S11石材別観察表

重量以外は個数

### ③ 遺物

出土した遺物は、総数63点あり、内訳は第6表のとおりであり、剥片・碎片が78%を占める。それらの石材は、頁岩系が43%、ホルンフェルス24%、流紋岩系16%である。

これらの石器の分布は散漫であるが、調査区中央南部に石器ブロック2が見られる(第26図)。

石材による分布の傾向は、確認されなかった。このうち5点が2個体の接合資料となった。

#### 【頁岩製石器】(第30・36図35~37)

35は、頁岩A製の切出し形のナイフ形石器である。

二側縁に刃潰し加工を施して、刃部を斜めに作り出している。

36は、頁岩A製の一面加工の角錐状石器である。稜上側からと裏面側から調整加工が施されている。また、先端部が欠損している。

37は、頁岩B製の微細剥離のある剥片である。裏面からの微細剥離が観察される。

#### 【流紋岩製石器】(第31・36図38~39)

39は、流紋岩B製の角錐状石器である。表面の二面とも後上側からと裏面側から調整加工が施されている。裏面基部に平坦剥離が施されている。

	ナイフ形 石 器	角錐状 石 器	剥片 尖頭器	細石刃	細石核	微細剥離の ある剥片	石 核	敲 石 磨 石	剥 片 碎 片	計
頁 岩 A	2								24	26
頁 岩 B						1				1
頁 岩 C										
流 紋 岩 A						1				1
流 紋 岩 B		1							1	2
流 紋 岩 C									4	4
流 紋 岩 D									3	3
黒 曜 石		1		1					3	5
チャート										
砂 岩								4		4
尾鈴山酸性岩								1	1	2
ホルンフェルス	2								13	15
計	4	2		1		2		5	49	63

第6表 G区第II文化層石器石材組成

【ホルンフェルス製石器】(第32・37~39図接合2・40~42)

40と41は、長大の縦長剥片同士の接合である。40・41とも約10cmを測る。

42は、切出し形のナイフ形石器である。二側縁に刃澁し加工を施して、刃部を斜めに作り出している。

【その他の石材製石器】(第33・39~40図43~50)

43は、確認調査出土の黒曜石の原石である。最長4.8cmで重量は9.8gを測る。一部に礫面が残る。

44は、黒曜石製の二面加工の角錐状石器である。表面の一面に稜上側からと裏面側から調整加工が、もう一面には裏面側から調整加工が施されている。先端・基部ともに欠損している。

45は、黒曜石製の細石刃である。

46は、尾鈴山酸性岩製の縦長の剥片である。尾鈴山酸性岩製の石器は2点のみの出土であった。

47・48・50は、砂岩製の敲石である。両端に敲打痕が観察される。

49は、尾鈴山酸性岩製の敲石である。一端に敲打痕が観察される。半分は欠損している。

礫(第7表、第35図)

礫は112点出土し、総重量110,407gを量る。個体数はホルンフェルスが56%を占め、次いで砂岩、尾鈴山酸性岩の順になる。重量別では、尾鈴山酸性岩が50%を占め、ホルンフェルスが31%を占める。平均重量では、尾鈴山酸性岩が2,102gと突出して重い。

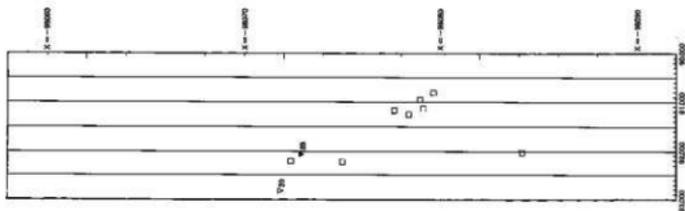
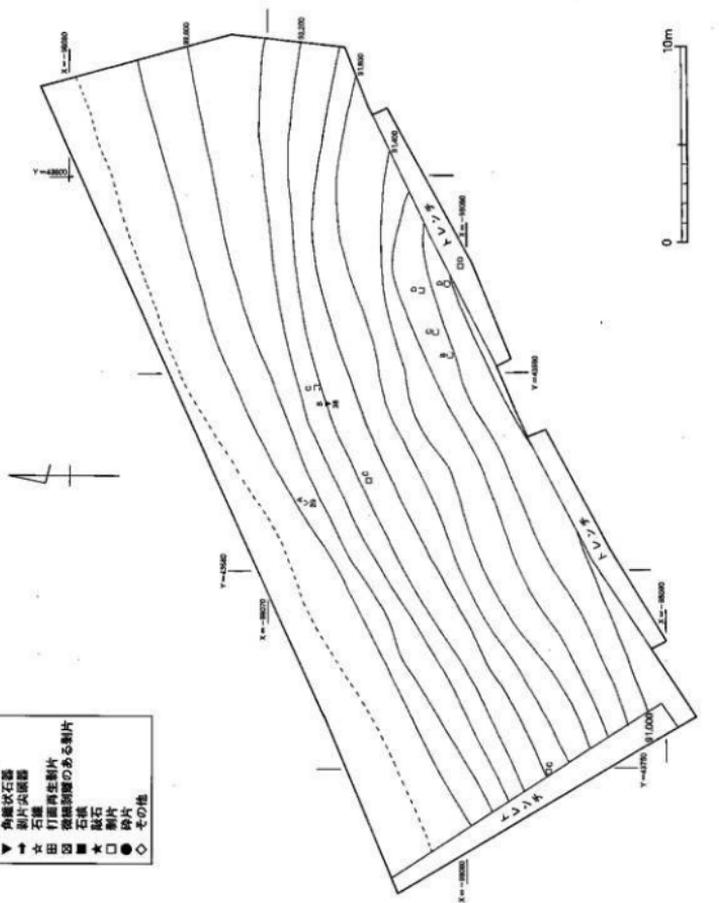
赤化度に関しては、赤化しているものが66%に達し、礫群が1基検出した。さらに、34点が接合し、13個体となった。分布状況からは、調査区中央部と西部に偏って出土していることが分かる。

石 材	個数 (個)	重量 (g)	円 磨 度				赤 化 度				完 形 度			形 状			黒 色 付 着 物	
			円	垂 円	垂 角	角	非	弱	中	強	A	B	C	棒	扁 平	球	有	無
頁 岩	6	1,882	3	1	2	0	6	0	0	0	1	0	5	0	0	3	0	6
砂 岩	29	21,505	3	7	15	4	10	11	3	5	5	5	19	2	15	12	0	29
尾鈴山酸性岩	28	71,274	5	7	13	3	8	14	4	2	4	10	14	5	13	10	0	28
ホルンフェルス	49	33,633	6	14	28	1	15	21	11	2	10	6	33	5	33	11	1	48
そ の 他	0	0																
計	112	128,294	17	29	58	8	39	46	18	9	20	21	71	12	64	36	1	111

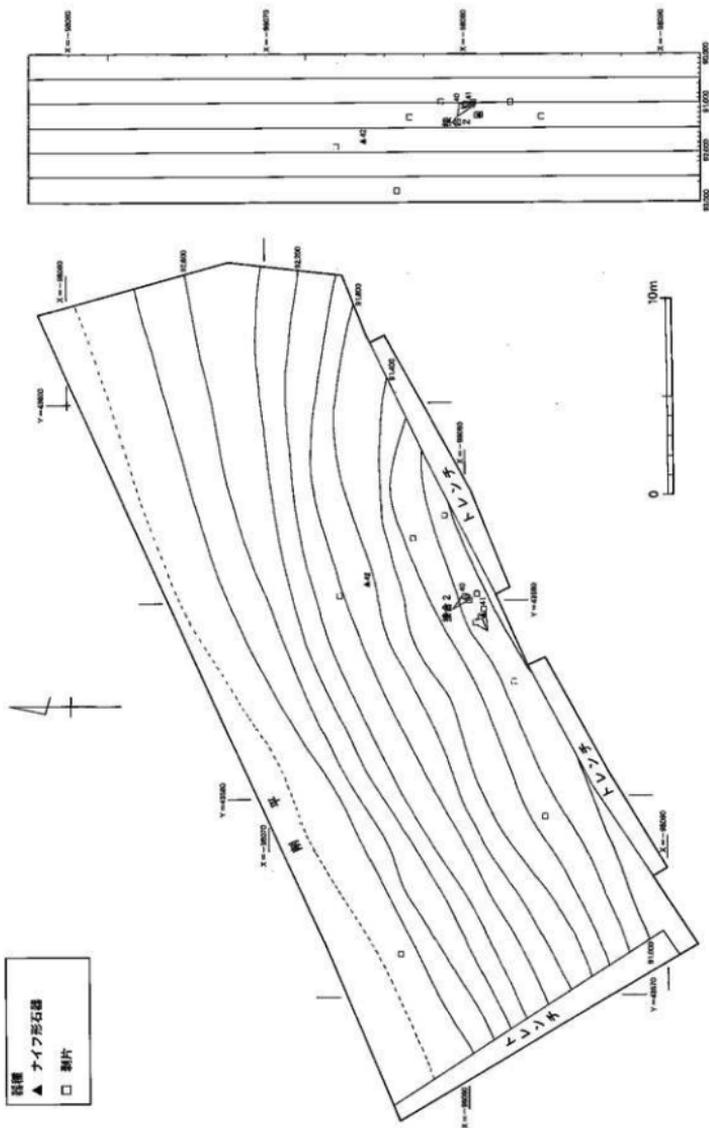
第7表 G区第Ⅱ文化層礫石材別観察表



- ▲ ナイフ形石器  
 ▲ 角礫状石器  
 ● 剥片状石器  
 ● 石鏝  
 ☆ 打面再生剥片  
 ⊕ 複数剥離のある剥片  
 ■ 石核  
 ■ 石炭  
 ■ 燧石  
 □ 剥片  
 ● 燧片  
 ◇ その他

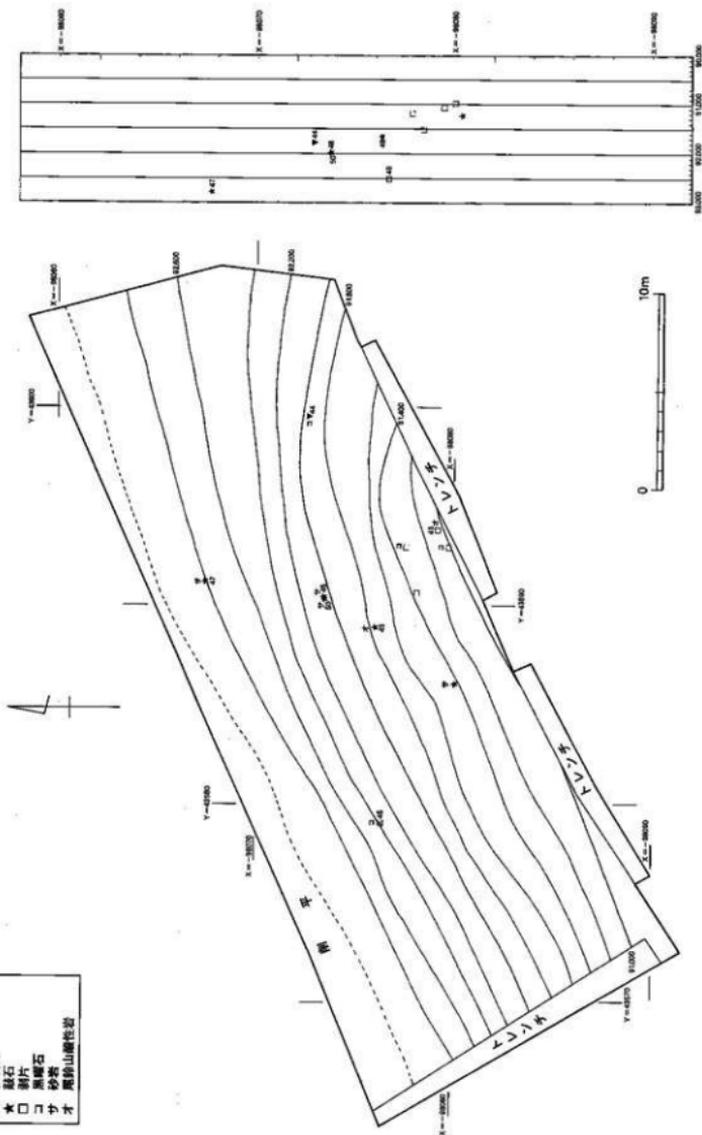


第31図 G区第Ⅱ文化層出土石器分布図〔濠鏡岩〕(1/250)



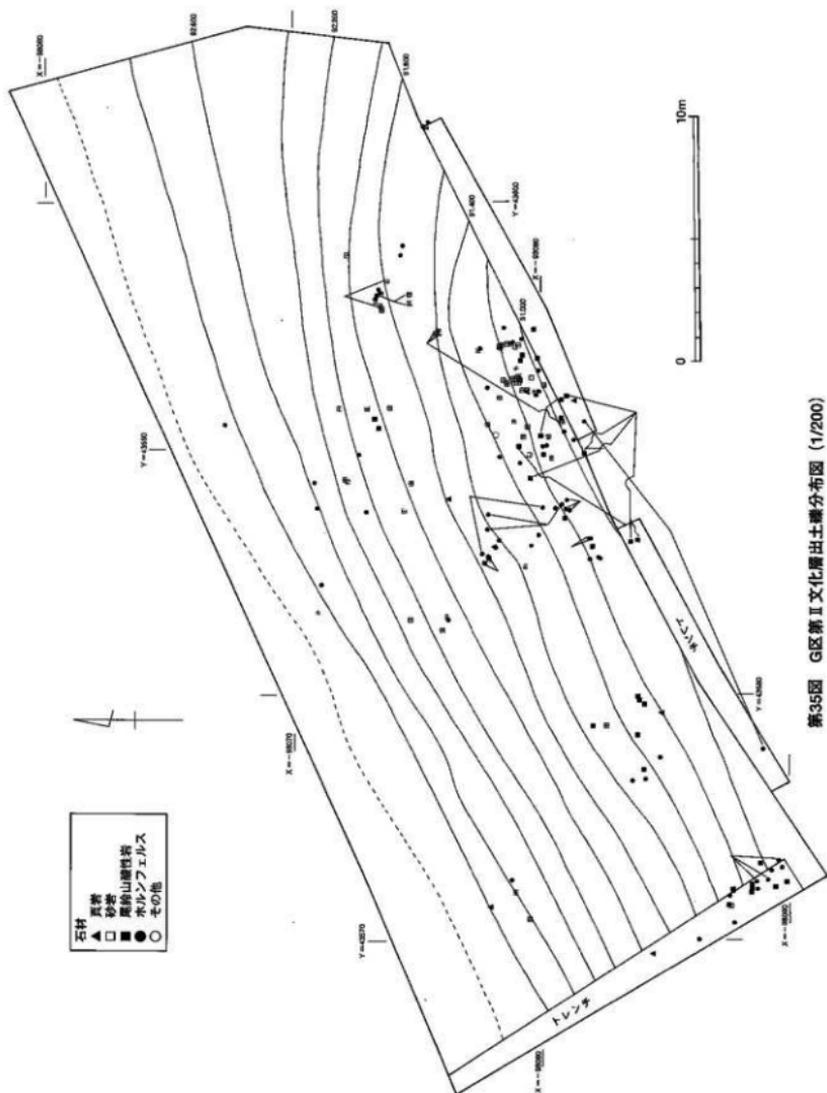
第32図 G区第Ⅱ文化層出土石器分布図〔ホルンフェルス〕(1/250)

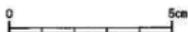
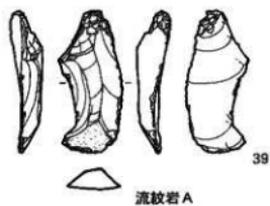
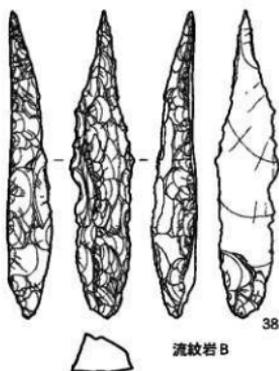
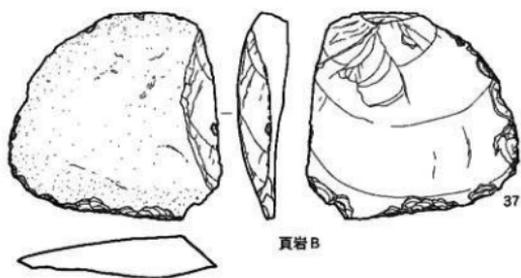
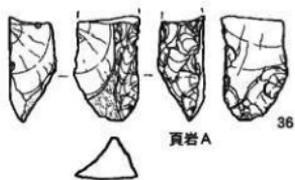
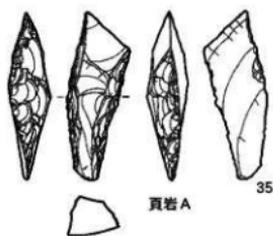
- ① 内陸状石器  
 ② 石片  
 ③ 燧石  
 ④ 燧石  
 ⑤ 燧石  
 ⑥ 燧石  
 ⑦ 燧石  
 ⑧ 燧石  
 ⑨ 燧石  
 ⑩ 燧石  
 ⑪ 燧石  
 ⑫ 燧石  
 ⑬ 燧石  
 ⑭ 燧石  
 ⑮ 燧石  
 ⑯ 燧石  
 ⑰ 燧石  
 ⑱ 燧石  
 ⑲ 燧石  
 ⑳ 燧石  
 ㉑ 燧石  
 ㉒ 燧石  
 ㉓ 燧石  
 ㉔ 燧石  
 ㉕ 燧石  
 ㉖ 燧石  
 ㉗ 燧石  
 ㉘ 燧石  
 ㉙ 燧石  
 ㉚ 燧石  
 ㉛ 燧石  
 ㉜ 燧石  
 ㉝ 燧石  
 ㉞ 燧石  
 ㉟ 燧石  
 ㊱ 燧石  
 ㊲ 燧石  
 ㊳ 燧石  
 ㊴ 燧石  
 ㊵ 燧石  
 ㊶ 燧石  
 ㊷ 燧石  
 ㊸ 燧石  
 ㊹ 燧石  
 ㊺ 燧石  
 ㊻ 燧石  
 ㊼ 燧石  
 ㊽ 燧石  
 ㊾ 燧石  
 ㊿ 燧石  
 ㉑ 燧石  
 ㉒ 燧石  
 ㉓ 燧石  
 ㉔ 燧石  
 ㉕ 燧石  
 ㉖ 燧石  
 ㉗ 燧石  
 ㉘ 燧石  
 ㉙ 燧石  
 ㉚ 燧石  
 ㉛ 燧石  
 ㉜ 燧石  
 ㉝ 燧石  
 ㉞ 燧石  
 ㉟ 燧石  
 ㊱ 燧石  
 ㊲ 燧石  
 ㊳ 燧石  
 ㊴ 燧石  
 ㊵ 燧石  
 ㊶ 燧石  
 ㊷ 燧石  
 ㊸ 燧石  
 ㊹ 燧石  
 ㊺ 燧石  
 ㊻ 燧石  
 ㊼ 燧石  
 ㊽ 燧石  
 ㊾ 燧石  
 ㊿ 燧石



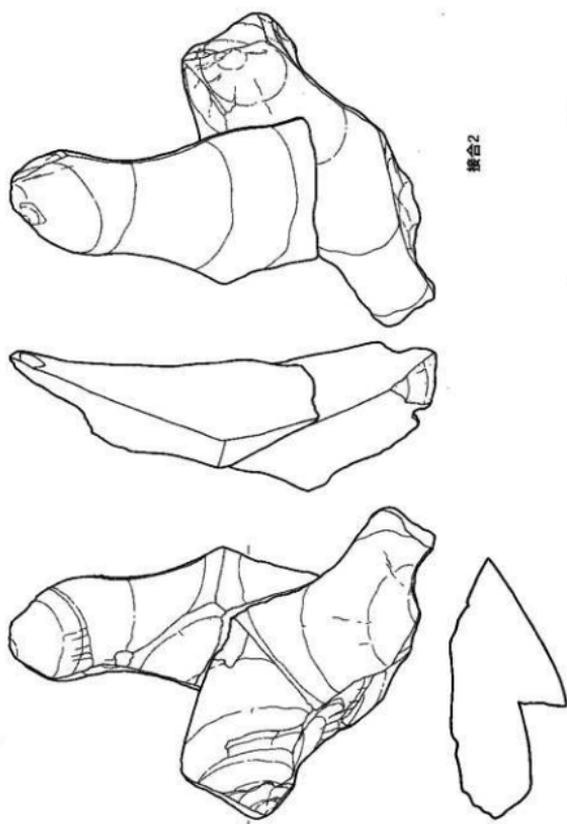
第33図 G区第I文化層出土石器分布図〔その他の石材〕(1/250)



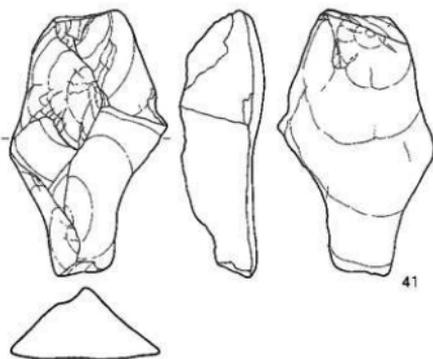
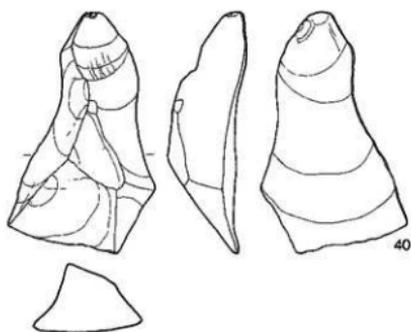




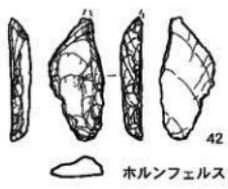
第36图 G区第Ⅱ文化层石器实测图 [頁岩A·B、流紋岩A·B] (2/3)



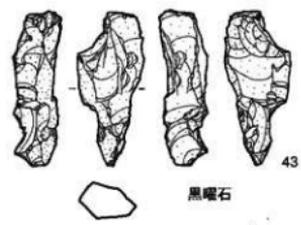
第37図 G区第Ⅰ文化層石部実測図 [ホルンフェルス] 1 (2/3)



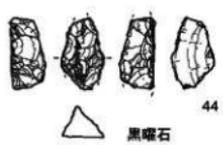
第38図 G区第Ⅱ文化層石器実測図〔ホルンフェルス〕2 (2/3)



ホルンフェルス



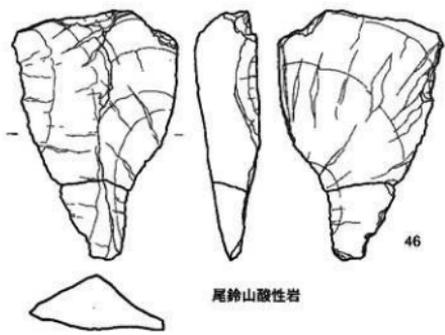
黒曜石



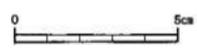
黒曜石



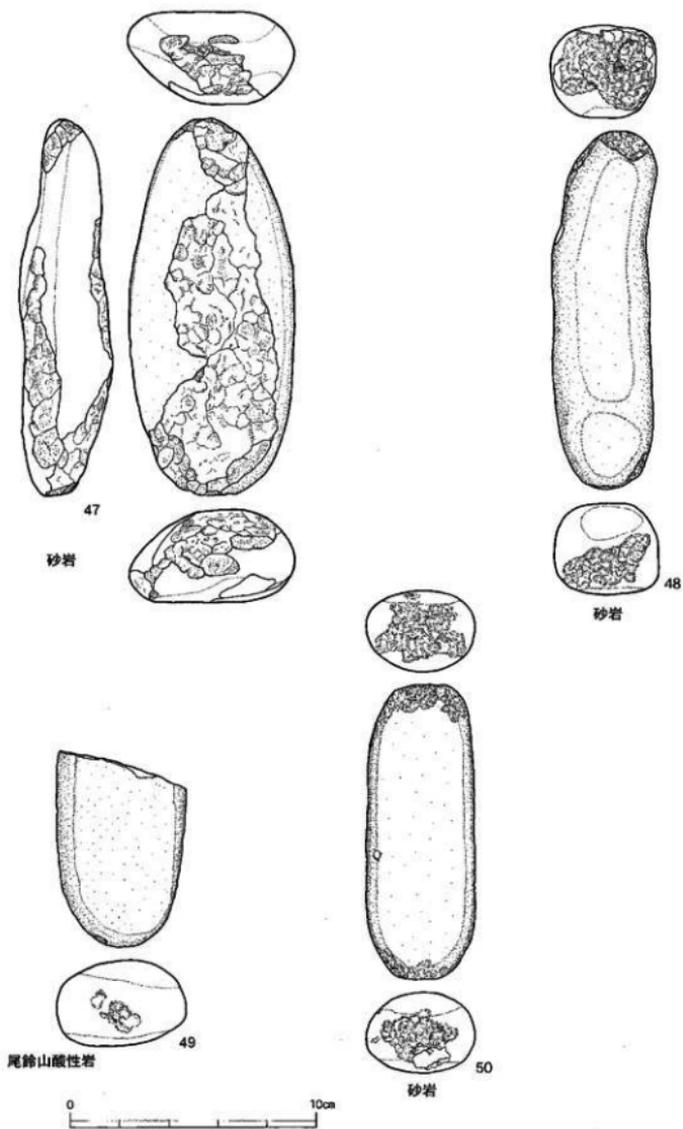
黒曜石



尾鈴山酸性岩



第39図 G区第Ⅱ文化層石器実測図 [その他の石材] (2/3)



第40図 G区第Ⅱ文化層石器実測図【その他の石材】(1/2)

### (3) H区の調査

#### ① 調査の概要

H区は、G区より一段低く、調査区が一番低い位置で、宅地として利用されていたため、調査区北側一部は、Ⅶ層まで削平されていた。旧地形は、土層図(第42・43図)で示すように南に傾斜している。また、西側に谷が入る。遺物は、Ⅶ層に包含され、遺物集中区2箇所、Ⅶc層とⅦ層で礫群を2箇所検出した(第41図)。

#### ② 遺構

##### S I 2 (第44図)

S10グリッド東部に位置し、Ⅶ層で検出した。径約2m×約2.5mの範囲内に、礫61点で構成される。また、G区で検出した礫群と比べると小振りな礫で構成されている。礫61点のうち約7割を砂岩系の礫が占め、完形度は低いが、8割以上に赤化が見られる。詳細は、第8表に示す。礫の接合関係を調べた結果33点、全体の54%の礫が接合した。また、掘り込み及び炭化物もなかった。なお、剥片3点と石核2点を伴って出土した。

位置し、径約1.5m×約1mの範囲内に、剥片1点とS I 3と同程度の大きさの礫39点で構成され、約8割の礫に赤化が見られる。詳細は第9表に示す。礫の接合関係を調べた結果33点、全体の82%の礫が接合した。S I 2より一つ上のⅦc層で検出し、S I 2との接合関係がないことからS I 2より時期的に新しいと考えられる。掘り込みはなかったが赤化礫の周辺に炭化物を数点確認した。

##### 東部遺物集中区

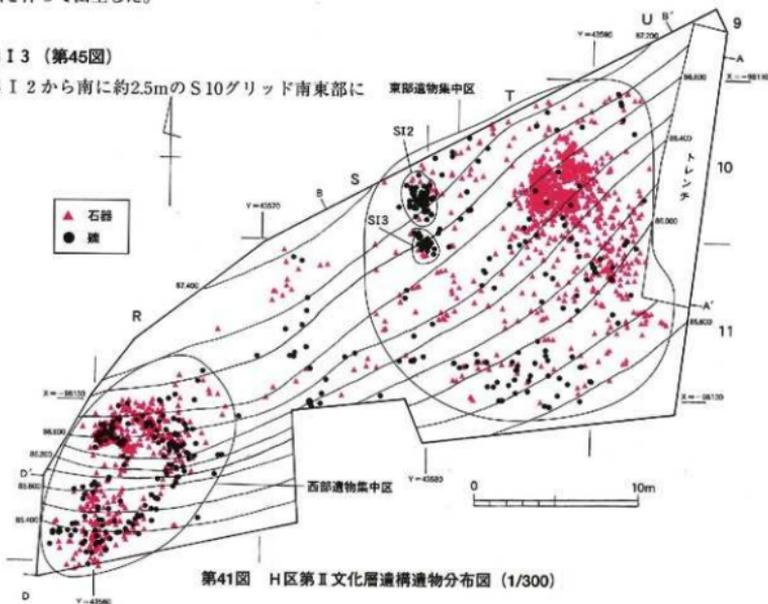
調査区東部の約20m×20mの範囲に約1,100点の遺物が出土した。石材別の主な組成は、頁岩Aが30%、頁岩B10%、ホルンフェルス43%である。詳細は「③遺物」の項で述べたい。

##### 西部遺物集中区

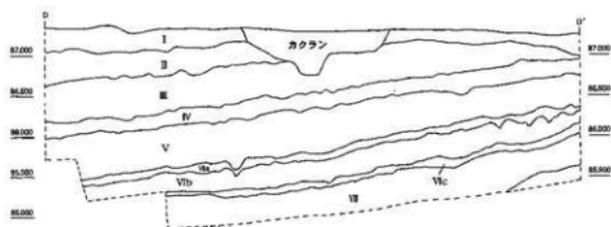
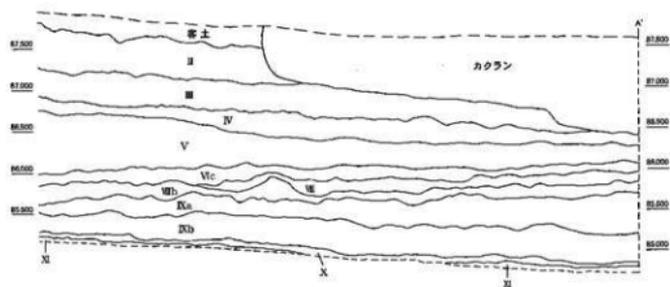
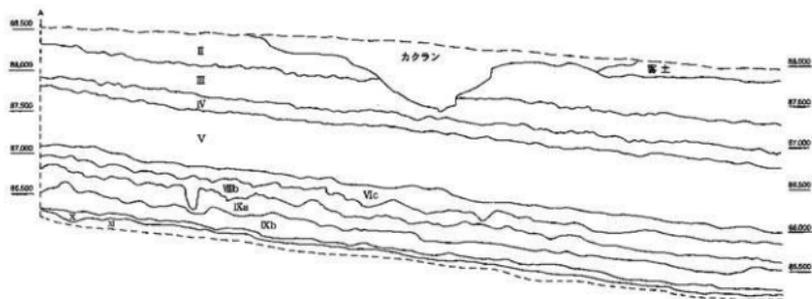
調査区西部の約12m×8mの範囲に約450点の遺物が出土した。石材別の主な組成は、頁岩Aが39%、ホルンフェルス33%、黒曜石11%である。詳細は「③遺物」の項で述べたい。

##### S I 3 (第45図)

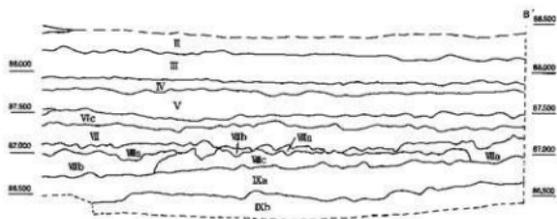
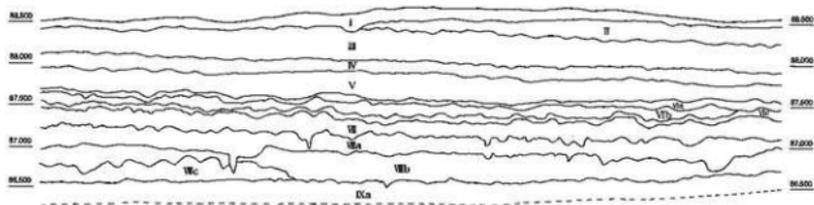
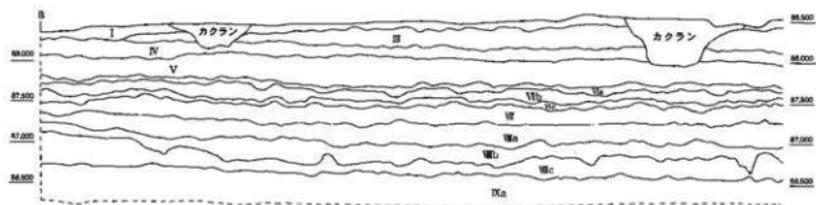
S I 2から南に約2.5mのS10グリッド南東部に



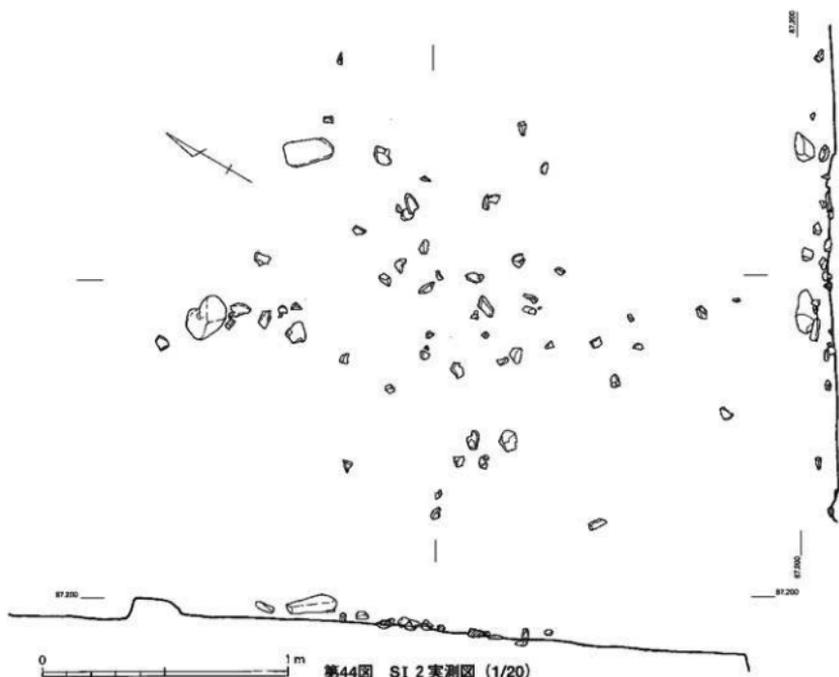
第41図 H区第Ⅱ文化層遺構遺物分布図(1/300)



第42図 H区土層断面図1 (1/60)



第43図 H区土層断面図2 (1/60)



第44图 SI 2 实测图 (1/20)



第45图 SI 3 实测图 (1/20)

			円磨度				赤化度				完形度			形状			黒色付着物	
石材	個数 (個)	重量 (g)	円	歪 円	歪 角	角	非	弱	中	強	A	B	C	棒	扁 平	球	有	無
頁岩	4	802	1	2	1	0	3	0	0	1	0	3	1	1	0	3	0	4
砂岩	7	2,735	0	0	6	1	0	7	0	0	1	1	5	0	6	1	0	7
尾鈴山酸性岩	0																	
ホルンフェルス	47	4,395	4	12	23	8	7	27	12	1	1	4	42	8	24	15	0	47
その他	3	215	0	2	0	1	1	2	0	0	0	0	3	0	1	2	0	3
計	61	8,147	5	16	30	10	11	36	12	2	2	8	51	9	31	21	0	61

第8表 S12石材別観察表

重量以外は個数

			円磨度				赤化度				完形度			形状			黒色付着物	
石材	個数 (個)	重量 (g)	円	歪 円	歪 角	角	非	弱	中	強	A	B	C	棒	扁 平	球	有	無
頁岩	10	270	0	0	6	4	1	7	2	0	0	0	10	0	10	0	0	10
砂岩	4	185	0	0	4	0	1	3	0	0	0	0	4	0	4	0	0	4
尾鈴山酸性岩	1	215	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1
ホルンフェルス	24	2,899	0	12	13	0	5	6	13	1	1	5	19	0	5	20	1	24
その他	0																	
計	40	3,569	0	12	23	5	7	16	15	2	1	5	34	0	20	20	1	39

第9表 S13石材別観察表

重量以外は個数

## ③ 遺物

遺物は、調査区東部と西部に集中して出土し、中央部は疎らである。T10グリッドとR12グリッド周辺が遺物集中区である(第41図)。

出土遺物は、1,616点を数え、代表的なものとしてナイフ形石器41点、角錐状石器7点、剥片尖頭器6点、石錐5点、石核46点、敲石31点等である。利用石材は頁岩が多く、約47%を占める。詳細は、第10表(Ⅱ区第Ⅱ文化層石器石材組成)に示した。

## 【頁岩A製石器】(第46~48・61~72図接合3~接合8、51~106)

石器は、東側と西側の二つの集中区に出土し、522点を数える。得られた接合資料は、16個体、石器の点数にして49点を確認した(第11表Ⅱ区石器接合資料石材組成)。これらのうち図示したものは、

6個体、石器点数17点である。

接合3は、総数9点が接合する。抜け落ちた剥片類が多く、剥片剥離の実態をつかみにくいが、51→53→52→55→54→56→57→58の順で剥離する。最終的に石核59が残る。

接合4は、打面を入れ替えながら60→61→62の順で剥離する。最終的に石核63が残る。

接合5は、円礫を使って打面を作り、縦長の剥片を剥離したことが観察される。64→65→66→67の順で剥離するが、67は、66の剥離の衝撃により剥離したものである。

接合7は、大きな母岩から厚手の横長の剥片を取って、礫面を敲いて小さな剥片を剥離していることが観察される。71→72→73の順で剥離し、74が残る。

接合8は、打面を入れ替えながら、75→76の順で剥離する。最終的に石核77が残る。

	ナイフ形石器	角錐状石器	剥片尖頭器	石錐	打面再生剥片	微細剥離のある剥片	石核	蔽石磨石	剥片破片	計
頁岩 A	20	1	2	3	1	6	9	1	479	522
頁岩 B	5			1		3	3		122	134
頁岩 C	1			1			1		105	108
流紋岩 A	3		2		1	3	7		61	77
流紋岩 B	1	1	1						7	10
流紋岩 C	2						1		3	6
流紋岩 D	2								5	7
黒曜石	1	3							56	60
チャート	1	1							2	4
砂岩	0							24	6	30
尾鈴山酸性岩	0								1	1
ホルンフェルス	50		1				25	5	612	648
その他	0	1						1	7	9
計	41	7	6	5	2	12	46	31	1,466	1,616

第10表 H区第Ⅱ文化層石器石材組成

	頁岩A	頁岩B	頁岩C	流紋岩A	流紋岩C	砂岩	ホルンフェルス
個体数	16	4	6	5	1	2	38
石器点数	49	14	14	16	2	4	100

第11表 H区石器接合資料石材組成

78～95は、ナイフ形石器である。78と79は、切出し形のナイフ形石器である。二側縁に刃潰し加工を施して、刃部を斜めに作り出している。

80～86は、二側縁加工のナイフ形石器である。80と84は、両側縁とも裏面側からの刃潰し加工が施されている。81と86は、両側縁とも稜上側からと裏面側から刃潰し加工が施されている。82は、一側面に稜上側からと裏面側から刃潰し加工が、もう一側面に裏面側から調整加工が施されている。83は先端部が、85は基部が欠損している。

87から93は、一側縁加工のナイフ形石器である。90・92は、横長剥片を利用した小型のナイフである。91も横長剥片を利用しているが基部が欠損している。94・95は欠損品である。

96・97は、剥片尖頭器である。裏面側から調整加工が施されている。98は角錐状石器で、基部が欠損している。

100～102は、石錐である。102は、横長剥片を利用している。101と102は、先端部が欠損している。

103と104は、微細剥離のある剥片である。103は、

両側面に表面側からの微細剥離が観察される。104は、裏面側からの微細剥離が観察される。

105は、打面再生剥片である。

106は、剥片石核で、横長の素材剥片を剥離した痕跡が観察される。

#### 【頁岩B製石器】(第49・50・73～75図接合9・107～119)

石器は、東側と西側の二つの集中区に出出し、134点を数える。得られた接合資料は、4個体、石器の点数にして14点を確認した(第11表H区出土石器接合資料石材別組成)。これらのうち図示したものは、1個体、石器点数7点である。

接合9は、7点が接合する。107→108→109→110→112の順で剥離するが、111は前後関係がはっきりしない。最終的に石核113が残る。

114と115は、二側縁加工のナイフ形石器である。両側縁とも裏面側からの刃潰し加工が施されている。

116と117は、一側縁加工のナイフ形石器である。117は、横長剥片を利用している。

118は、石核である。表面側から調整加工が観察されるが、先端部が欠損している。

119は、微細剥離のある剥片である。右側面に微細剥離が観察される。下部は欠損している。

#### 【頁岩C製石器】(第51・75図120~121)

石器は、東側と西側の二つの集中区に出土するが108点中92点が東側の集中区に出土する。剥片が約97%を占める。得られた接合資料は、6個体、石器の点数にして14点を確認した。剥片同士の接合で、剥離工程の分かるものではなかったので、図化はしていない。

120は、二側縁加工のナイフ形石器である。一部に礫面が残る。

121は、石核である。稜上側からと裏面側から調整加工が観察される。先端部は欠損している。

#### 【流紋岩A製石器】(第52・75~80図122~138)

石器は、東側と西側の二つの集中区に出土し、77点を数える。得られた接合資料は、5個体、石器の点数にして16点を確認した。これらのうち図化したものは、2個体、石器点数9点である。なお、第47・48図の接合ラインは、報告書に掲載のものだけ引いてある。

接合10は、ナイフ形石器と剥片6点が接合する。抜け落ちた剥片類が多く、剥片剥離の実態をつかみにくい。127がナイフ形石器である。

接合11は、石核と剥片が接合する。円礫を使って打面を作り出し、不定形の剥片を剥離したことがうかがえる。

122は、一側縁加工のナイフ形石器で、横長剥片を利用している。基部が欠損している。

123は、切出し形のナイフ形石器である。二側縁に刃潰し加工を施して、刃部を斜めに作り出している。

124は、一側縁加工のナイフ形石器であり、裏面側から刃潰し加工が施されている。

134と135は、剥片尖頭器である。134は、一部に礫面が残る、裏面に平坦剥離が施される。

135・136は石核で、打面を作り出して、縦長の剥片を剥離している。

137は、微細剥離のある剥片である。裏面側から

の微細剥離が観察される。

138は、打面再生剥片である。側面に微細剥離が観察される。

139は、石核である。打面を作り出し、縦長の剥片を剥離している。

#### 【流紋岩B・C・D製石器】(第53・80~81図140~147)

流紋岩B、流紋岩C、流紋岩Dは、西部の集中区からは出土せず、調査区東側半分からのみ出土した。流紋岩Bと流紋岩Dには、接合資料を確認できなかった。流紋岩Cでは、得られた接合資料1個体、石器の点数にして2点を確認した。剥片同士の接合で、剥離工程の分かるものではなかったので、図化はしていない。

140は、流紋岩B製の切出し形のナイフ形石器である。二側縁に刃潰し加工を施して、刃部を斜めに作り出している。

141は、流紋岩B製の一面加工の角錐状石器である。裏面側から調整加工が施されている。

142は、流紋岩B製の剥片尖頭器である。裏面側から調整加工が施されている。基部は表面側からも調整が施されている。

143と144は、流紋岩C製の一側縁加工のナイフ形石器である。143は、横長剥片を利用している。

145は、流紋岩C製の石核である。縦長の剥片を剥離している。

146と147は、流紋岩D製の一側縁加工のナイフ形石器である。146は、稜上側からと裏面側から調整加工が施されている。147は、裏面側からの調整加工が観察される。

#### 【ホルンフェルス製石器】(第54~56・82~93 図148~173)

石器は、東側と西側の二つの集中区に出土し、648点を数える。得られた接合資料は、38個体、石器の点数にして100点を確認した。これらのうち図化したものは、5個体、石器点数17点である。なお、第55・56図の接合ラインは、報告書に掲載のものだけ引いてある。

接合12は、5点が接合する。148→149→150→151の順で剥離する。最終的に石核152が残る。

接合13は、5点が接合する。153→154→155の順で剥離し、最後に156と157に分割される。

接合14は、剥片2点と石核の接合資料である。偏平の礫を使って、打面を作らずに礫面から直接不定形の剥片を取っている。

接合15は、大きな縦長の剥片3点の接合資料である。161・162は、長さ約12cmを測る。

接合16は、剥片と石核の接合資料である。打面を転移しながら、縦長の剥片を剥離している。

166と169・170は、一側縁加工のナイフ形石器である。166は、基部がやや丸く加工され、169は、刃部がやや斜めである。170は、横長剥片を利用している。

167と168は、二側縁加工のナイフ形石器である。167は、裏面に平坦剥離が施されている。168は、刃部が斜めに作り出され、切出し形のナイフに近い。

171～173は石核である。172が約2358g、173が約1655gを量る。大きな礫から不定形の大きな剥片を剥離している。

182は、敲石である。一端に敲打痕が観察される。上部は欠損している。

#### 【砂岩製石器】(第57・94～95図174～181)

174から181は、敲石である。両端あるいは一端に敲打痕が観察される。

#### 【黒曜石製石器】(第58・96図183～185)

黒曜石は、調査区西部の遺物集中区に主に多く出

土する。

183と184は、黒曜石製の二側縁加工のナイフ形石器である。183は、切出し形のナイフ形石器で、二側縁に刃潰し加工を施して、刃部を斜めに作り出している。184は、裏面側から刃潰し加工が施されている。

185は、二面加工の角錐状石器である。二面とも裏面側から調整加工が施され、一部礫面が残る。裏基部に平坦剥離が施されている。

#### 【その他の石材製石器】(第59・96図186～188)

186は、チャート製の一面加工の角錐状石器である。稜上側からと裏面側から調整加工が施され、裏面先端に平坦剥離が観察される。

187は、凝灰岩製の一面加工の角錐状石器である。稜上側からと裏面側から調整加工が施され、裏基部に平坦剥離が観察される。

188は、石英斑岩製の敲石である。両端に敲打痕が観察される。

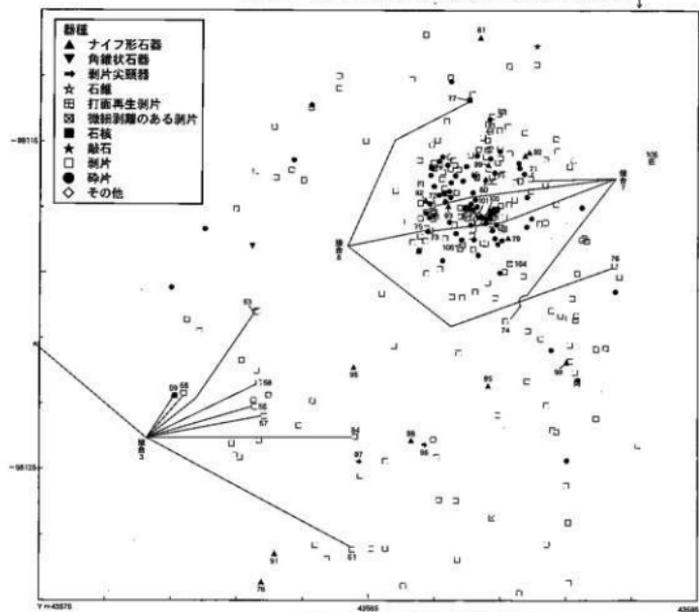
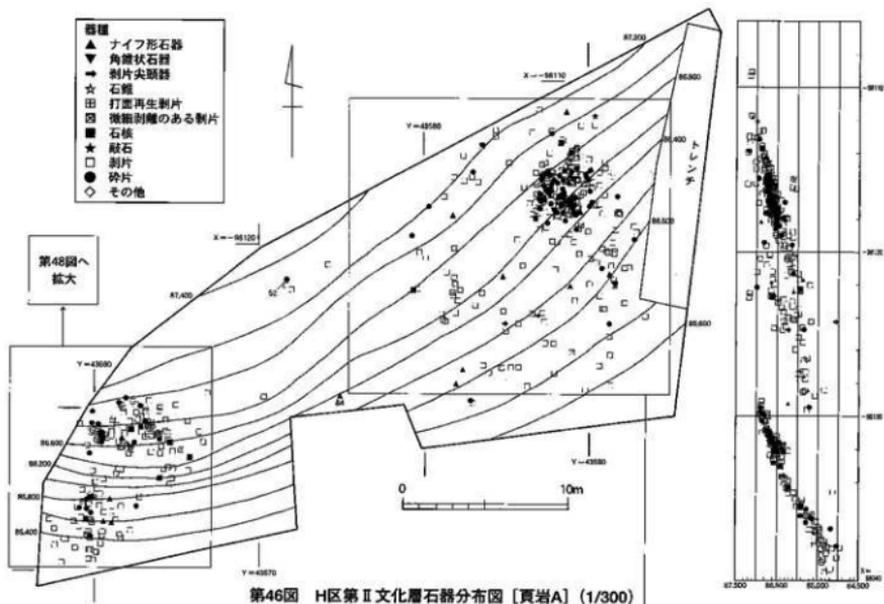
#### 礫 (第60図)

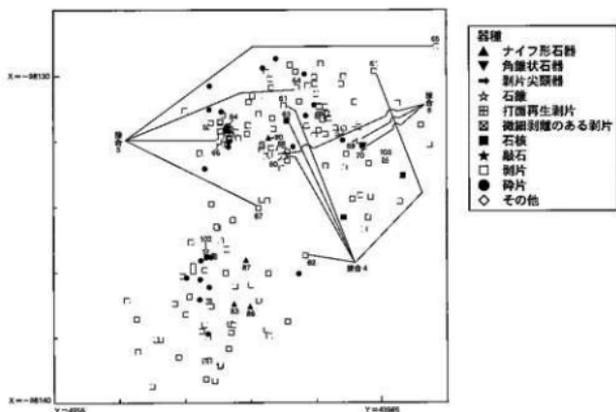
礫は362点出土し、総重量176,770gを量る。個体数はホルンフェルスが60%を占め、次いで砂岩、尾鈴山酸性岩の順になる。重量別では、ホルンフェルスが56%を占め、次いで砂岩が20%を占める。平均重量では、尾鈴山酸性岩が911gと突出して重い。

赤化度に関しては、赤化しているものが60%に達し、礫群も2基検出した。さらに、64点が接合し、23個体となった。

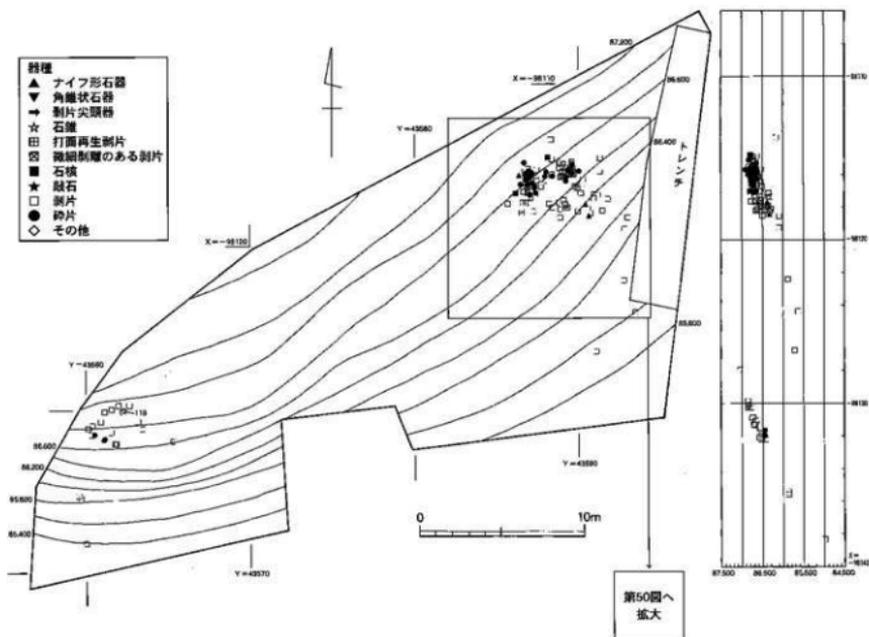
石 材	個数 (個)	重量 (g)	円磨度				赤化度				完形度			形状			黒色付 着物	
			円	垂 円	歪 角	角	非	弱	中	強	A	B	C	棒	扁平	球	有	無
頁 岩	29	8,085	11	11	4	3	24	5	0	0	2	5	22	0	20	9	1	28
砂 岩	79	35,644	6	21	44	8	28	27	16	8	9	19	51	8	52	19	1	78
尾鈴山酸性岩	33	30,081	1	20	10	2	14	6	8	5	3	8	22	2	13	18	0	33
ホルンフェルス	216	98,845	13	105	79	19	82	83	36	15	22	39	155	21	10	93	8	20
そ の 他	5	4,115	2	0	2	1	2	1	2	0	3	0	2	2	0	3	0	5
計	362	176,770	33	157	139	33	150	122	62	28	39	71	252	33	187	142	10	352

第12表 H区第Ⅱ文化層礫石材別観察表



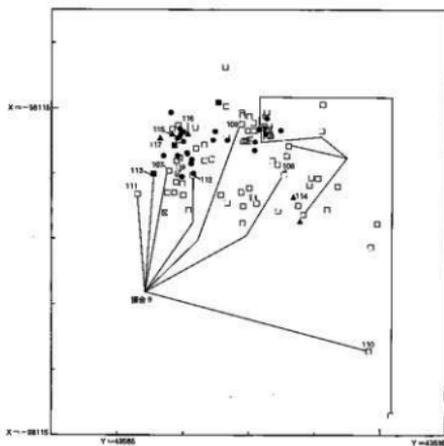


第48図 西部拡大図 [頁岩A] (1/150)



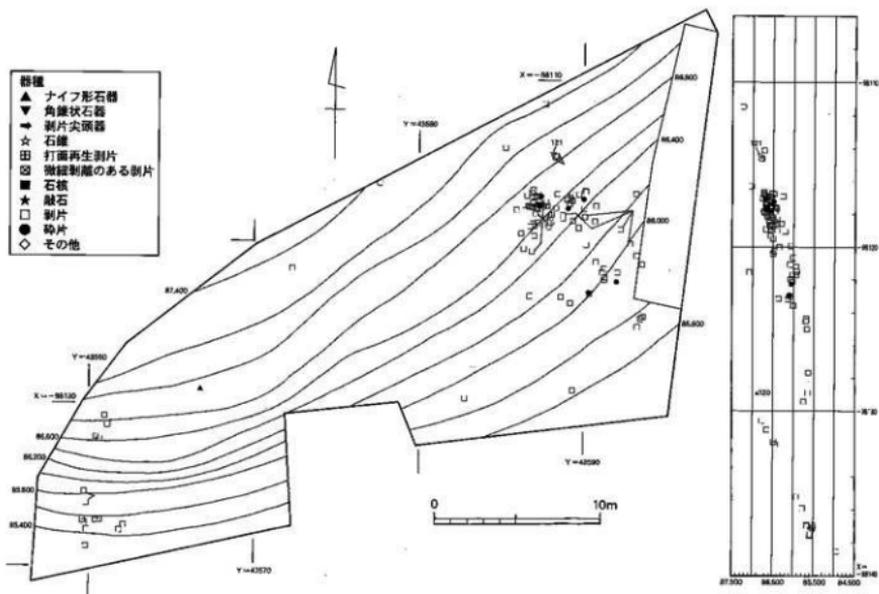
第49図 H区第I文化層石器分布図 [頁岩B] (1/300)

- 器種  
 ▲ ナイフ形石器  
 ▼ 角鎌状石器  
 → 剥片尖頭器  
 ☆ 石鏟  
 田 打割再生剥片  
 田 微細制産のある剥片  
 ■ 石核  
 ★ 敲石  
 □ 剥片  
 ● 砕片  
 ◇ その他

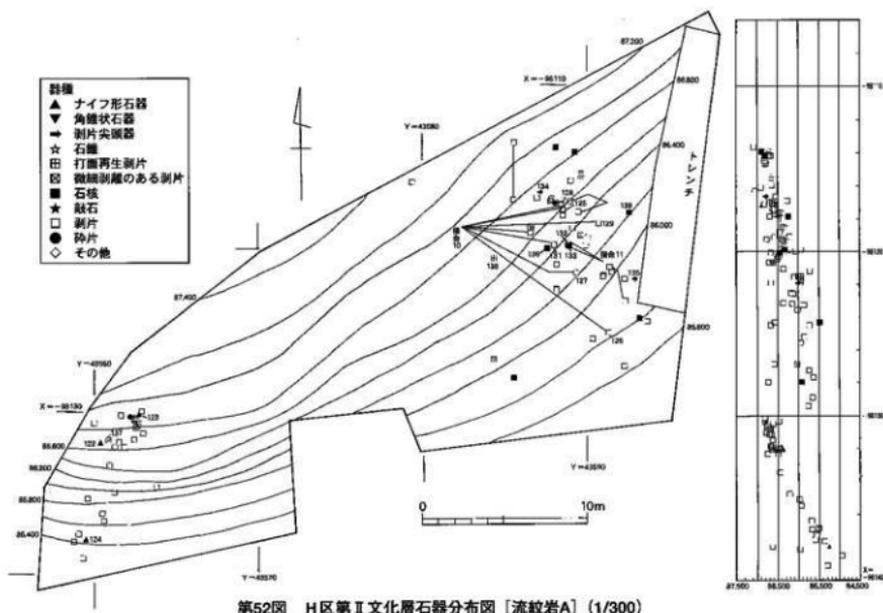


第50図 東部拡大図 [頁岩B]

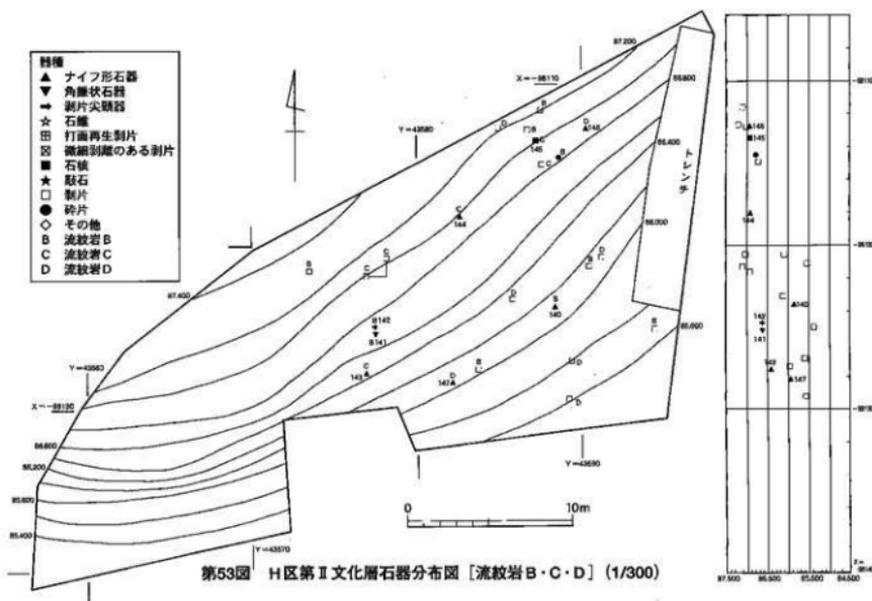
- 器種  
 ▲ ナイフ形石器  
 ▼ 角鎌状石器  
 → 剥片尖頭器  
 ☆ 石鏟  
 田 打割再生剥片  
 田 微細制産のある剥片  
 ■ 石核  
 ★ 敲石  
 □ 剥片  
 ● 砕片  
 ◇ その他



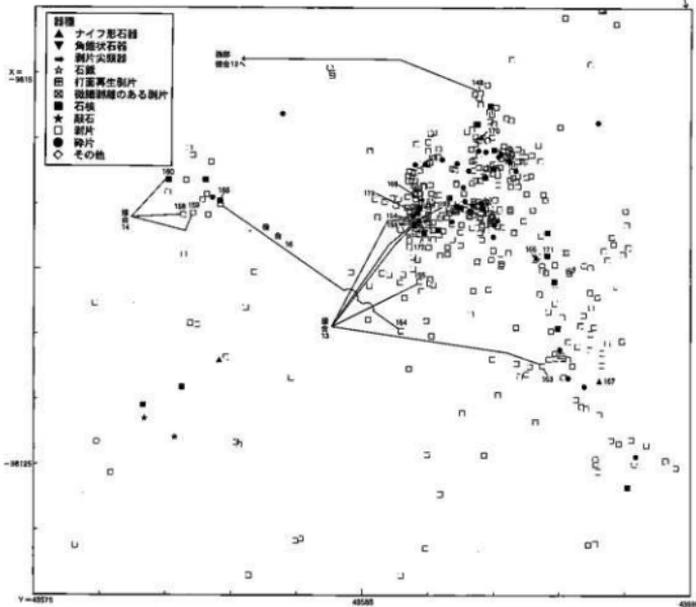
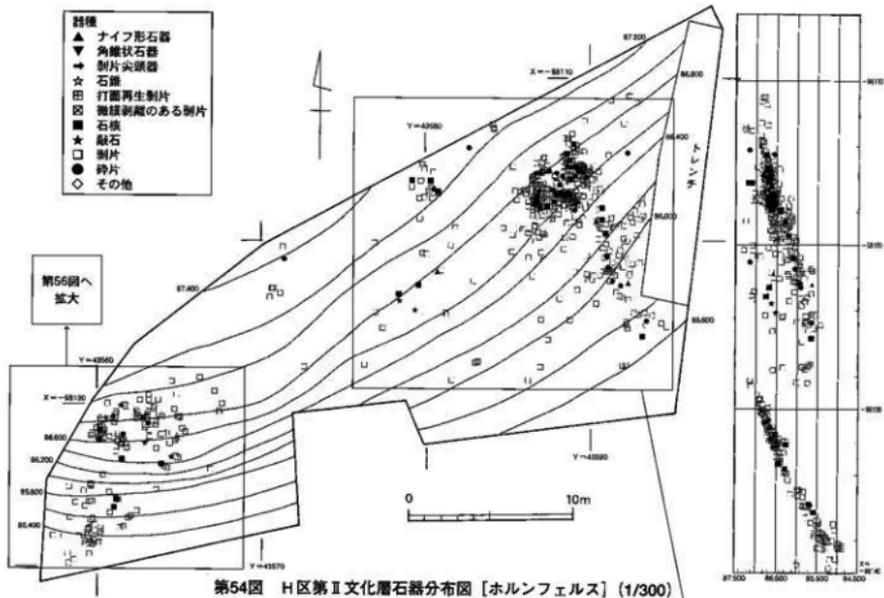
第51図 H区第Ⅱ文化層石器分布図 [頁岩C] (1/300)

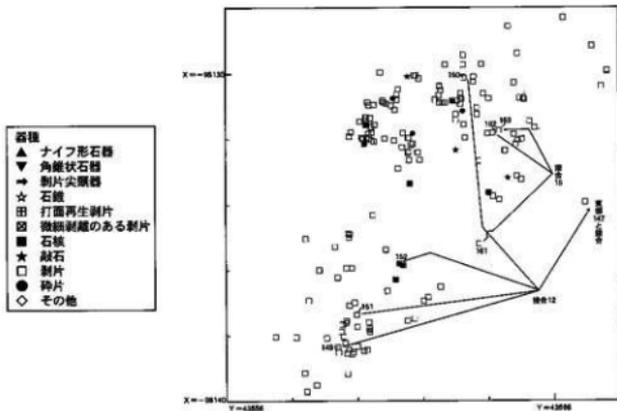


第52図 H区第Ⅱ文化層石器分布図 [流紋岩A] (1/300)

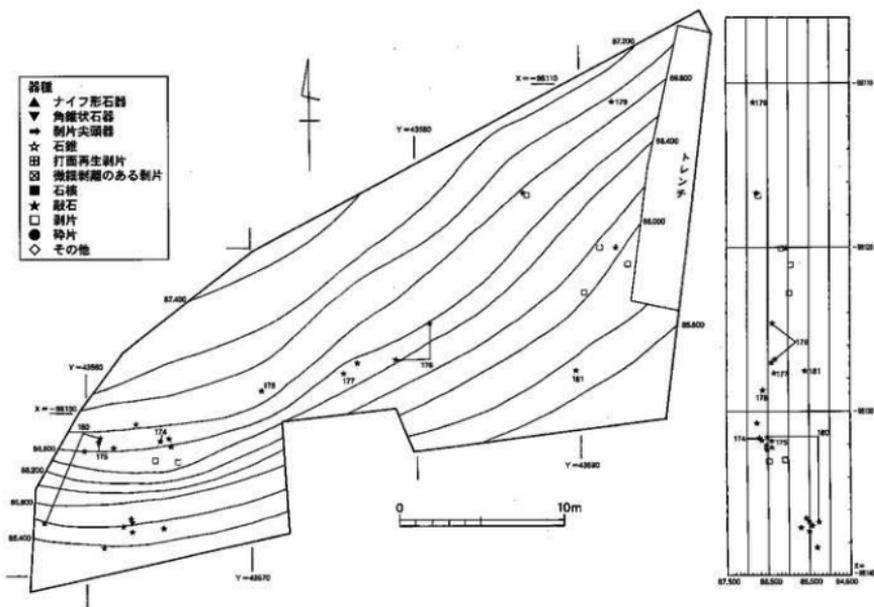


第53図 H区第Ⅱ文化層石器分布図 [流紋岩B・C・D] (1/300)

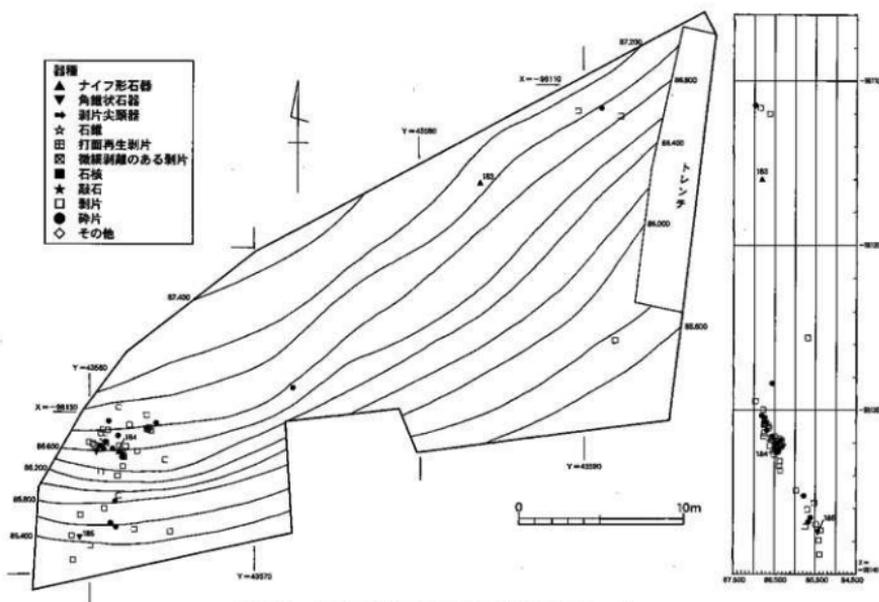




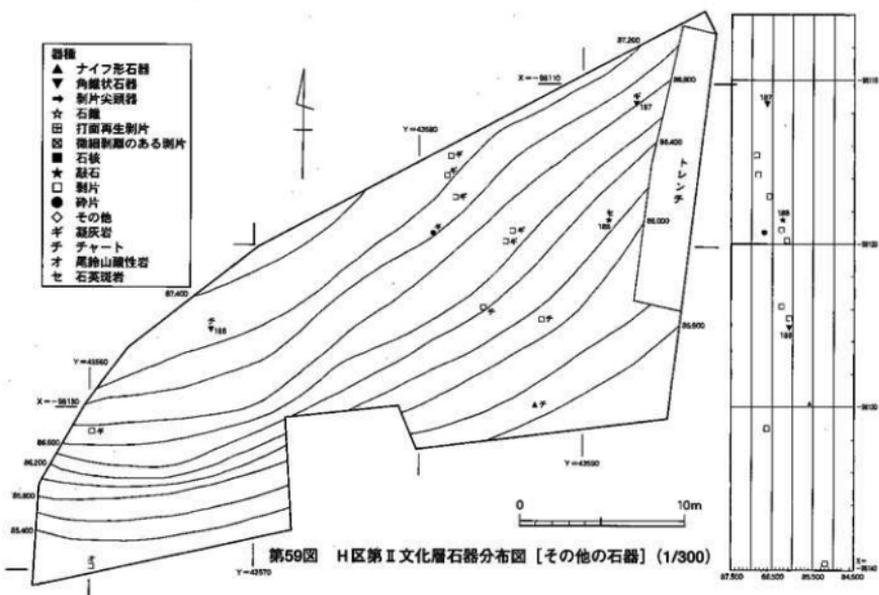
第56図 西部拡大図 [ホルンフェルス] (1/150)



第57図 H区第Ⅱ文化層石器分布図 [砂岩] (1/300)

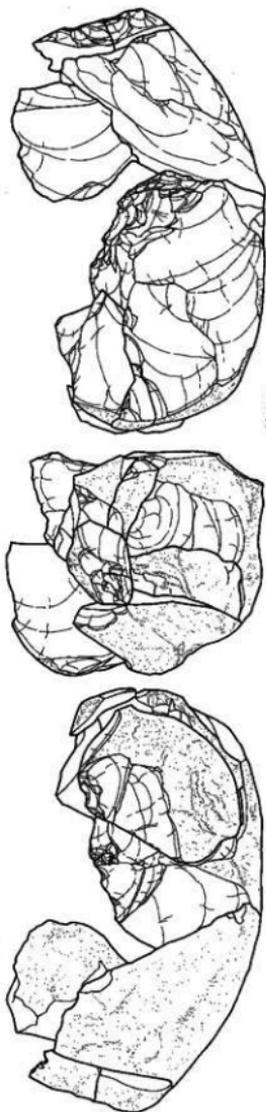
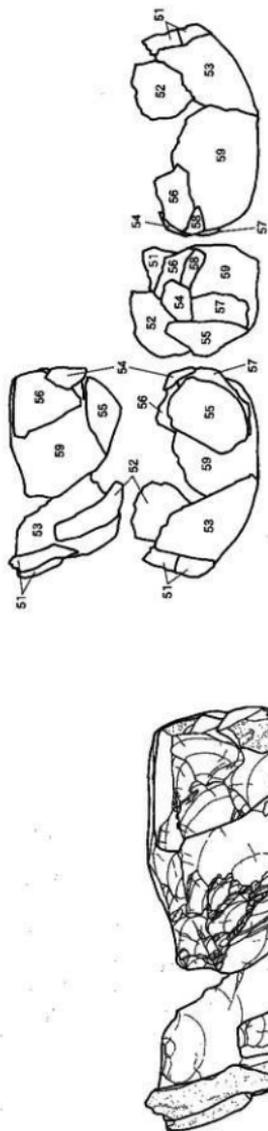


第58図 H区第Ⅱ文化層石器分布図 [黒曜石] (1/300)

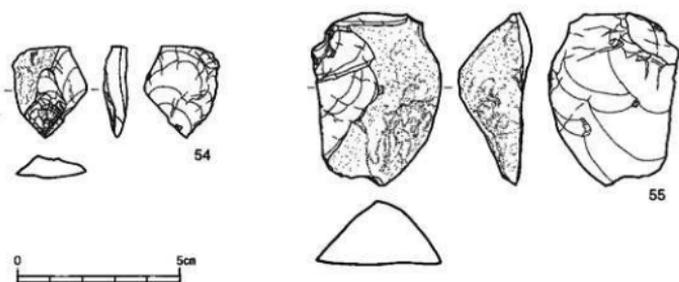
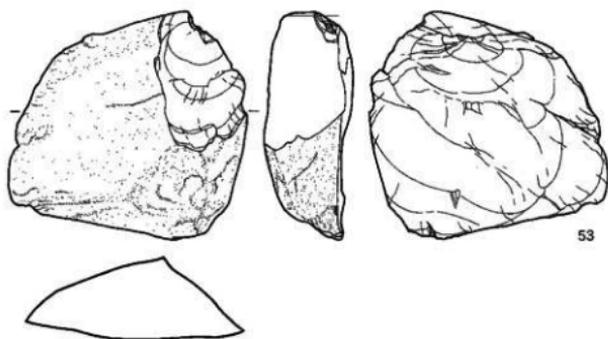
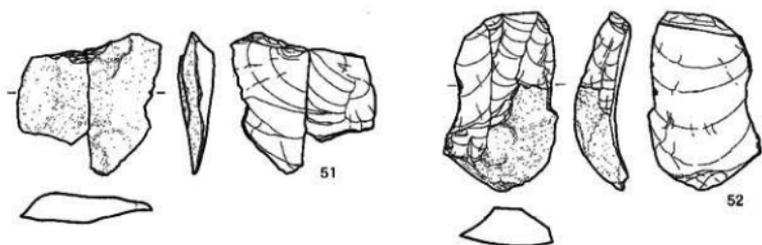


第59図 H区第Ⅱ文化層石器分布図 [その他の石器] (1/300)

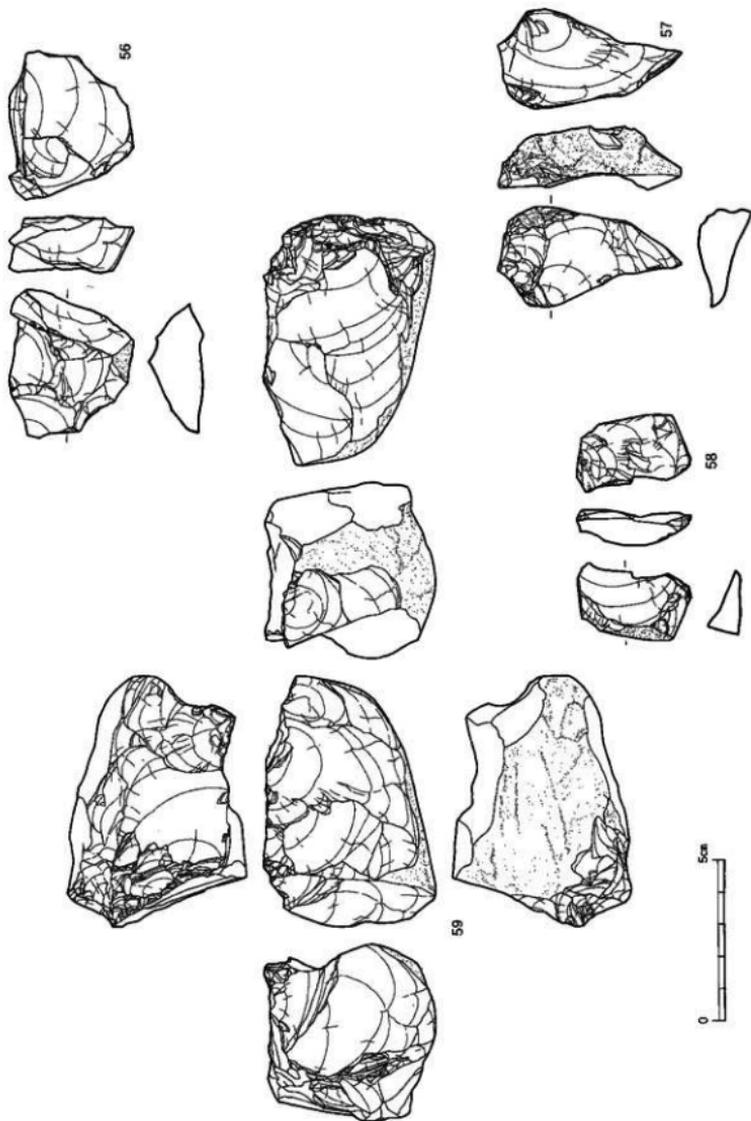




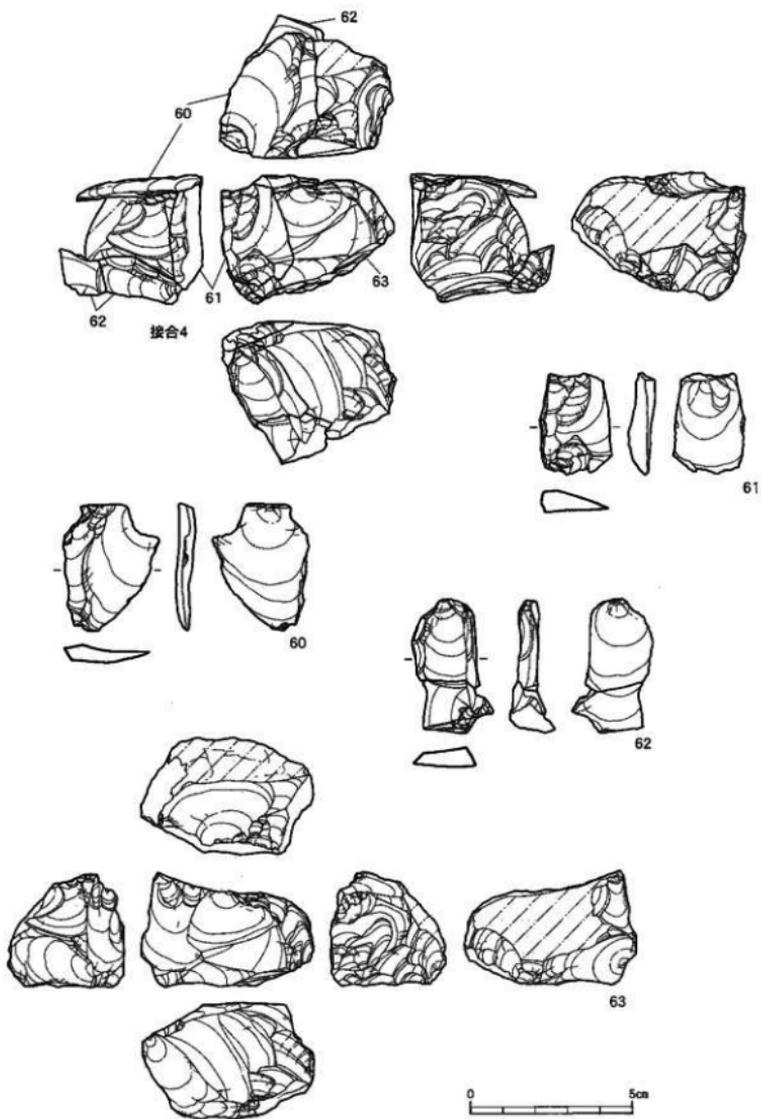
第61图 H区第Ⅱ文化層石器実測図〔頁岩A〕1 (2/3)



第62图 H区第I文化层石器实测图 [页岩A] 2 (2/3)



第63图 H区第Ⅱ文化层石器实测图 [页码A] 3 (2/3)



第64图 H区第Ⅱ文化层石器实例图 [頁岩A] 4 (2/3)

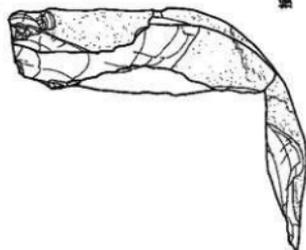
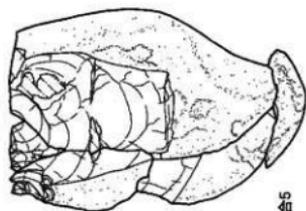
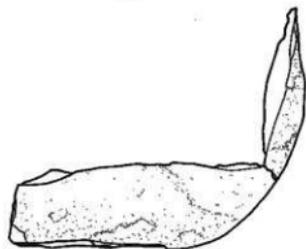
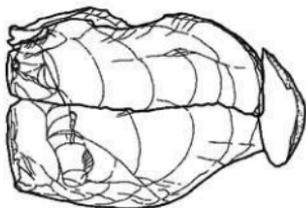
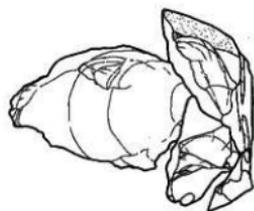
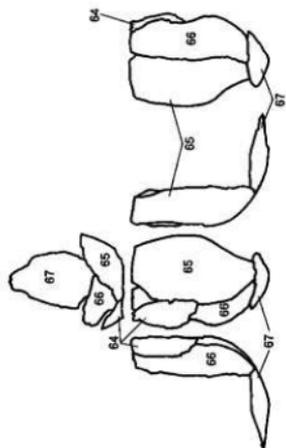
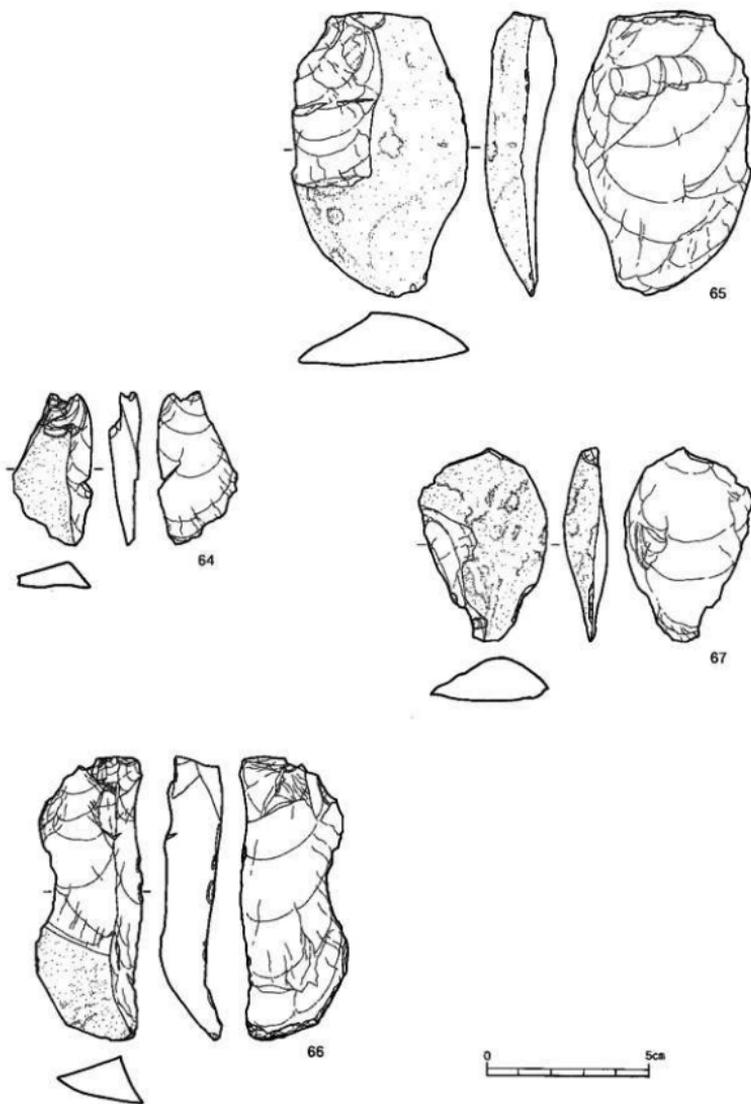


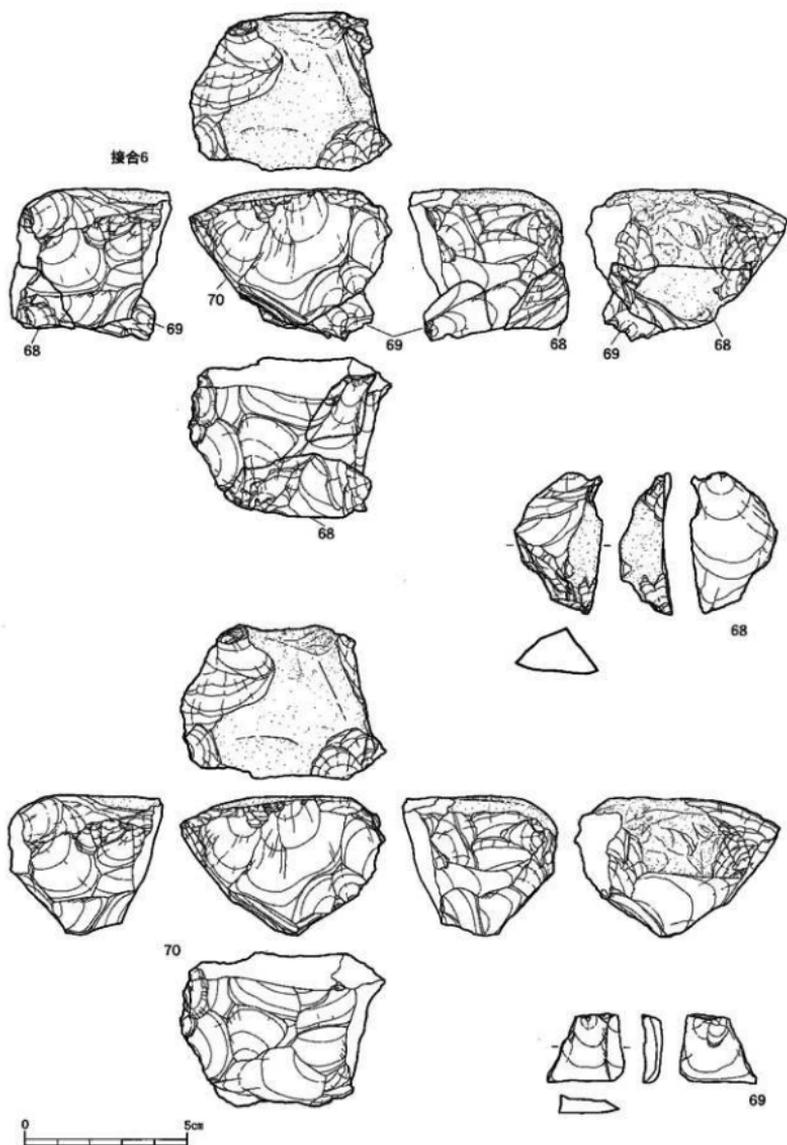
图55



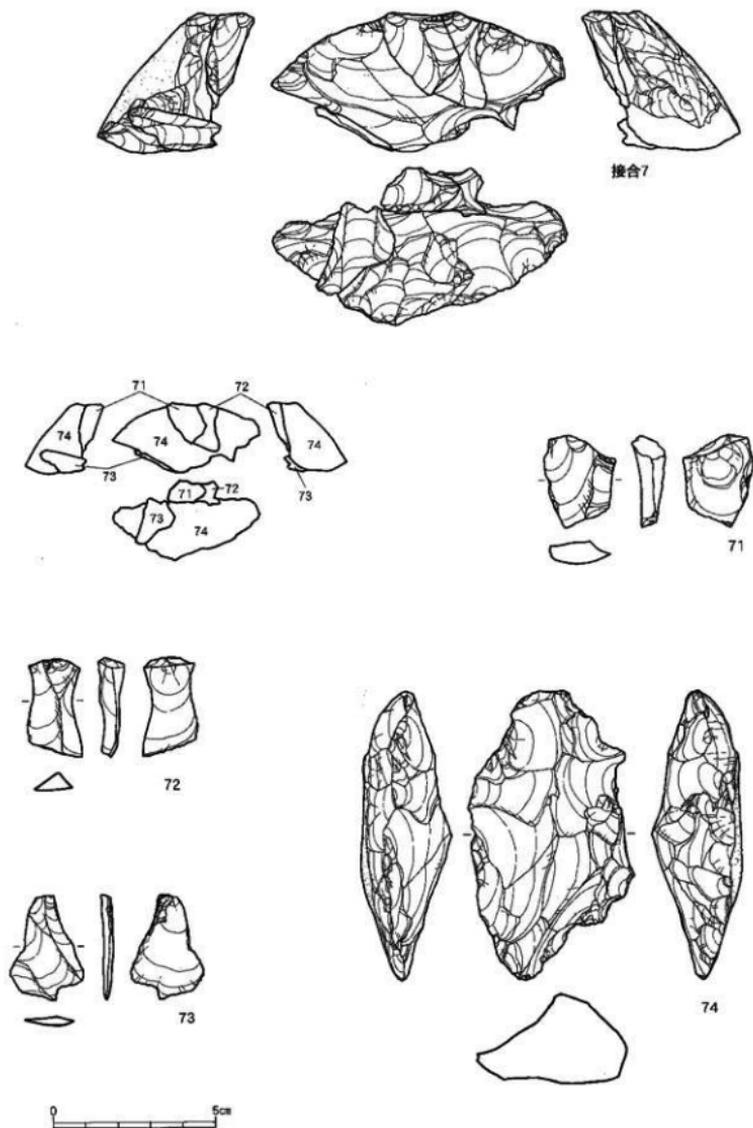
第65图 H区第II文化磨石器类图 [页码] 5 (2/3)



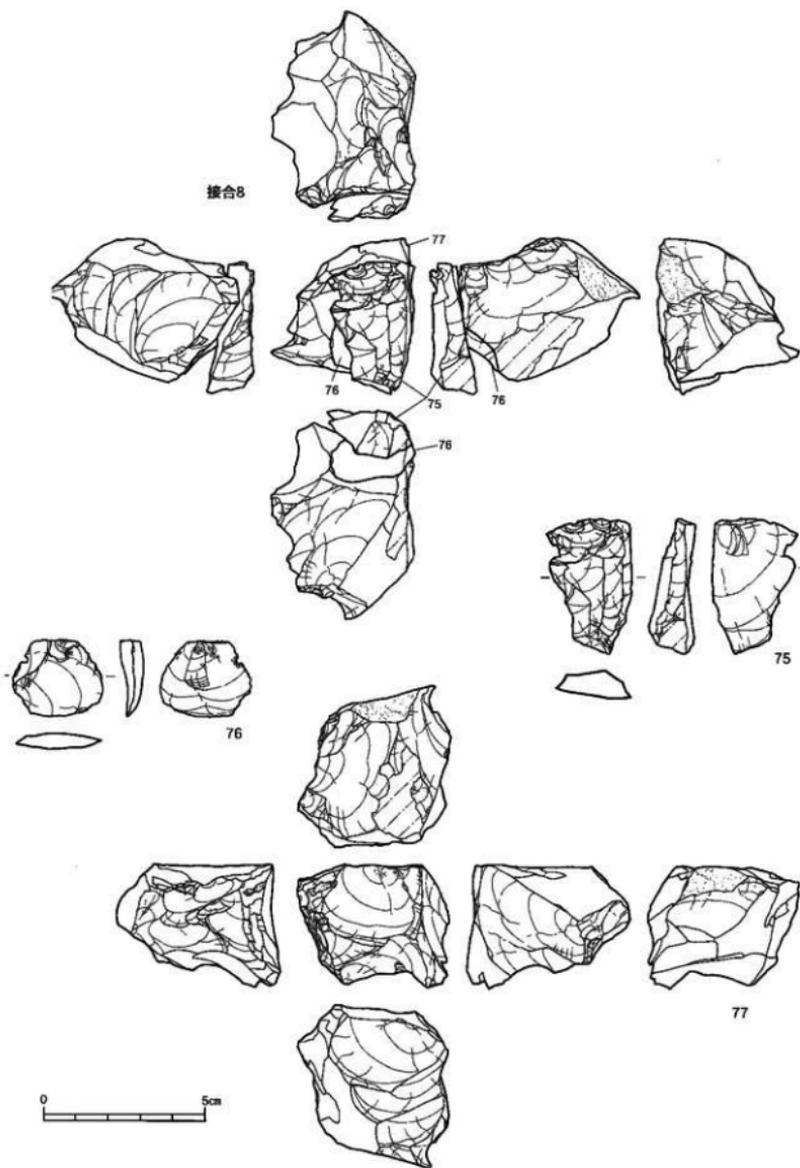
第66图 H区第II文化层石器实测图 [页岩] 6 (2/3)



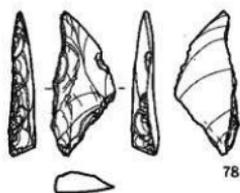
第67图 H区第II文化层石器实测图 [页岩A] 7 (2/3)



第68图 H区第Ⅱ文化层石器实测图 [页岩A] 8 (2/3)



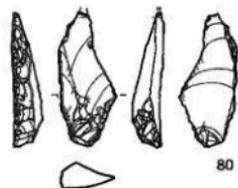
第69图 H区第Ⅱ文化层石器实测图 [页岩A] 9 (2/3)



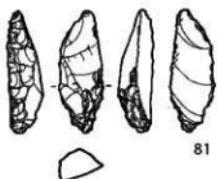
78



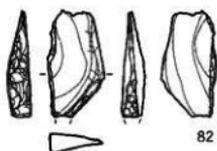
79



80



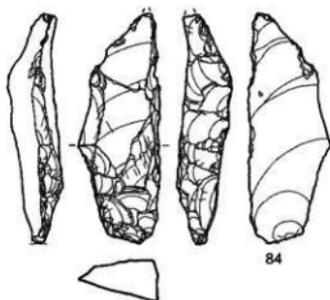
81



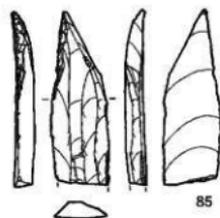
82



83



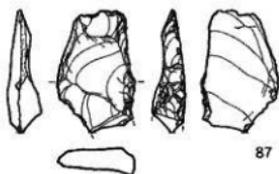
84



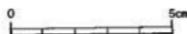
85



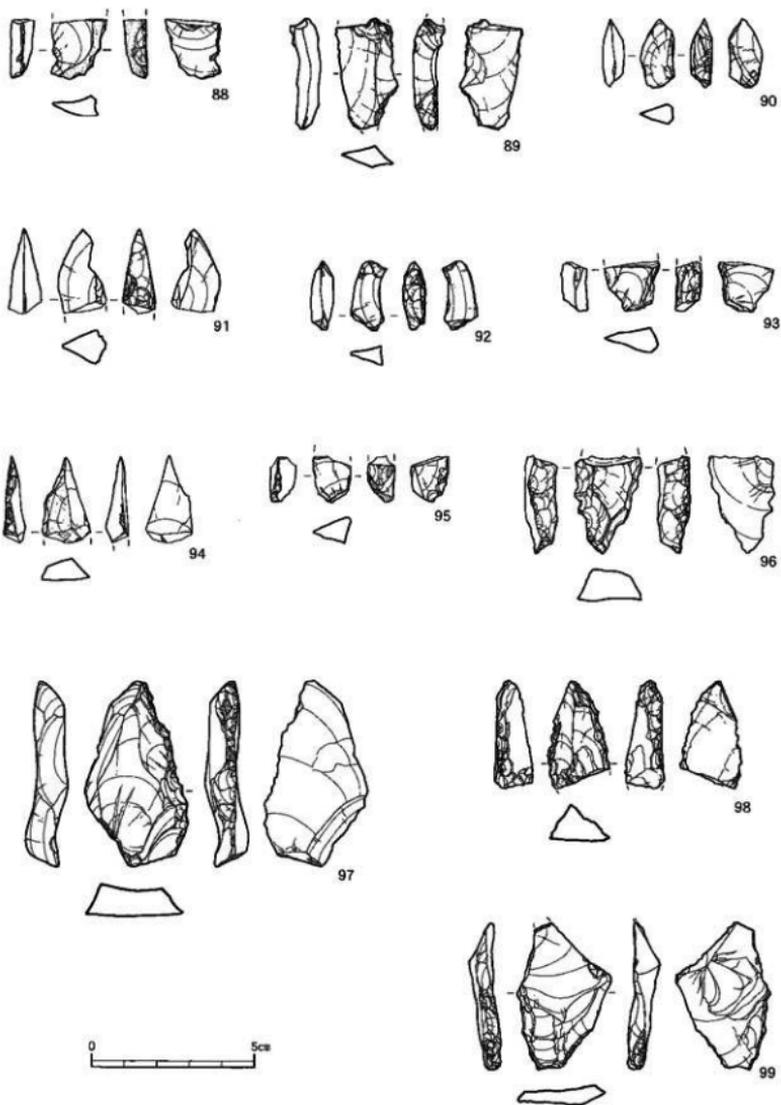
86



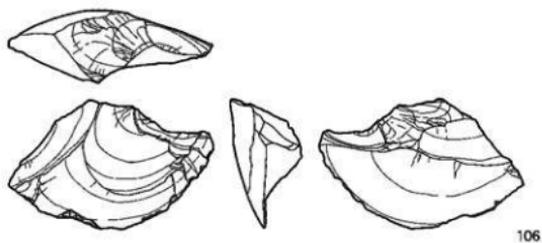
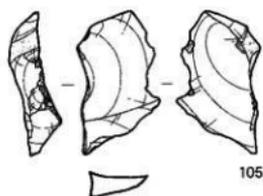
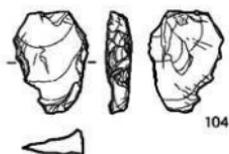
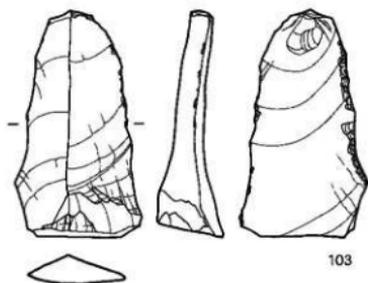
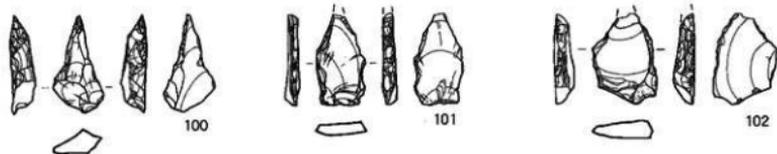
87



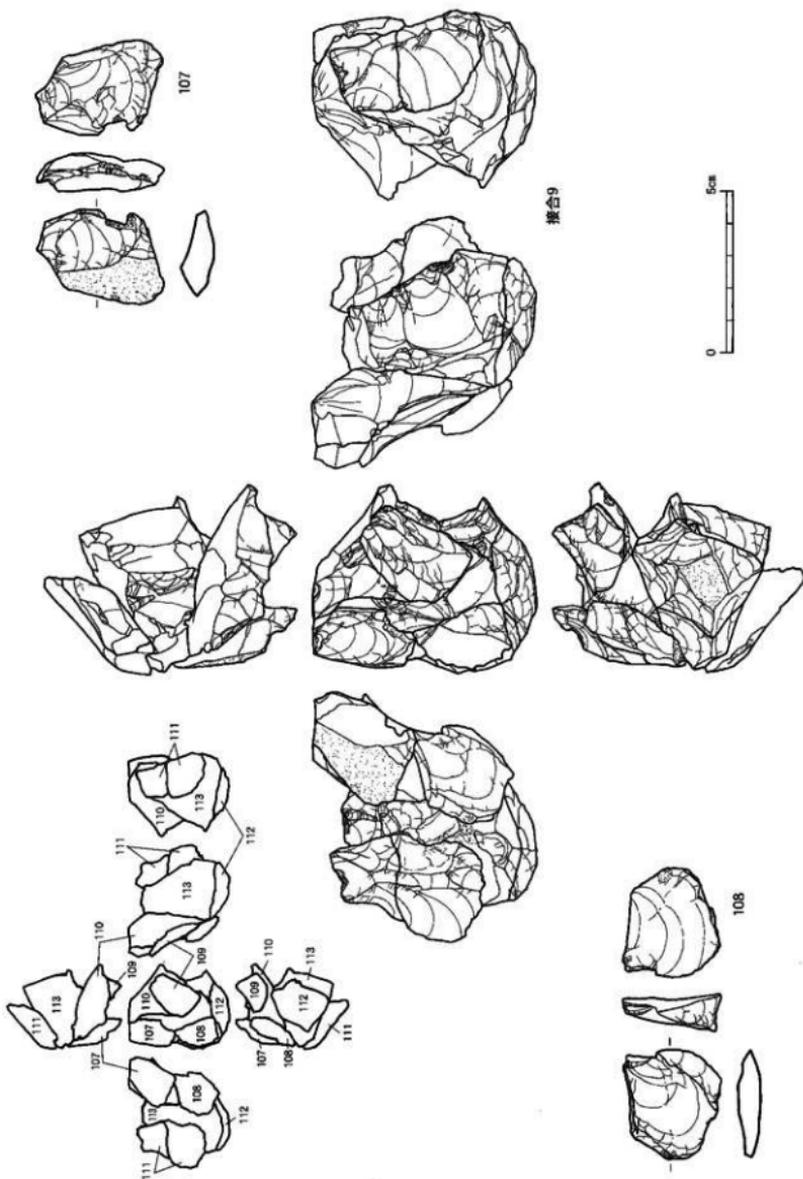
第70图 H区第II文化层石器实测图 [页岩A] 10 (2/3)



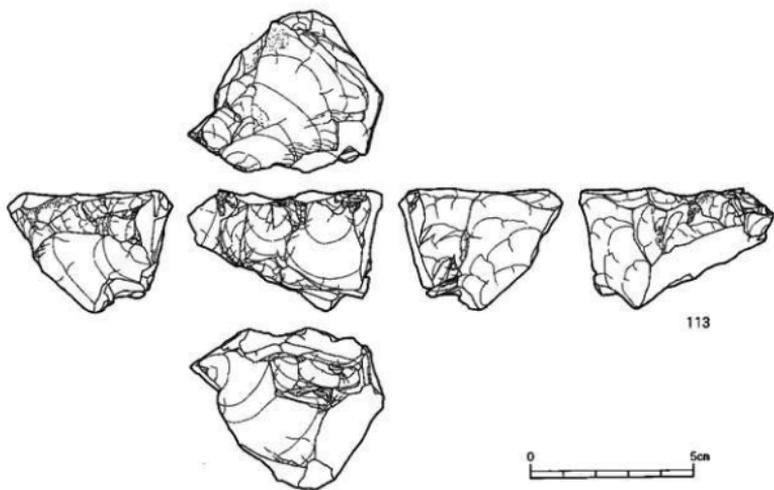
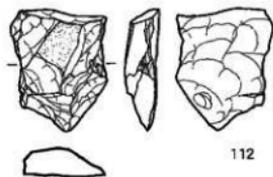
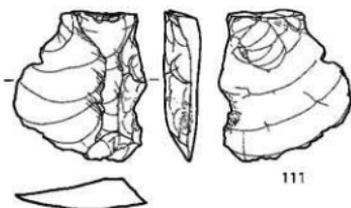
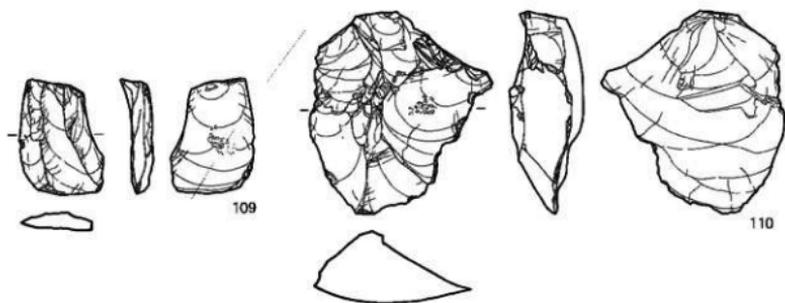
第71图 H区第II文化层石器实测图 [页岩A] 11 (2/3)



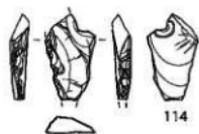
第72图 H区第II文化层石器实测图 [页岩A] 12 (2/3)



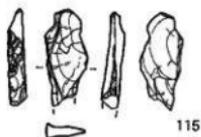
第73图 H区第II文化磨石磨类测图 [真岩B] 1 (2/3)



第74图 H区第II文化层石器实测图 [頁岩B] 2 (2/3)



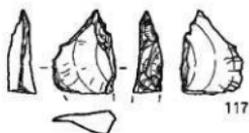
114



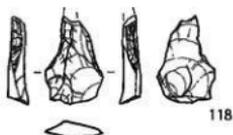
115



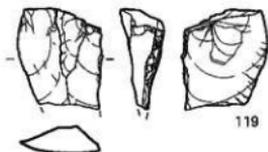
116



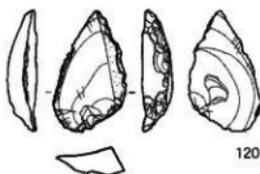
117

頁岩  
B

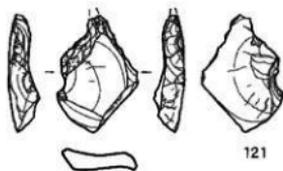
118



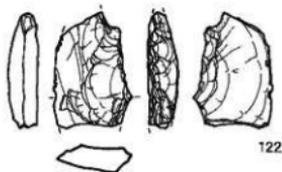
119

頁岩  
C

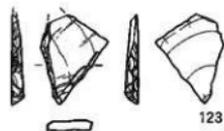
120



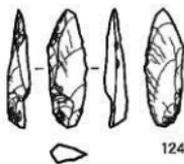
121

流紋岩  
A

122



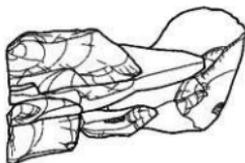
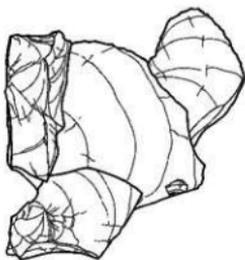
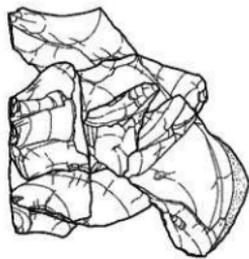
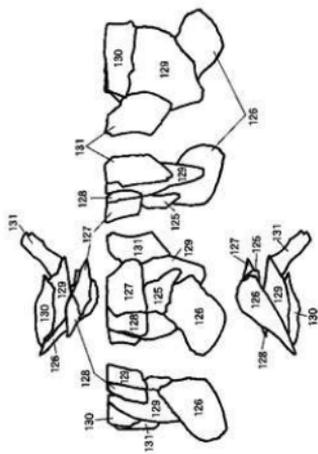
123



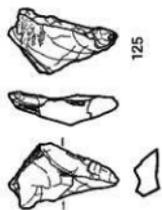
124



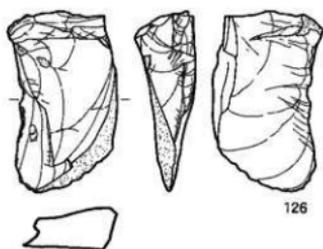
第75图 H区第Ⅱ文化層石器実測図 [頁岩B・C、流紋岩A] (2/3)



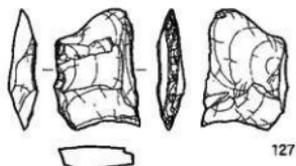
接合10



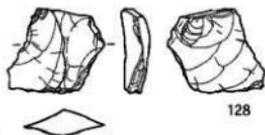
第76图 H区第Ⅱ文化層石器実測図〔流紋岩〕1〔2/3〕



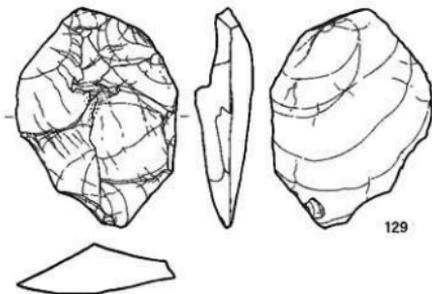
126



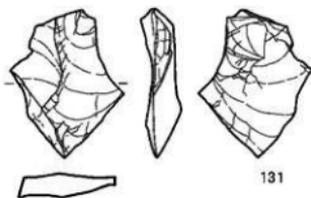
127



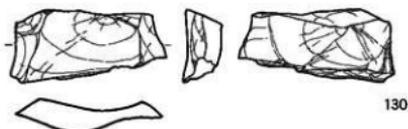
128



129



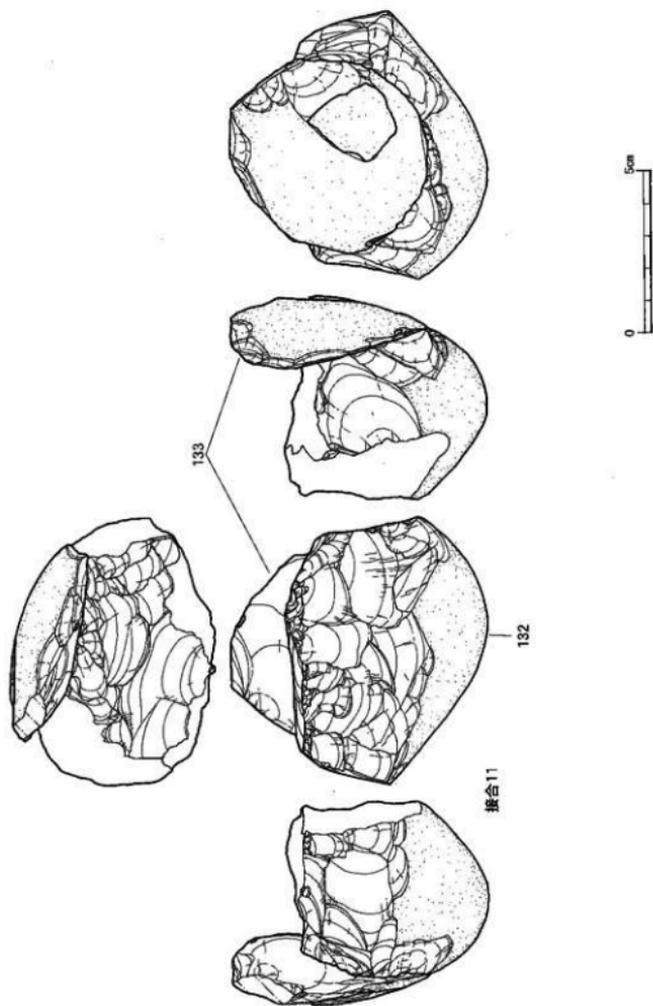
131



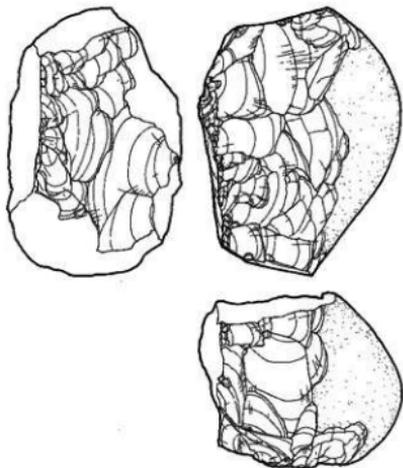
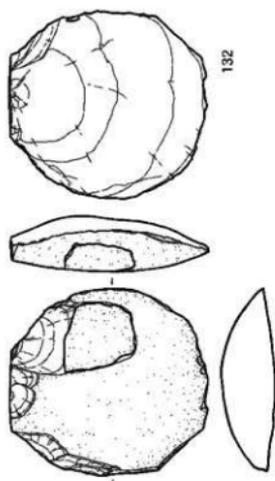
130



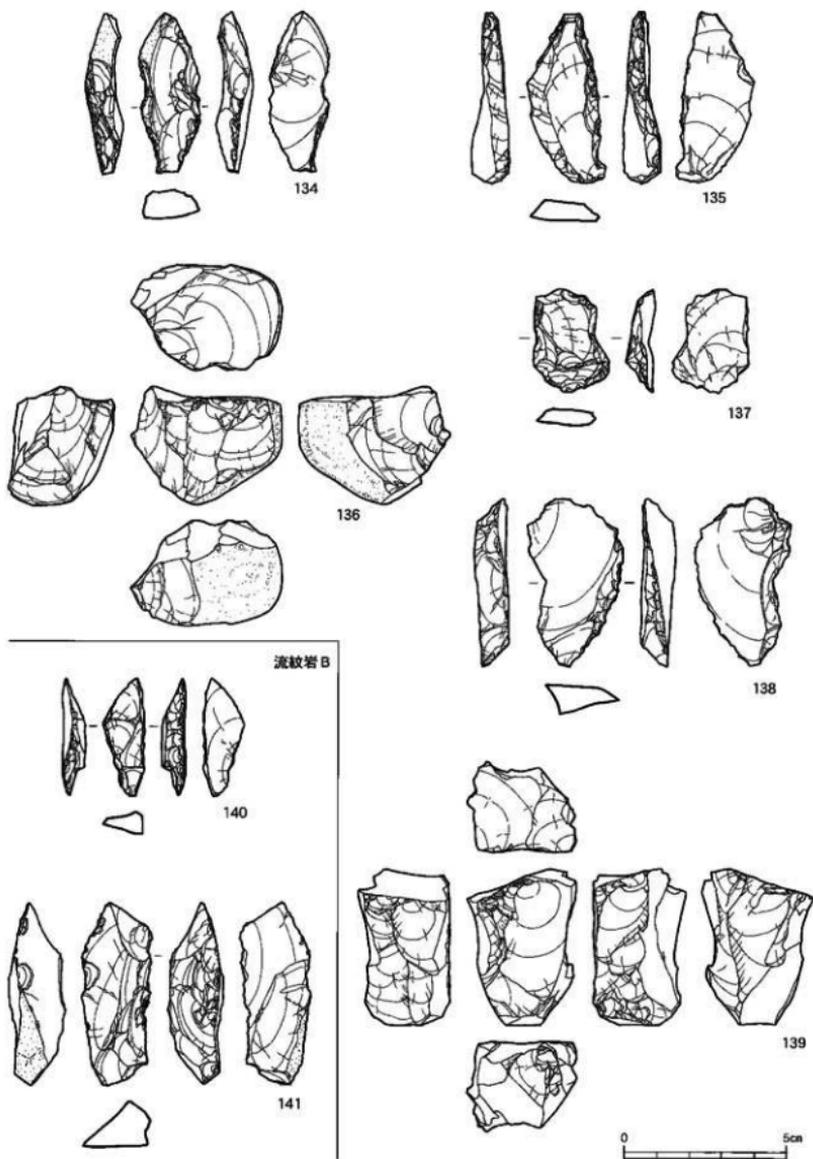
第77图 H区第I文化层石器实测图 [流纹岩A] 2 (2/3)



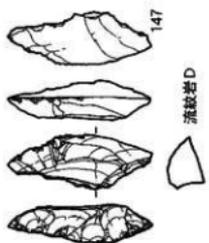
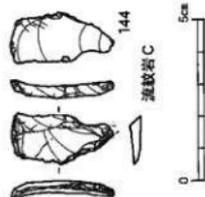
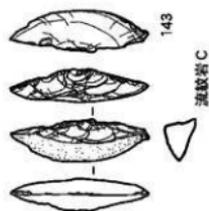
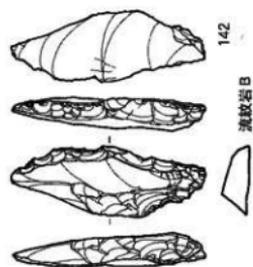
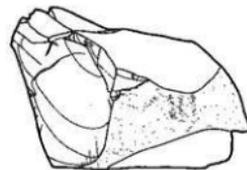
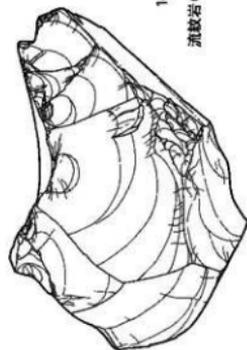
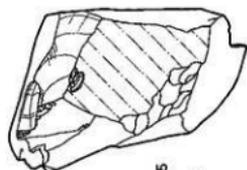
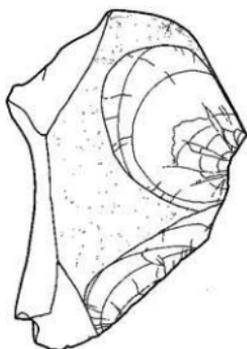
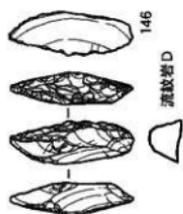
第78图 H区第II文化磨石器类测图 [流纹岩A] 3 (2/3)



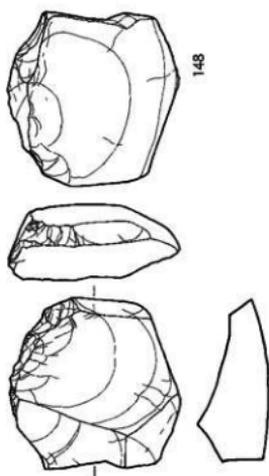
第79图 H区第I文化層石器実測図 [流紋岩] 4 (2/3)



第80图 H区第I文化层石器实测图 [流紋岩A·B] (2/3)



第81图 H区新Ⅱ文化层石器实测图 [流纹岩B·C·D] (2/3)



148



150

148

149

152

150

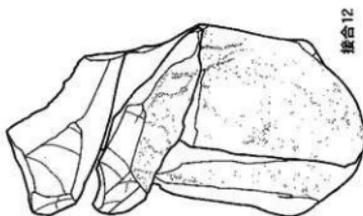
148

150

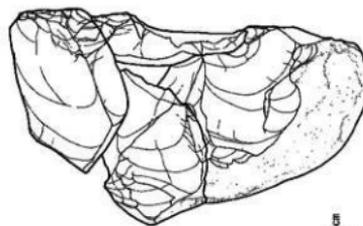
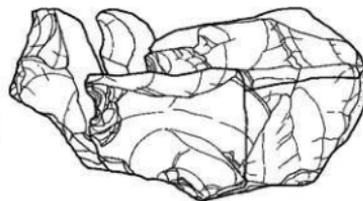
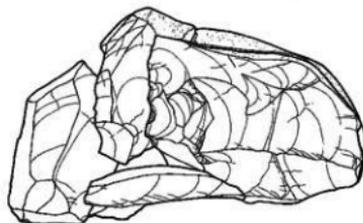
148

152

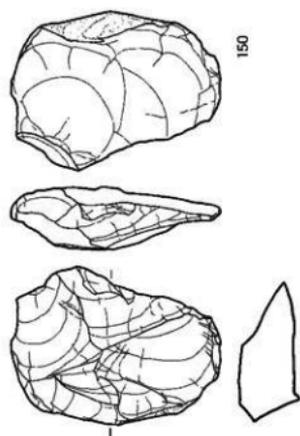
151



集合12

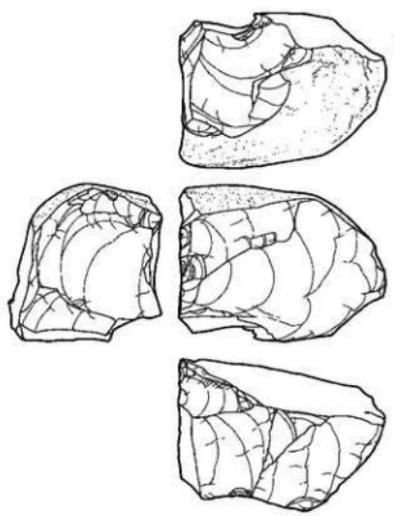


第82図 H区第Ⅱ文化層石器実測図【ホルンフェルス】1 (2/3)



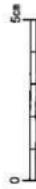
149

150

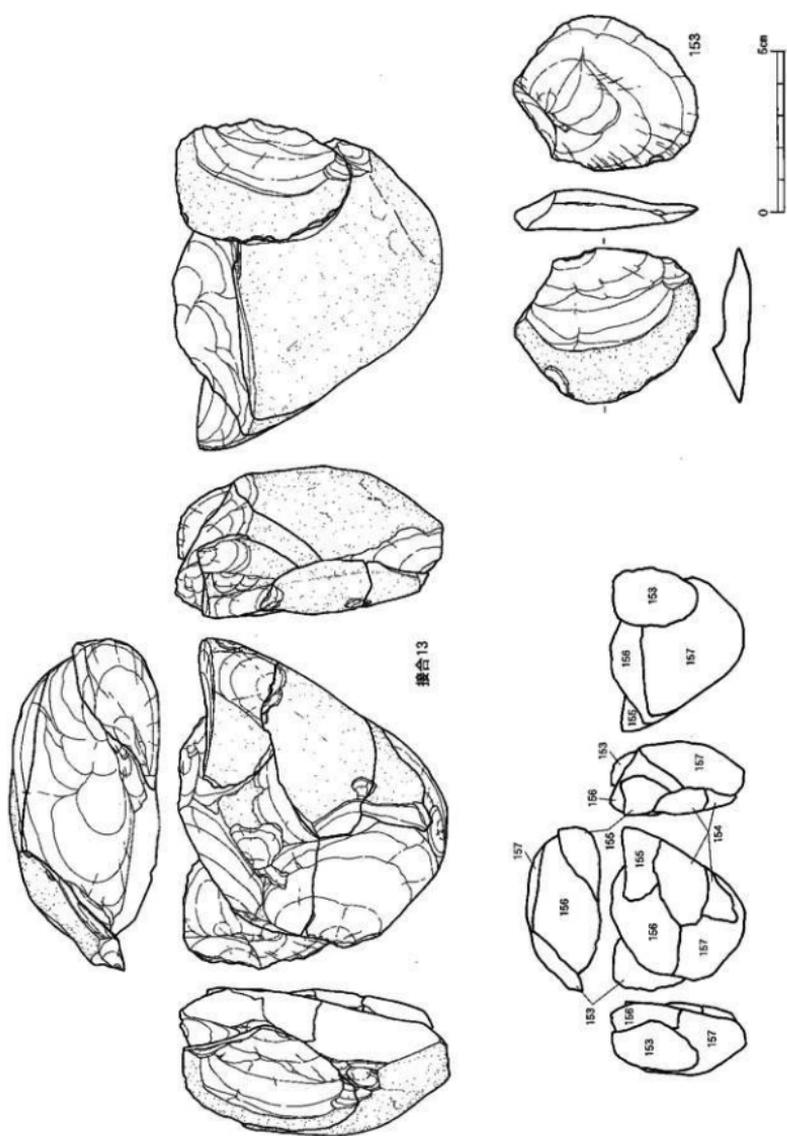


151

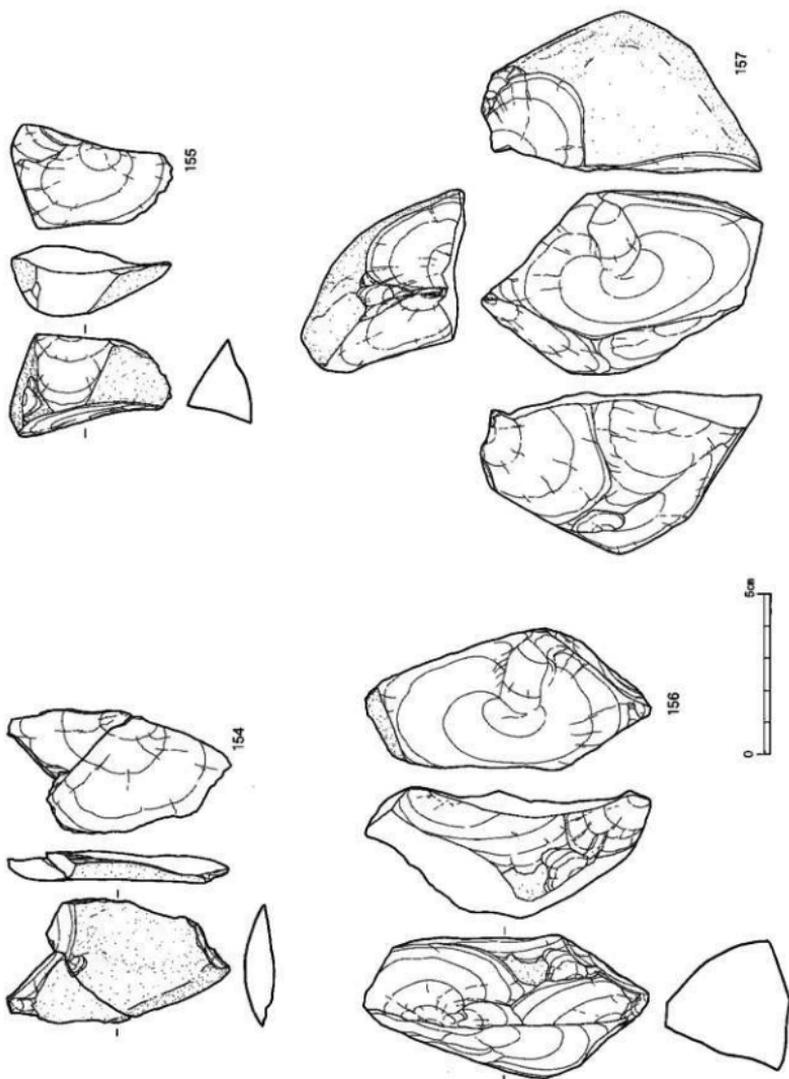
152



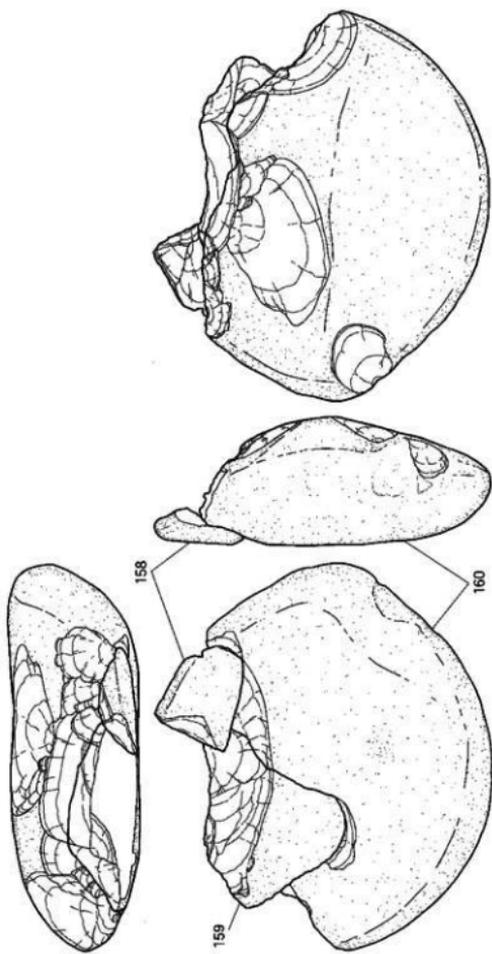
第83図 H区第1文化層石器実測図【ホルンフェルス】2 (2/3)



第84図 H区第Ⅱ文化層石器実測図〔ホルンフェルス〕3 (2/3)



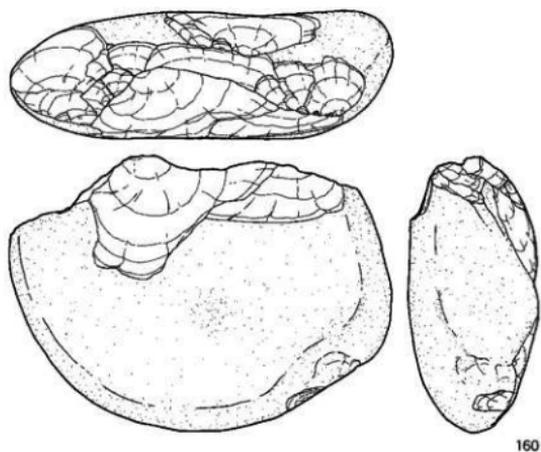
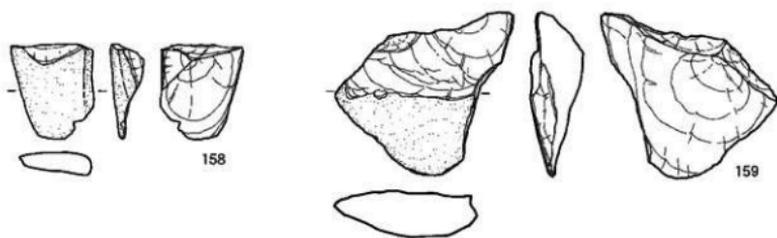
第86図 H区第Ⅱ文化層石器実測図【ホルンフェルス】4 (2/3)



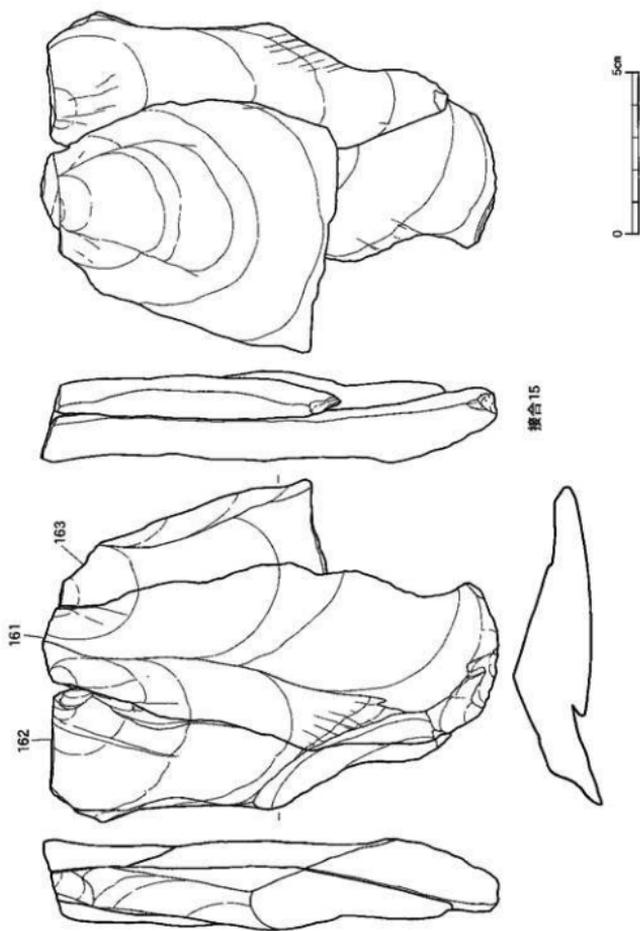
組合 14



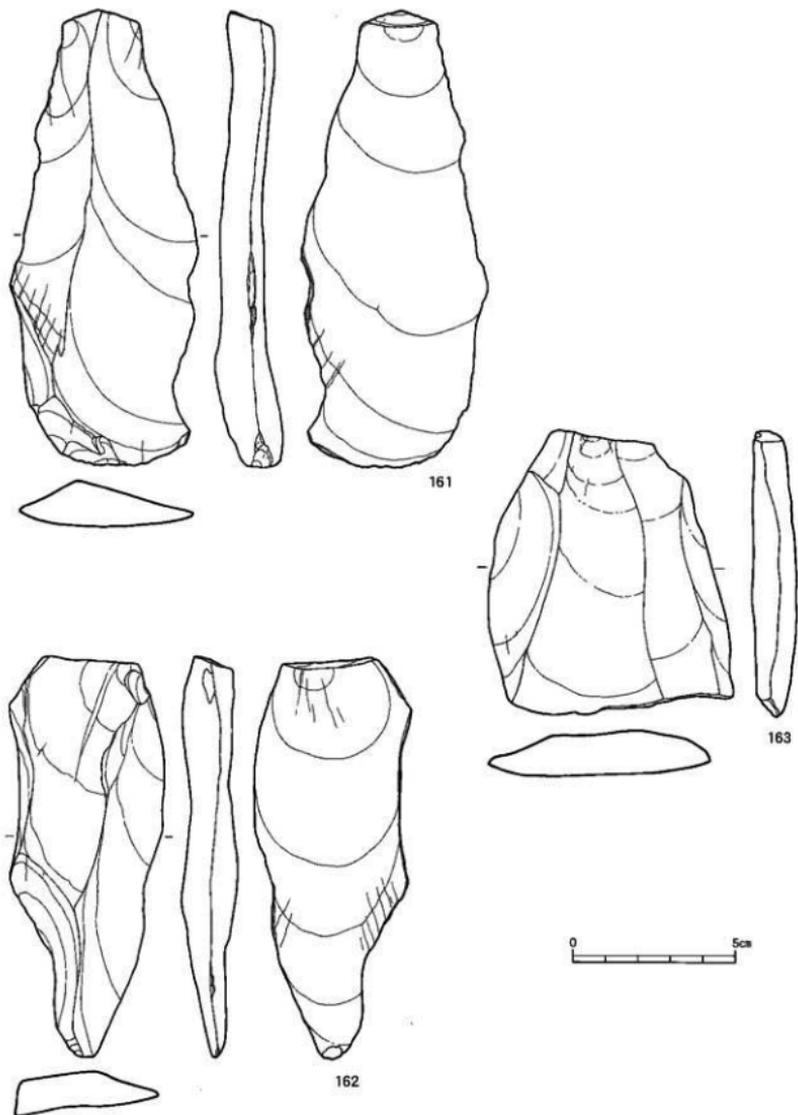
第86図 H区第Ⅱ文化層石器実測図「ホルンフェルス」5 (2/3)



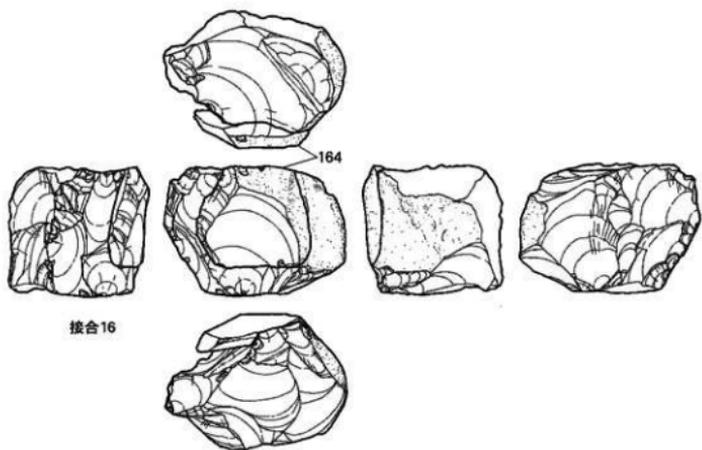
第87図 H区第Ⅱ文化層石器実測図 [ホルンフェルス] 6 (2/3)



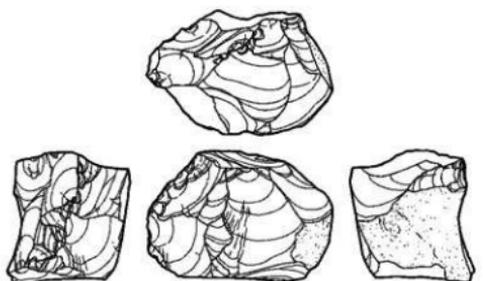
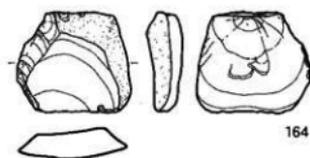
第88図 H区第Ⅰ文化層石器実測図 [ホルンフェルス] 7 (2/3)



第89図 H区第Ⅱ文化層石器実測図 [ホルンフェルス] 8 (2/3)



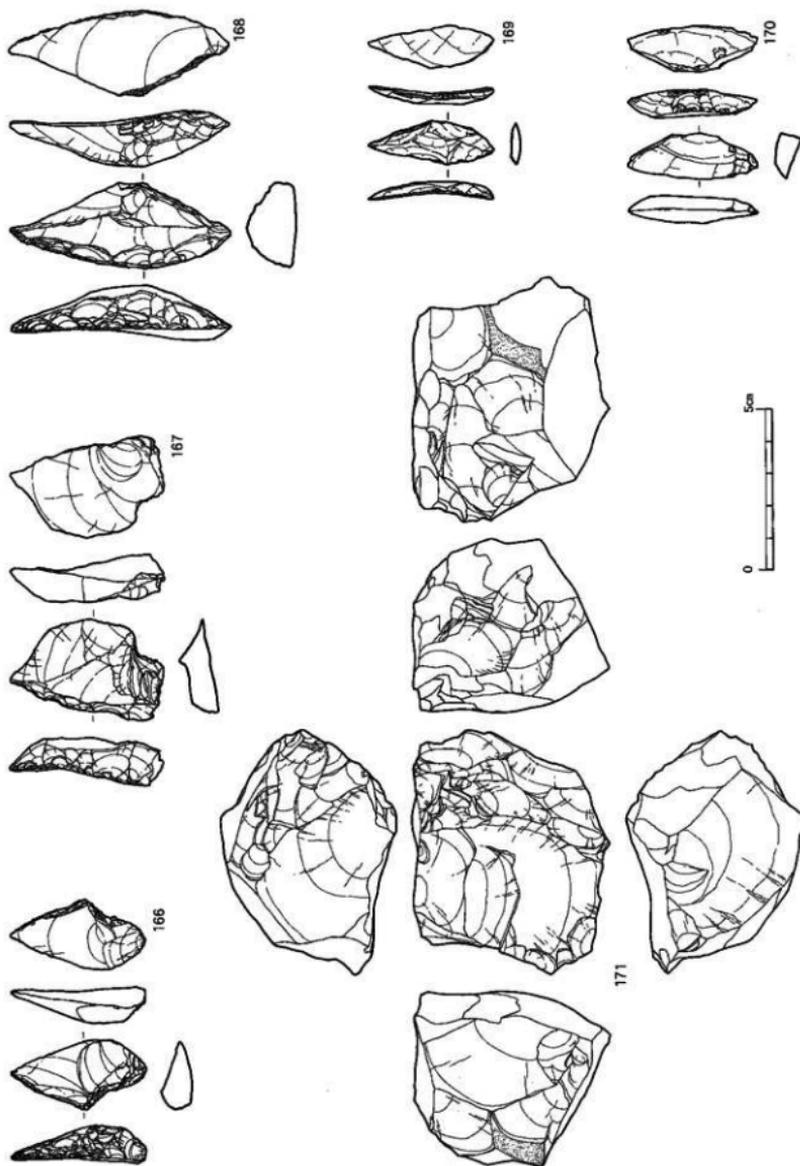
接合16



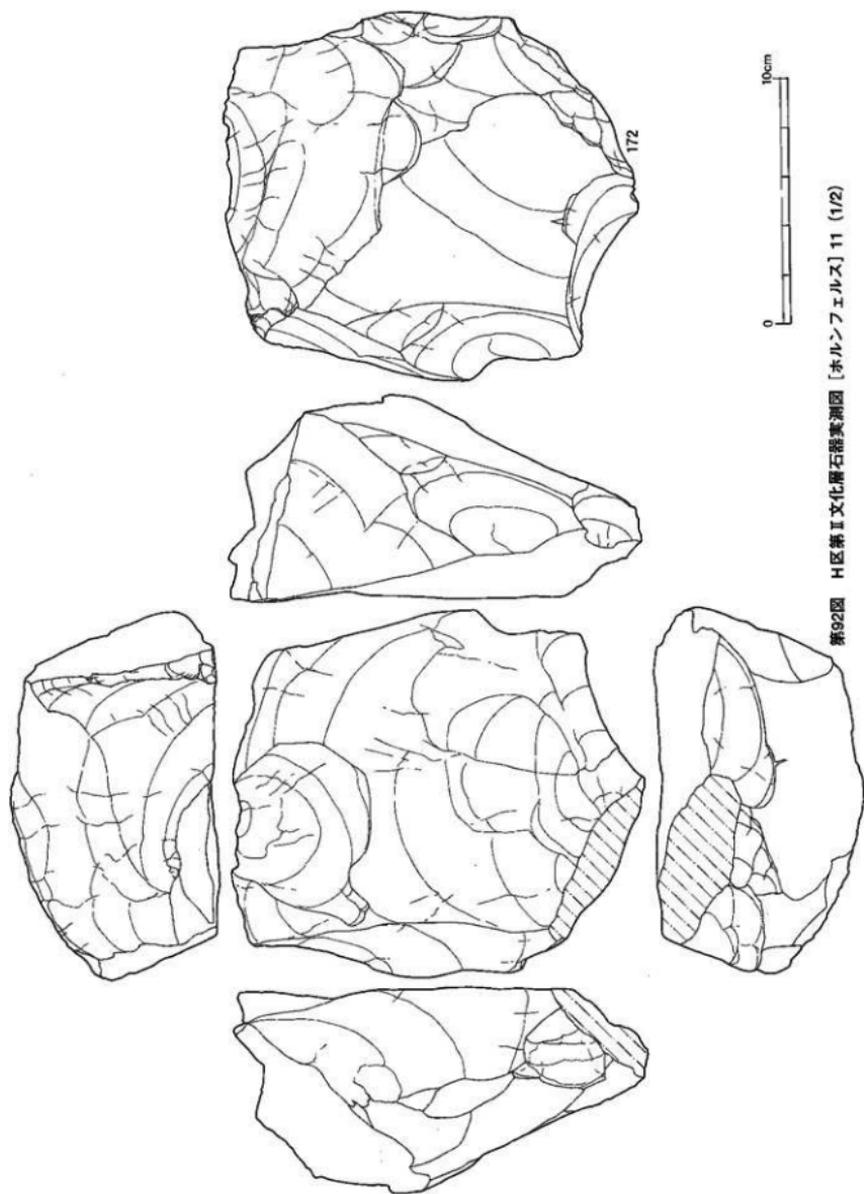
165



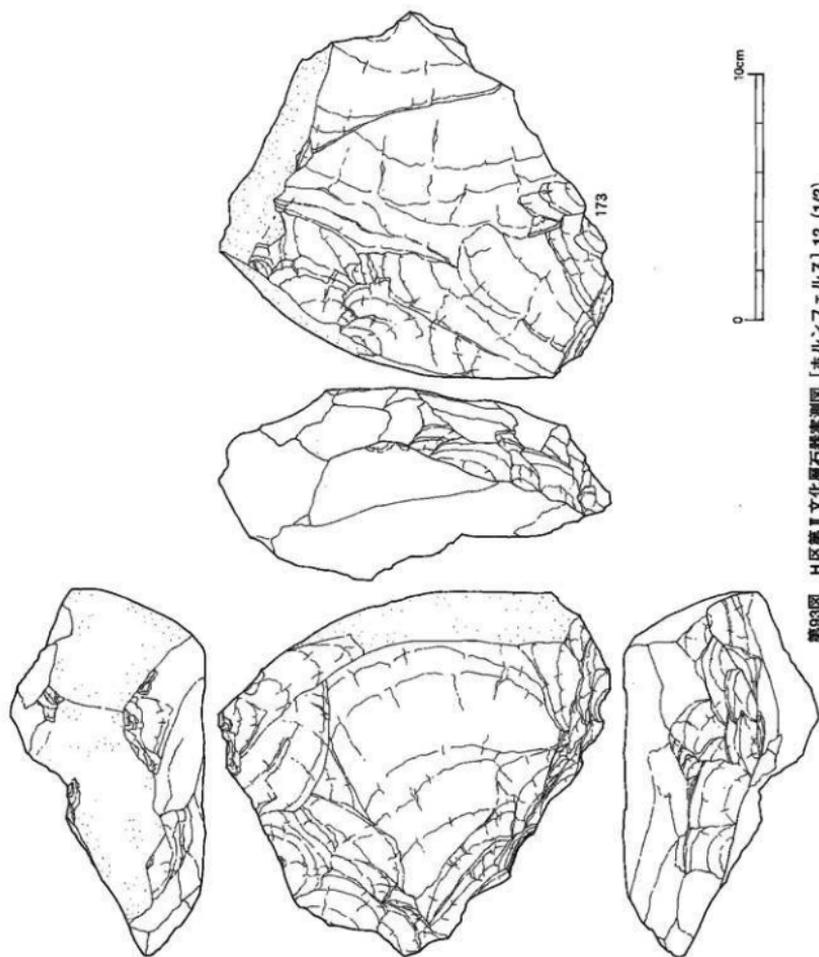
第90図 H区第Ⅱ文化層石器実測図 [ホルンフェルス] 9 (2/3)



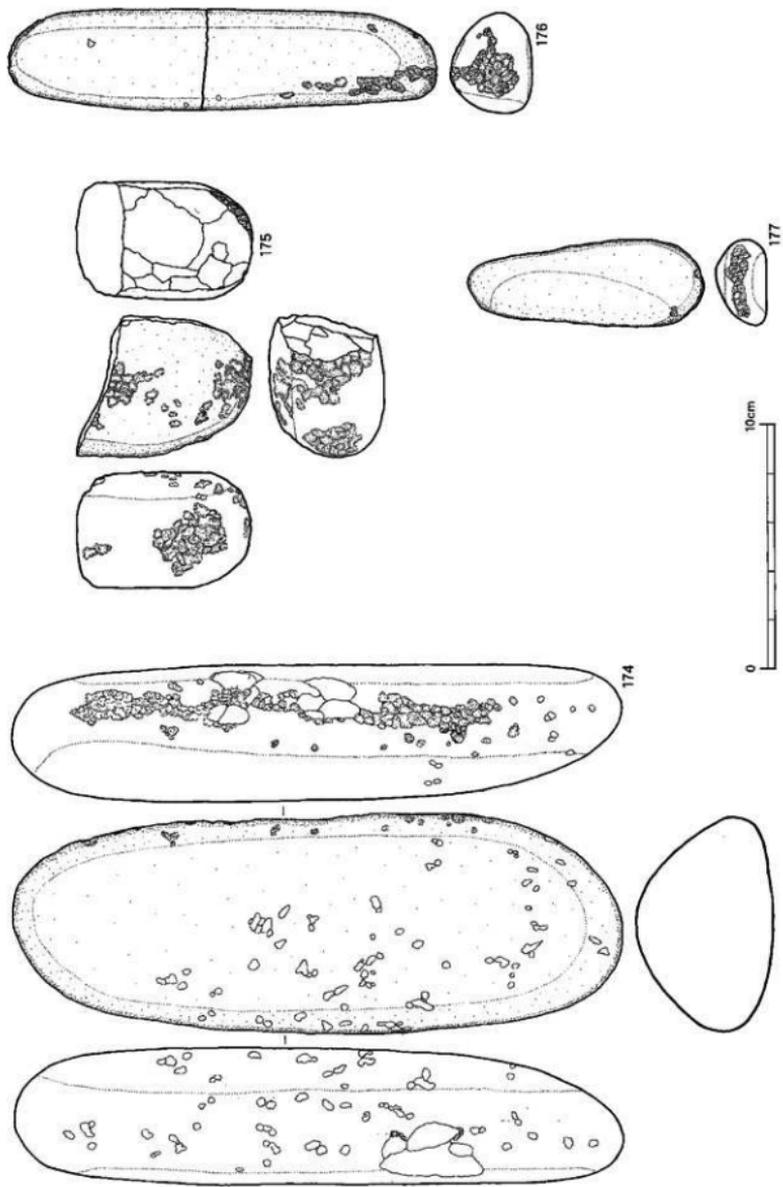
第91図 H区第II文化層石器実測図「ホルンフェルス」10 (2/3)



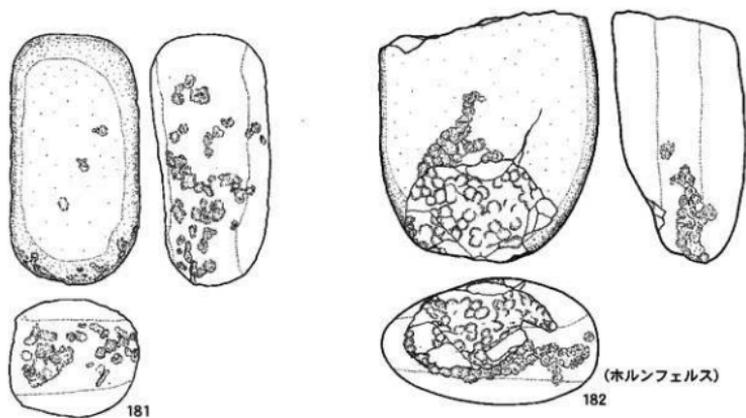
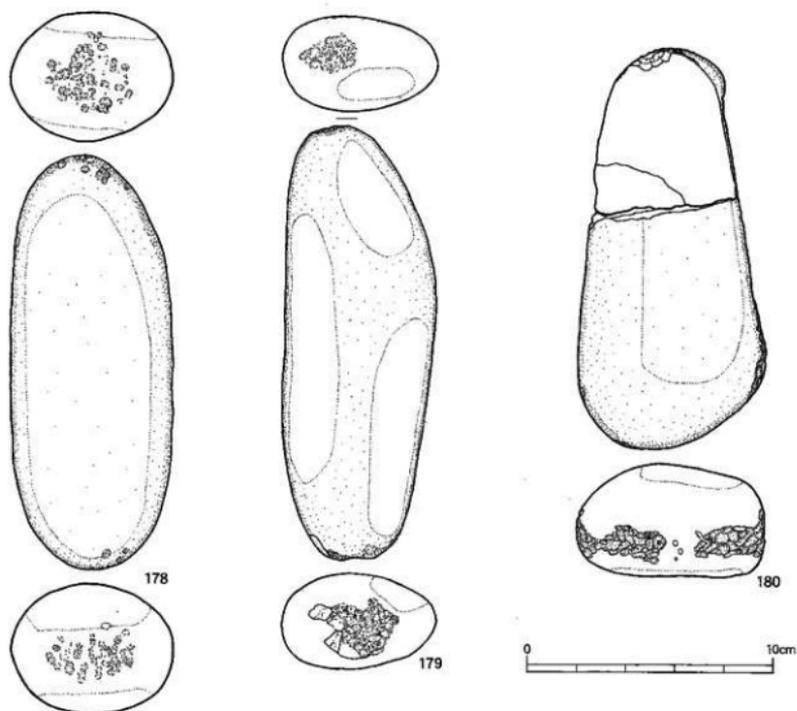
第92図 H区第Ⅱ文化層石器実測図 [ホルンフェルス] 11 (1/2)



第93図 H区第Ⅰ文化層石器実測図 [ホルンフェルス] 12 (1/2)

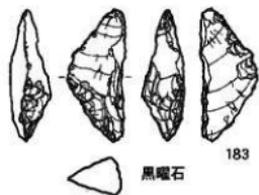


第94图 H区第Ⅱ文化层石器实测图 [砂岩] 1 (1/2)



(ホルンフェルス)

第95図 H区第Ⅱ文化層石器実測図 [砂岩] 2 (1/2)



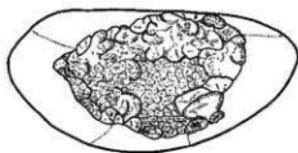
黒曜石

183



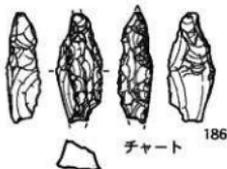
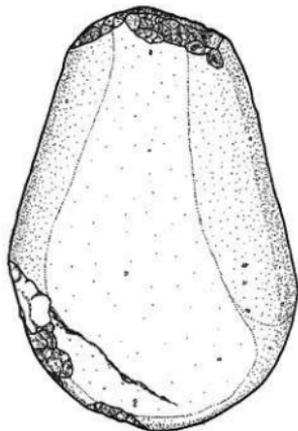
黒曜石

184



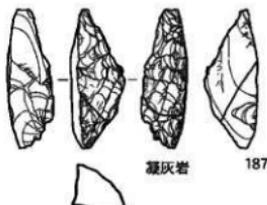
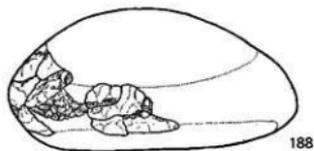
黒曜石

185



チャート

186

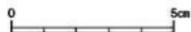


凝灰岩

187

石英斑岩

188



第96図 H区第Ⅱ文化層石器実測図 [その他の石材] (2/3)

(1) I 区の調査

① 調査の概要

I 区は、H 区の西側の一段高い所に位置し、土層図 (第98図) で示すように南東に傾斜している。調査前は畑地として利用されていたが、客土が厚く、土層の堆積は比較的安定している。

遺物は、冒層に包含されるが、遺構は検出できなかった。(第97図)

② 遺物 (第97・99図189~192)

出土した遺物は、剥片4点(頁岩A 2点、ホルンフェルス2点)、剥片尖頭器1点(ホルンフェルス)、角錐状石器1点(ホルンフェルス)であった。また、剥片2点が接合した。

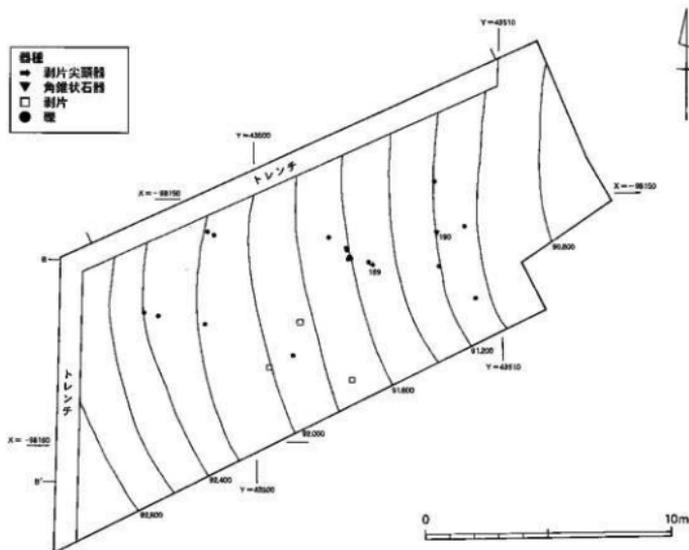
なお、第二次確認調査で出土した石核(頁岩A)と搔器(頁岩A)も図化している。

189は、ホルンフェルス製の剥片尖頭器である。両側面とも裏面側から調整加工が施される。裏面先端部に平坦剥離が施されている。

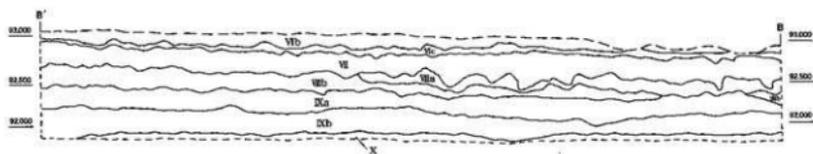
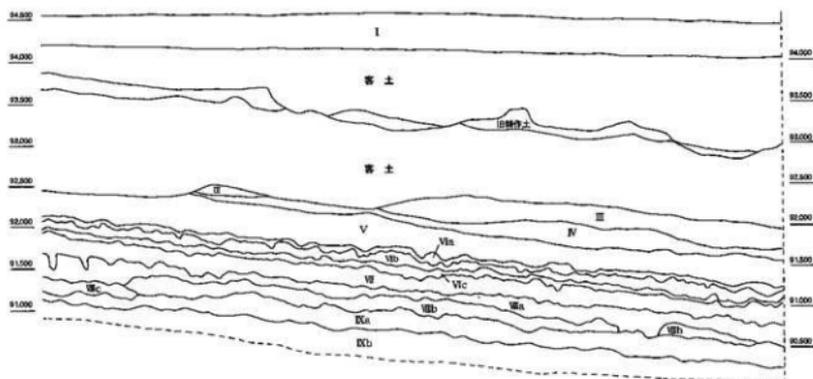
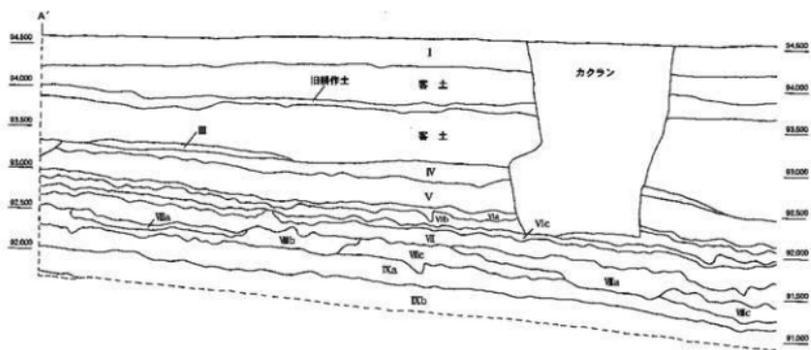
190は、ホルンフェルス製の一面加工の角錐状石器である。稜上側からと裏面側から調整加工が施される。

191は第二次確認調査のトレンチ4のVI b層から出土した頁岩A製の細石刃核である。一部に礫面が残る。

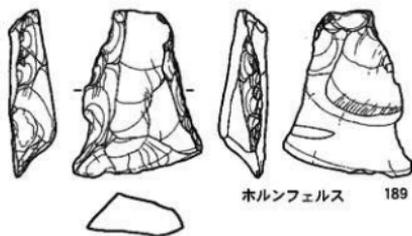
192は、第二次確認調査で攪乱層から出土した搔器である。裏面に平坦剥離が施されている。



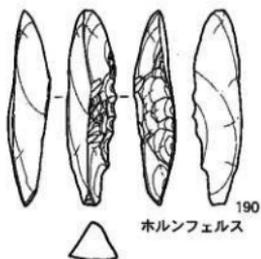
第97図 I 区第II文化層遺物分布図 (1/200)



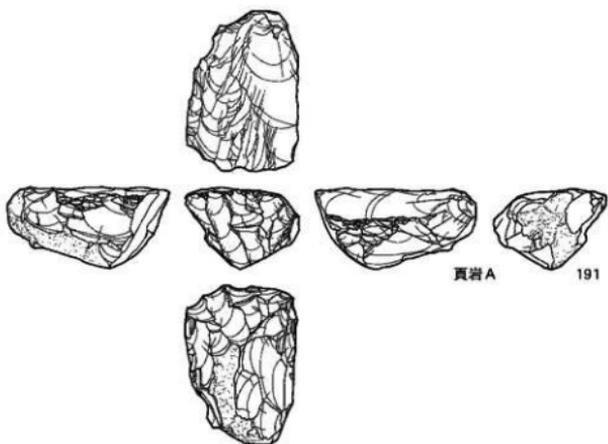
第98図 I区土層断面図 (1/60)



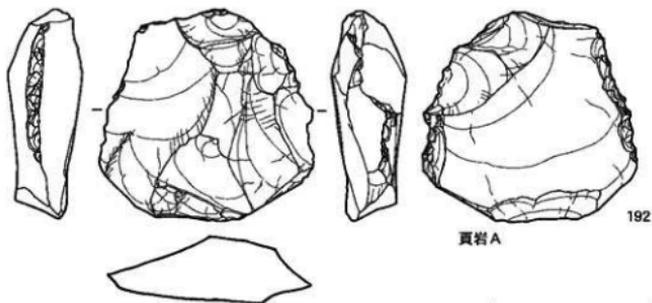
ホルンフェルス 189



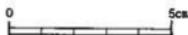
ホルンフェルス 190



頁岩 A 191



頁岩 A 192



第99図 I区第II文化層石器実測図(2/3)

礫 (第97図、第13表)

礫は、17点出土し、総重量4,415gを測る。個体数は、砂岩とホルンフェルスがそれぞれ47%を占める。赤化度に関しては、赤化しているものが41%を占

める。

完形度は低く、70%の礫がCランクのものであった。

また、接合関係は見られなかった。

石 材	個数 (個)	重量 (g)	円磨度			赤化度				完形度			形状			黒色付 着物		
			円	垂 円	重 角	非	弱	中	強	A	B	C	棒	扁 平	球	有	無	
頁 岩	0	0																
砂 岩	8	1,985		5	3		3	5		1		7	4	4			8	
尾 鈴 山 酸 性 岩	1	515		1			1			1		1					1	
ホルンフェルス	8	1,915	1	2	5		6	1	1	1	2	5	1	6	1		8	
そ の 他	0	0																
計	17	4,415	4	8	8	0	10	6	1	0	2	3	12	1	11	5	0	17

第13表 I区第II文化層礫石材別観察表

(5) 小結

F区・G区・H区の石器の主な石材について比較してみると右表ようになる (I区については、数が少ないので比較を避けた)。どの調査区も頁岩Aとホルンフェルスが大きな割合を示す。しかし、各調査区で若干の違いが見られ、F区は黒曜石43%、G区頁岩A41%、H区ホルンフェルス40%と一番大きな割合を示す石材が異なっている (第14表)。

剥片を除いて器種ごとに比較してみると、F区は角錐状石器が、G区とH区ではナイフ形石器が多い (第15表)。

また、H区では剥片・碎片を主にした遺物集中区が2箇所見られ、石器製作の場といった空間的な位置づけが推察される。2つの遺物集中区間の接合が見られることから、ほぼ同時期のものと考えられる。

礫の石材で比較してみると、どの調査区もホルンフェルスの割合が高いが、F区は、砂岩の割合も高い。またG区は、尾鈴山酸性岩の割合も高い (第16表)。

この期における植生と環境を植物珪酸体分析から推定する。H区の東壁と西壁のⅧ層およびⅤ層から試料を採取し、分析を行った結果、Ⅷ層からは、ミヤコザサ節が比較的多く検出され、キビ属型、ヨシ属、スキ属型、ウシクサ属A、イネ科Bタイプ、クマザサ属型なども検出された。これらのことから当時は、

クマザサ属 (おもにミヤコザサ節) などのササ類を主体としてスキ属やチガヤ属、キビ属などの見られるイネ科植生であったと考えられ、周辺にはヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。

またミヤコザサ節は、太平洋側の積雪の少ない所に分布することから、当時は、積雪の少ない比較的寒冷で乾燥した環境であったと推定される。これらの自然科学分析における詳細は、第V章に掲載している。

第14表 石器の石材比較(点数)

	頁岩A	流紋岩系	黒曜石	ホルンフェルス
F区	22%	6%	43%	25%
G区	41%	15%	8%	24%
H区	32%	6%	4%	40%

(I区については、数が少ないので比較を避けた)

第15表 石器の器種比較(点数)

	ナイフ形石器	角錐状石器	剥片尖頭器	石 核	剥片 碎片
F区	3.3%	6.7%	0.7%	2.7%	78.7%
G区	6.3%	3.2%	0%	0%	77.8%
H区	2.5%	0.4%	0.4%	2.9%	90.6%

(I区については、数が少ないので比較を避けた)

第16表 礫の石材比較(点数)

	頁岩A	流紋岩系	尾鈴山酸性岩	ホルンフェルス
F区	2.6%	42.0%	12.7%	42.0%
G区	5.4%	25.9%	25.0%	43.8%
H区	8.0%	21.8%	9.1%	59.7%

(I区については、数が少ないので比較を避けた)

[注] 主な石材だけで集計しているので100%にならない。

## 第4節 縄文時代早期の遺構と遺物

F・G・H区において縄文時代早期の遺物が出土した。遺物はⅣ～Ⅴ層に包含される。遺構は、ピット、土坑、炉穴3基、陥し穴状遺構が1基検出された。東九州自動車道建設に伴う調査では「MB0・ML1」に相当する。

### 1 F区の調査

#### (1) 調査の概要

アカホヤ除去後、V層面で土坑3基とピット1基を検出した。これらの遺構は、調査区西部には見られない。SC6が中央南部に位置するが、他は調査区東部に位置している。

また3～5cm程の土器片約250点と石器16点が出土した(第100図)。

以下、報告をするが、G区より調査を始めたので遺構番号が途中からになっている。

#### (2) 遺構

##### SC4 (第101図)

W2グリッド南東部で検出した。径約0.5m、深さ約0.2mの円形土坑で、遺物もなく、焼土もない。

##### SC5 (第101図)

V3グリッドで検出した。径約0.6m、深さ約0.2mの円形土坑で、埋土に土器片を3点含んでいた。小片のため図化はできなかった。焼土は確認できなかった。

##### SC6 (第101図)

V4グリッドで検出した。径約1m、深さ0.15mの円形土坑で、遺物もなく、焼土もない。

##### SH2 (第101図)

SC5から西へ約11mに位置している。径約0.55m、深さ約0.15mを測る。遺物もなく、焼土もない。

SC4・5・6、SH2の性格については、はっきりしなかった。

#### (3) 遺物

##### 縄文早期土器

縄文時代早期に位置付けられる土器が多数出土し

たが、細片が多く、器形や調整方法などによる分類が困難である。文様を主な着眼点として、第1類～第4類の分類を行った。ここでは、分類の基準と根拠を示し、若干の説明を行う。個々の詳細な情報については、後出の観察表(p158～p159)に記している。

なお、2cm以下の小さな土器片は、一括して取り上げた。

##### 縄文土器第1類(第102図193～200)

「押型文」である。文様によりさらに3つに細分する。

###### (a) 縦山形押型文(193～196)

胴部に縦方向の大きな山形押型文を施してあるものである。

###### (b) 横山形押型文(197～199)

胴部に横方向の細かい山形押型文を施してあるものである。口縁部では、内壁にも横方向の細かい山形文が見られる。

###### (c) 楕円押型文(200)

胴部に楕円形押型文を施しているものである。200は細片であるが、器壁は薄い。

##### 縄文土器 第2類(第102図201、203、204、206、第103図207)

内器面に獣毛痕がみられるものである。

##### 縄文土器 第3類(第102図202、205 第103図208、210)

「無文土器」である。

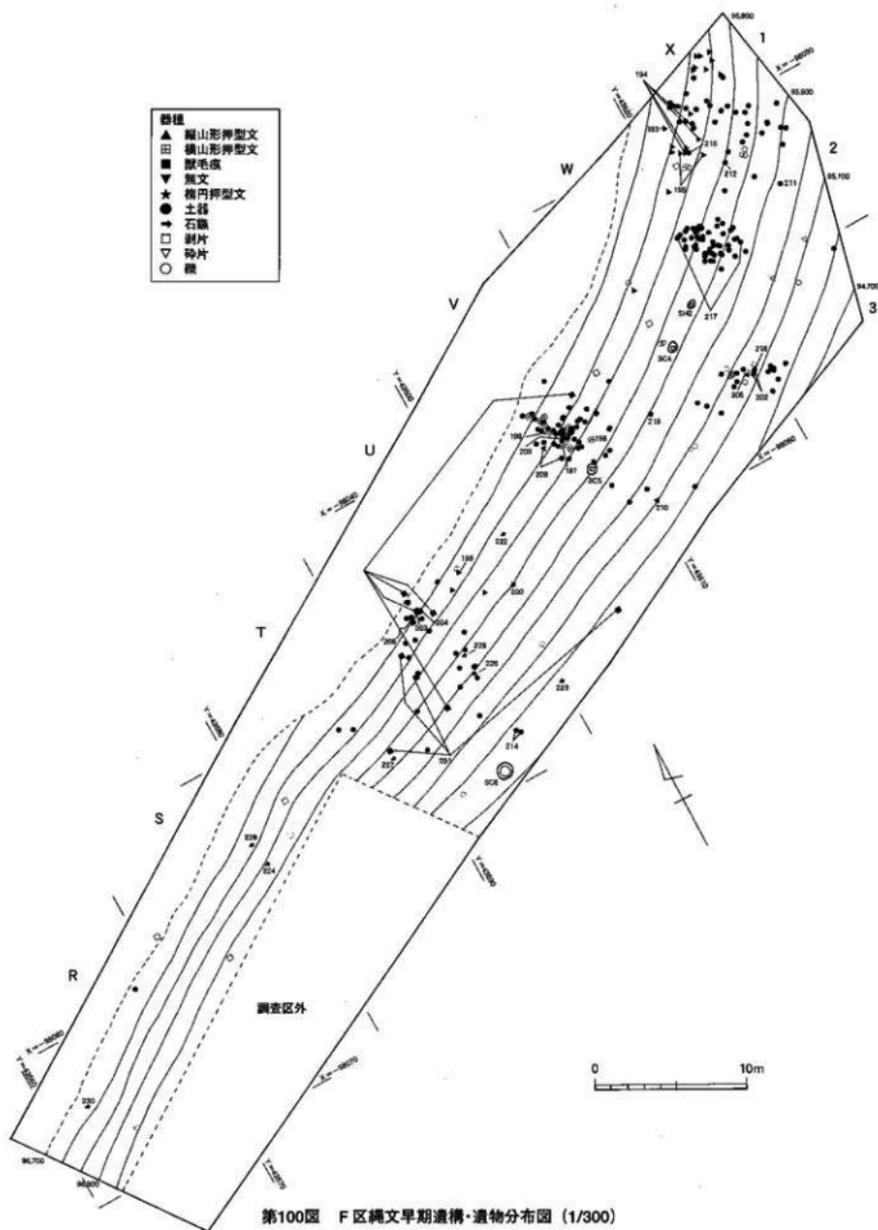
##### 縄文土器 第4類(第103図209、211～217)

その他、分類が困難なものを一括して扱う。

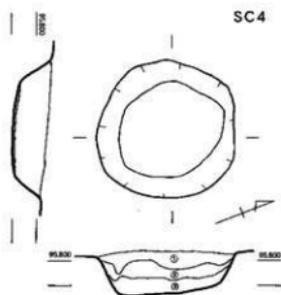
これらの土器の分布状況を見てみると、第1類(a)の縦山形押型文土器は調査区北東部に、第2類の獣毛痕土器は、調査区中央に分布している。第1類(b)の横山形押型文土器は、第1類(a)と第2類の間に分布している(第100図)。

##### 石器

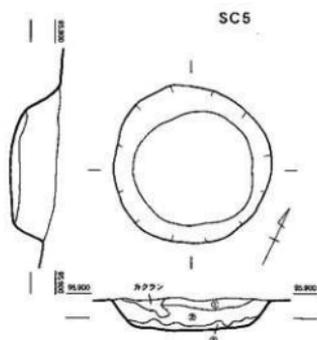
石鏃・剥片・チップが合わせて19点出土した。このうち8点の石鏃を図化した(第111図)。詳細は、紙面の都合上H区の遺物と同時に述べたい(P117参照)。



第100図 F区縄文早期遺構・遺物分布図 (1/300)

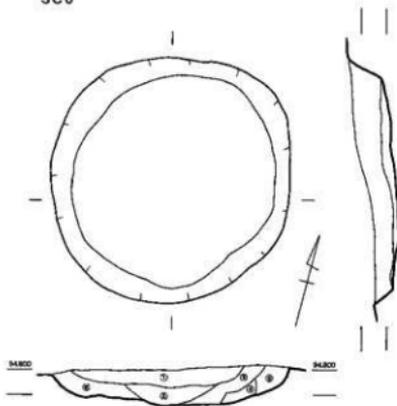


- ① 褐色土 (7.5Y R 4/3) 上面がアカホヤ火山灰を、下面が褐色粒を含む。やや硬質。  
 ② 暗褐色土 (10Y R 3/3) 1~3mmの褐色粒、1mm以下の白色粒を含む。硬質土で粘性がある。  
 ③ 暗褐色土 (10Y R 3/3) ②よりやや明るく褐色に近い。やや軟質土で粘性がある。



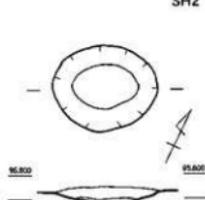
- ① 黒色土 (10Y R 2/2) サラサラして軟質。1mm程の褐色粒が少量見られる。  
 ② 黒褐色土 (10Y R 2/2) ①層よりやや暗い。褐色粒が見られずやや粘質である。  
 ③ 黒褐色土 (10Y R 2/2) 黒褐色土の中に褐色の2~3cmのブロックを含む。

SC6



- ① 黒褐色土 (7.5Y R 3/1) アカホヤ火山灰の粒子を含み、バサバサしており、軟質の部分と硬質の部分が見える。  
 ② 暗褐色土 (7.5Y R 3/3) アカホヤ火山灰を少量含み、やや粘性がある。灰化物が見られる。

SH2

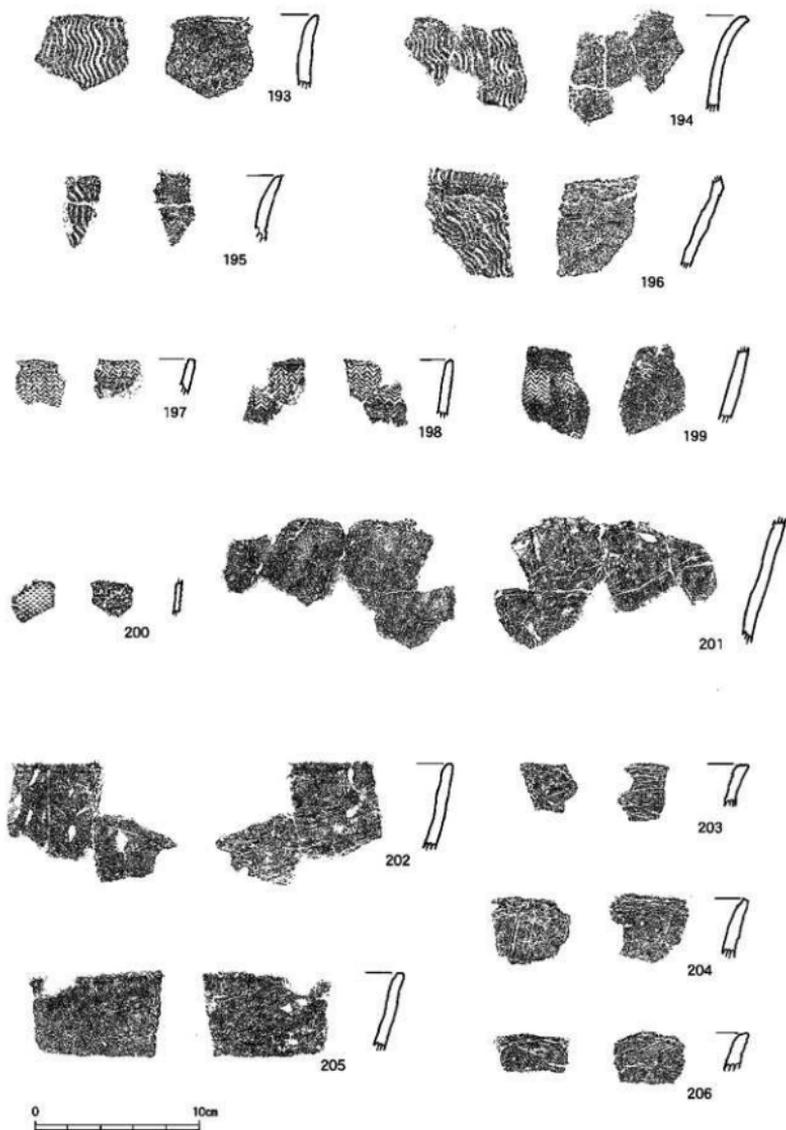


粘土はIV層黒褐色土 (10Y R 3/1) の一層でややしまっている。

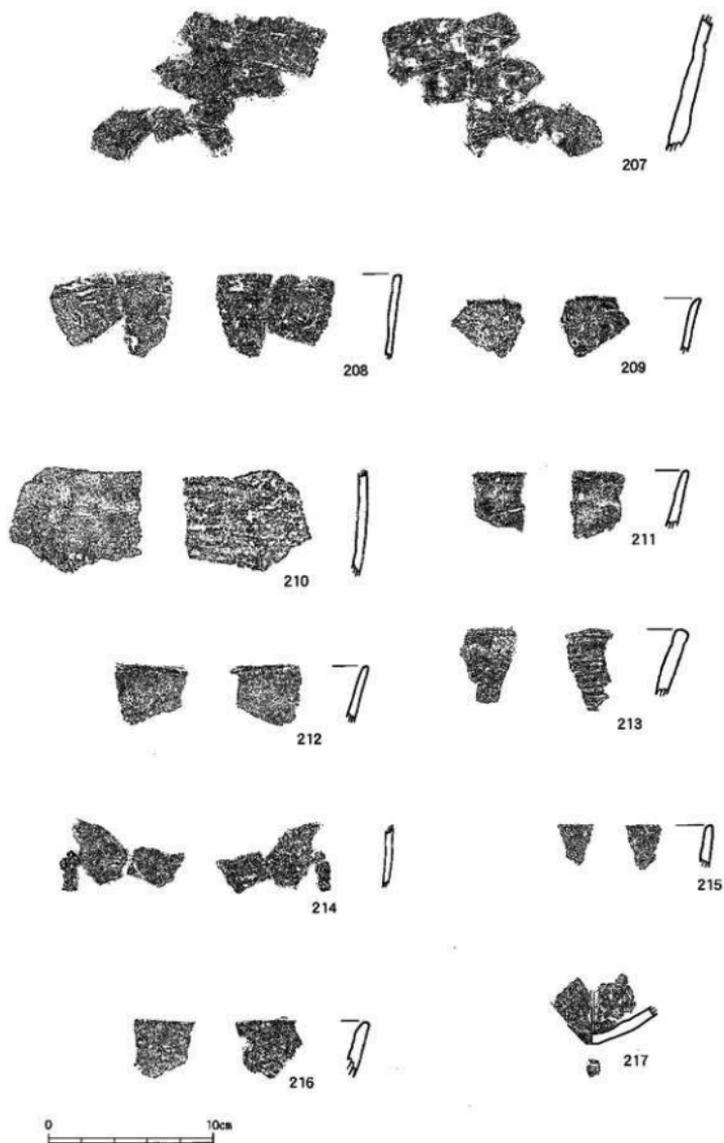
- ① 暗褐色土 (7.5Y R 3/3) アカホヤ火山灰を含まず、②に比べてやや硬質。  
 ② 暗褐色土 (7.5Y R 3/3) 1~5mmの褐色粒を含み、③よりやや硬質。  
 ③ 暗褐色土 (7.5Y R 3/3) ④よりやや硬質  
 ④ 赤黒色土 (2.5Y R 2/1) アカホヤ火山灰の粒子とII層が混ざっている。バサバサして軟らかい。



第101図 F区縄文時代早期遺構実測図 (1/20)



第102图 F区绳文早期土器实测图1 (1/3)

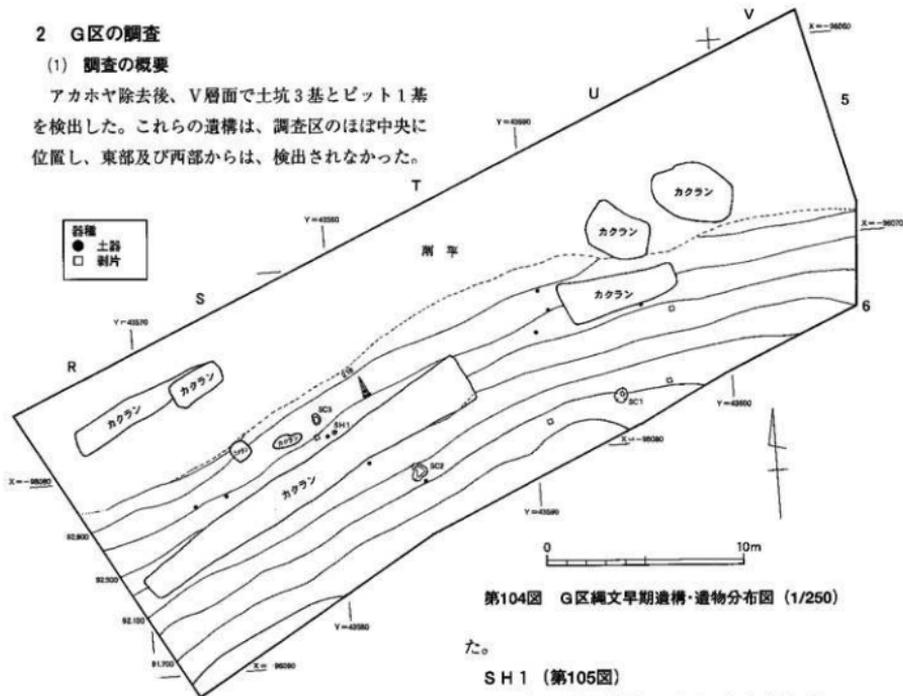


第103图 F区縄文早期土器実測图2 (1/3)

## 2 G区の調査

### (1) 調査の概要

アカホヤ除去後、V層面で土坑3基とピット1基を検出した。これらの遺構は、調査区のはほぼ中央に位置し、東部及び西部からは、検出されなかった。



第104図 G区縄文早期遺構・遺物分布図 (1/250)

遺物は、IV～V層に包含され、土器片12点と剥片4点を出土した。これらの遺物は調査区北部の削平部を除いた部分に疎らに分布している。

### (2) 遺構

#### SC1 (第105図)

調査区南東部のU6グリッドで検出した。径約0.75m、深さ約0.2mを測る。底部より炭化物を検出した。

#### SC2 (第105図)

T7グリッドの北部に位置する。大小の土坑が繋がったような不定形の土坑である。遺物、焼土とも検出されなかった。

#### SC3 (第105図)

S6グリッドの南東部に位置する。径約0.5m、残深0.15mを測る。遺物、焼土とも検出されなかつた。

た。

#### SH1 (第105図)

S6グリッドに位置し、SC4から南東へ約1mである。径約0.3m、残深約0.3mを測る。埋土は明黄褐色で焼土と思われる。一部炭化物粒も見られた。

### (3) 遺物

石器については、製品はなく、小さい剥片だけであつたので図化しなかつた。

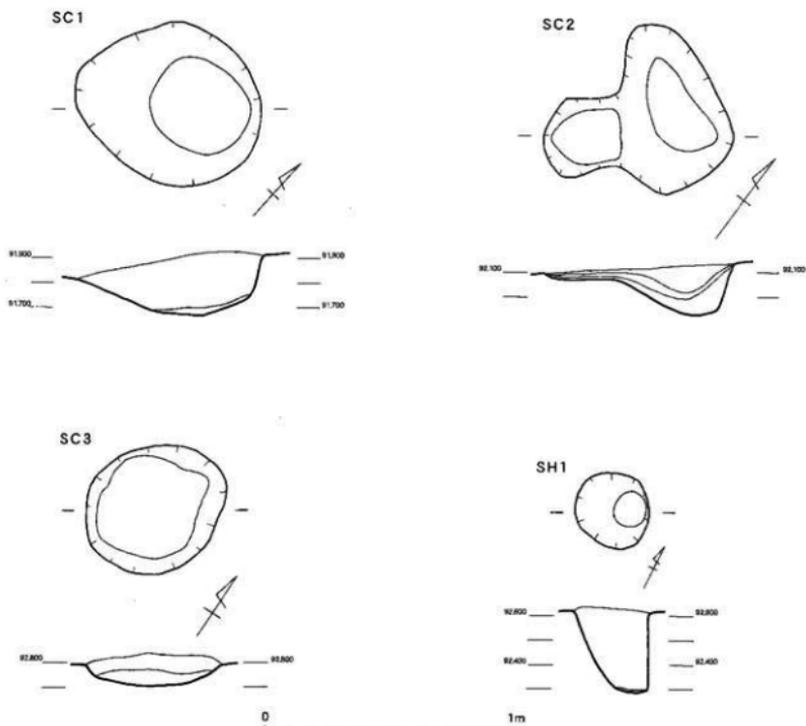
土器については、「F区の調査」で述べたような考え方で分類した。

#### 縄文土器第1類(a) (第106図218～219)

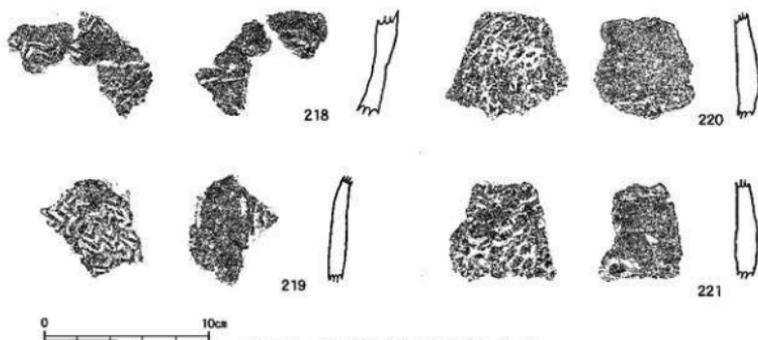
副部に縦方向の大きな山形押型文を施してあるものである。二つとも風化により摩耗がはげしい。219は、確認調査の第8トレンチより出土した遺物である。

#### 縄文土器 第1類(c) (第106図220～221)

副部に楕円形押型文を施しているものである。220・221ともに確認調査の第8トレンチより出土した遺物である。



第105图 G区绳文早期遗构实测图 (1/20)



第106图 G区绳文早期土器实测图 (1/3)

### 3 H区の調査

#### (1) 調査の概要

アカホヤ除去後、V層で石器を14点検出した。また、炉穴3基と陥し穴状遺構1基を確認した(第107図)。

#### (2) 遺構

##### 陥し穴状遺構(第108図)

旧石器時代の調査の後半に、T11グリッドの南壁面に掘り込みがあることに気づいてからの検出であったので、ほぼ半載に近い状態での確認となってしまった。平面形は、上面が楕円形(約1.3m×0.9m)と推察される。下面も楕円形(約0.9m×0.6m)であり、検出面からの深さは、約1.35mである。最下部は、MB3の下部まで達している。床面は、ほぼフラットで、杭痕跡は認められなかった。

##### 炉穴(第109図)

V11グリッドのIV層面で不定形の土坑として検出し、完掘したつもりであったが、旧石器時代の調査に移り、掘り下げて行く過程で壁面に断面が表出し、掘り足りていないことが分かった。掘り足りていない部分の再調査をしていく中で焼土を検出したので、炉穴と確定した。

上記のような理由で炉穴としての完全な記録はできなかったが、3つが切り合っており、不確定ではあるが、埋土の状況から1→2→3と作り替えられたものと考えられる。

#### (3) 遺物(第110図)

石鏃1点、石核2点、剥片7点、碎片4点が出土した。このうち石鏃1点と石核1点を図化した。石鏃については、F区で出土した8点とともに述べることにする。

石鏃は、形状において1類から3類の分類を行った。

第1類 正三角形のもの(222~223)

第2類 二等辺三角形のもの(224~226)

側縁の形によりさらに二つに分けた。

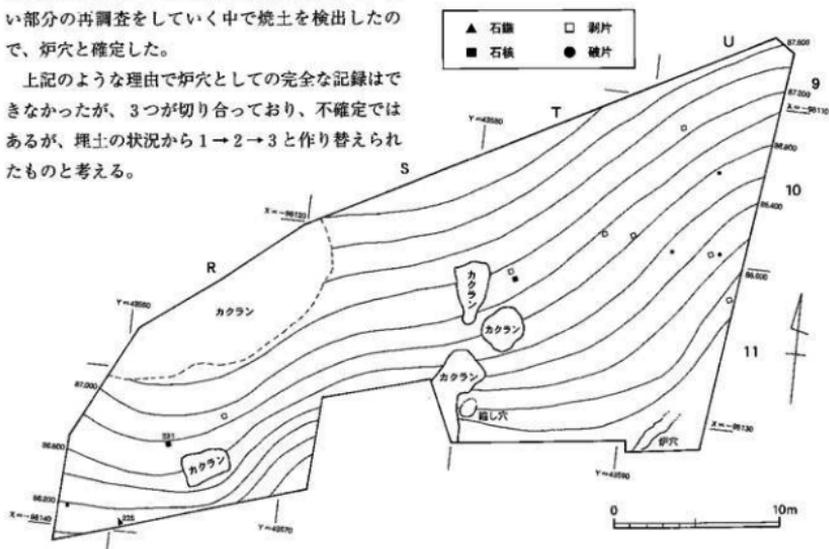
(a) 側縁が直線的にのびるもの(225)

(b) 側縁に丸みのあるもの(224・226)

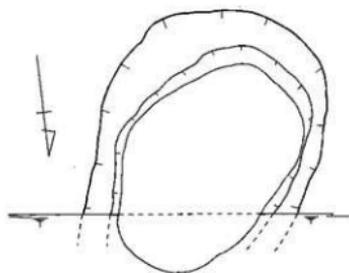
第3類 基部に挟りのあるもの(227~230)

223は、チャート製で、基部を平基に仕上げている。224は頁岩A製で、両側縁に丸みを持たせている。225は、チャート製で両側縁は直線的に仕上げている。230は頁岩A製で、基部にU字形の挟りをいれ脚を整形している。

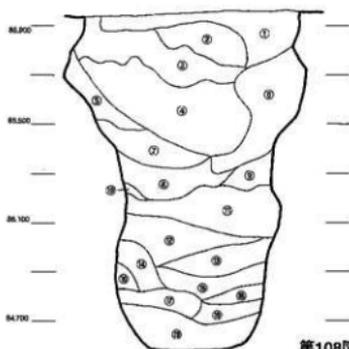
231は頁岩C製の石核で、打面を作出して、縦長の剥片を剝離したことが観察される



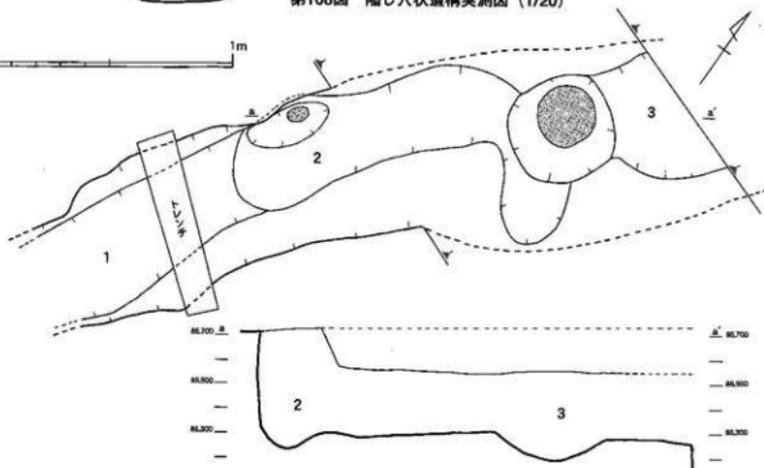
第107図 H区縄文早期遺構・遺物分布図(1/300)



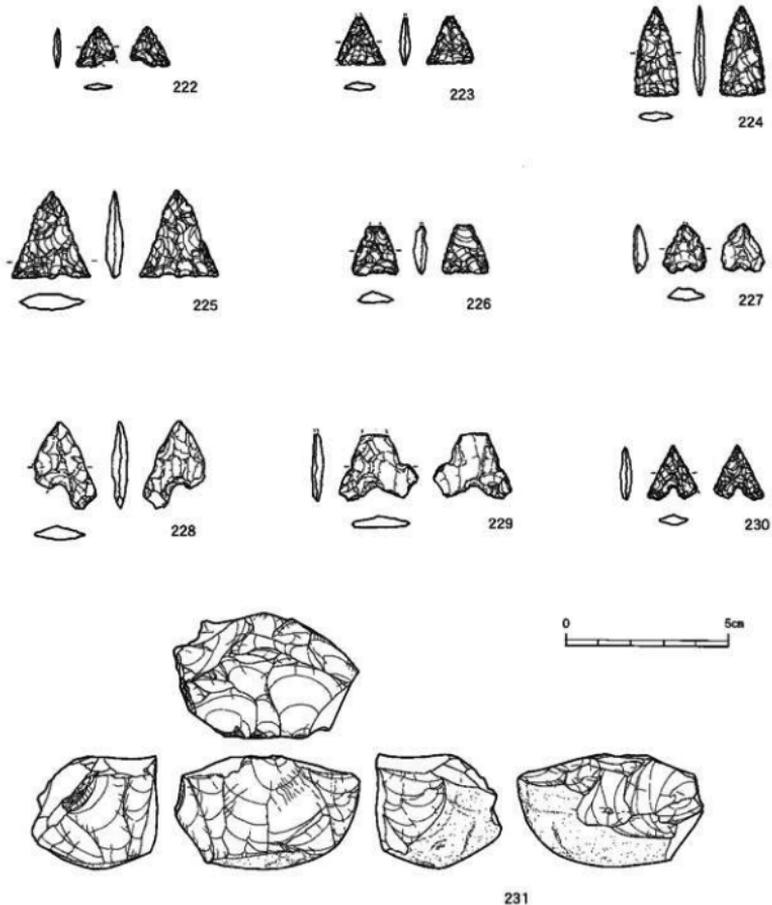
- ①褐色土 (75YR4/4) : Kr-Kbのブロックを少量含み、粘質土。
- ②暗褐色土 (75YR3/3) : Kr-Kbのブロックを多数に含みやや硬質。
- ③灰褐色土 (75YR4/2) : Kr-Kbを少量含む。暗褐色のブロックを少量含む。やや粘性あり。
- ④暗褐色土 (75YR3/3) : Kr-Kbをわずかに含み、暗褐色ブロックを多量に含む。硬質。
- ⑤褐色土 (75YR4/4) : 直層に近い土層。ややわかく粘質。
- ⑥褐色土 (75YR4/3) : 暗褐色に褐色のシミ状の斑点があり、粘質。
- ⑦暗褐色土 (75YR3/3) : ④に近く、Kr-Kbをまばらに含む。
- ⑧暗褐色土 (75YR3/4) : ⑦より粘く、硬質。
- ⑨暗褐色土 (75YR3/4) : ⑧に近いが、やや砂質で弱粘性。
- ⑩暗褐色土 (75YR3/4) : ⑧よりやや明るく、砂質土を少量含む。
- ⑪褐色土 (10YR4/4) : 褐色粒、白色粒をわずかに含み、硬質。
- ⑫にぶい黄褐色土 (10YR4/3) : 褐色粒をわずかに含む。白色粒を30%程含み、軟質。
- ⑬にぶい黄褐色土 (10YR4/3) : 褐色粒を少量含み、にぶい黒色帯が中央に見られる。⑫に近いがやや硬質。
- ⑭暗褐色土 (10YR3/4) : 黒炭が層全体をしめ、⑬由来の洞であるが、全体的に粘く、やや硬質。
- ⑮暗褐色土 (10YR3/4) : 層全体が硬でややわらかい。褐色粒をわずかに含む砂質土である。
- ⑯にぶい黄褐色土 (10YR4/3) : ⑮と同じ層であるが黒炭がない。
- ⑰黄褐色土 (10YR5/6) : A T由来と思われる砂質土。
- ⑱褐色土 (10YR4/4) : 黄褐色の砂質土に黒色土が混じる。
- ⑲褐色土 (10YR4/6) : ⑱より黒味を帯びている。やや硬質の砂質土。
- ⑳黒褐色土 (10YR2/3) : M B 3由来と思われる硬質粘質土。白色粒やA Tのブロックを含む。下位に炭化物が見られる。



第108図 陥し穴状構実測図 (1/20)



第109図 炉穴実測図 (1/20)



第110図 F・H区縄文早期石器実測図 (2/3)

#### 4 小結

F区において縄文土器が多数出土したが、細片であることと、集石遺構等も検出されなかったことから、流れ込みの可能性も否定しがたい。

H区で検出された陥し穴状遺構は、舌状の丘陵地の縁に作られており、南部の谷の湧水を求めてやって来る動物をねらったものと思われ、生活の場は別の所であり、炉穴とは時期を異にするものとする。

## 第5節 アカホヤ降灰以降の遺構と遺物

F区では、表土直下の第Ⅱ層面から硬化面を、さらに第Ⅲ層面から道路状遺構と溝状遺構を検出した。I区でも、第Ⅲ層面で道路状遺構と溝状遺構を検出した。

### 1 F区の調査

#### (1) 調査の概要

F区は、本遺跡が立地する丘陵部東側斜面の一番高い所に位置する。調査前は宅地として利用されていたが、旧地形は南東にゆるやかに傾斜する。

確認調査の際に入れた東端のトレンチで、表土下に硬化面を確認した。本調査では、このトレンチを中心に遺構があると推測される範囲約150㎡の表土を除去すると、北側半分は、Ⅱ層が削平され、表土下はⅢ層（アカホヤ層）であった。その結果、南側第Ⅱ層面に硬化面のみが残る2条の道路状遺構（SG1、SG2）と北側アカホヤ面に硬化面のみが残る2条の道路状遺構（SG3、SG4）を検出した。さらに北側アカホヤ面では帯状の黒い筋2本（SE1・2、SG5・6）を検出するに至った（第111図）。そこで、ここではSG1、SG2、SE3、SG4から報告することにする。

#### (2) 遺構（第111図）

##### SG1（第111図・112図AA'）

硬化面が帯状に残る本遺構は、現存長約3mを測り、主軸は概ね北東の方向を取る。北東部分は削平の影響を受け消滅しているが、SG3の硬化面と酷似していることからSG3に繋がっていたものと思われる。幅員約50～75cm、厚さ4～5cmであり、疎らに0.5～1cmの小石を含んでいる。硬化面より土師器片が出土したが、小片であるため構築時代を特定するようなものではなかった。

##### SG2（第111図・112図BB'）

現存長約8mで、主軸は概ね北北東の方向を取り硬化面のみを残す。北東部は削平の影響を受け消滅しているが、SG4の硬化面と酷似していることからSG4に繋がっていたものと思われる。幅員約45～60cm、厚さ3～4cmであり、1mm大の橙色粒を疎

らに含み、強固にしまっている。構築時期は、SG1に切られていることからSG1以前であったと推察する。構築時代は、硬化面底より土師器の杯底部が出土したことから、古代に構築された道ではないかと推察する。

##### SG3（第111図・112図CC'）

現存長約2mを測り、主軸は概ね北東の方向を取る。南西部は削平の影響を受け消滅しているが、先に述べたようにSG1に繋がっていたものと思われる。硬化面のみを残し、幅員40～70cm、厚さ4～5cmである。本来は、幅員、深さともに現在より規模の大きい遺構であり、アカホヤよりも上の層からのほりこみであることが調査区北壁の上層断面E'E'から看取される。

##### SG4（第111図・112図DD'）

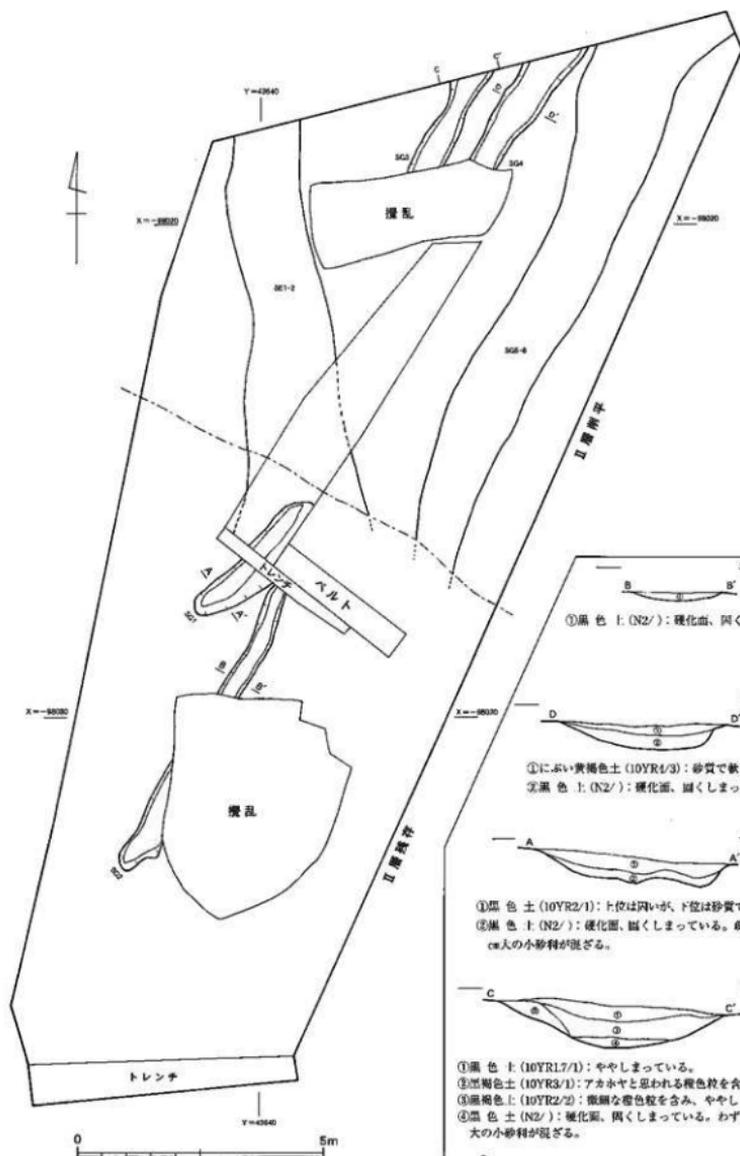
現存長約2.5mを測り、主軸は概ね北東の方向を取る。南西部は削平の影響を受け消滅しているが先に述べたようにSG2に繋がっていたものと思われる。硬化面のみを残し、幅員60～80cm、厚さ5～6cmである。

##### SG5（第113図・114図dd'・ee'）

現存長約13.5mを測り、主軸は概ね北北東の方向を取る。南西部は削平の影響を受け消滅している。幅員は上面で0.7～1.8m、深さは完掘状態で最大約45cmを測り、断面は上部が大きく開くU字状を呈している。土層断面の観察により、SG6を切っている。SG5はSG6を作り替えたものと推察される。

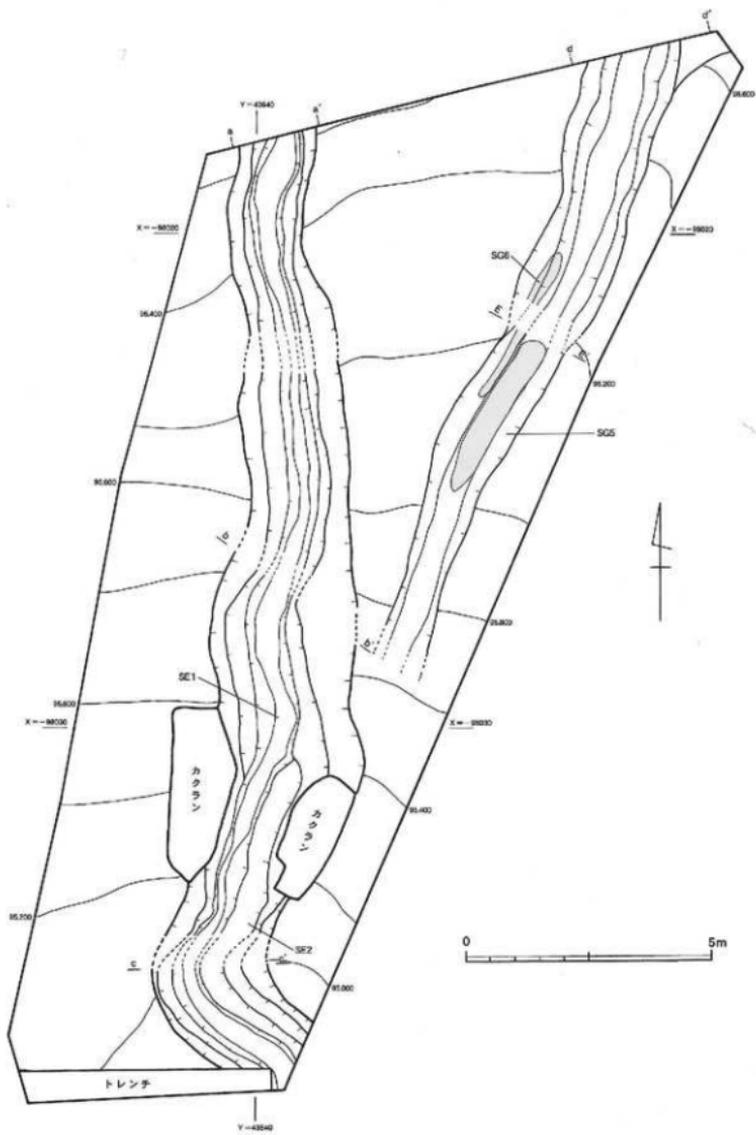
硬化面は部分的に消失しているが、幅員約50～60cm、厚さ2～4cmで遺構底部に形成されている。音明寺第1遺跡および本遺跡の一次調査で検出された、硬化面下のピットは、検出されなかった。

出土遺物は、床面より土師器片が出土しているが、いずれも小片であり、時代特定はできない。埋土からは霧島高原スコリアと思われる火山灰を検出した（第V章自然科学分析参照）。



第111図 SG1~4全体図 (1/100)

第112図 SG1~4土層断面図 (1/20)



第113図 SG5-6、SE1-2全体図 (1/100)



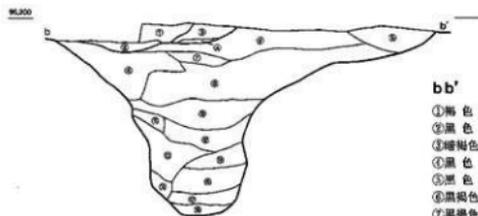
aa'

- ①黒色土 (10YR1.7/1): しまっており、粘性がある。
- ②暗褐色土 (10YR3/3): アカヤギが粒状に混じり、やわらかい。
- ③黒色土 (10YR2/1): ①に似ているがザラザラしている。
- ④黒褐色土 (10YR3/2): 1~2mm程度の小砂粒を少量含む。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/3): ④より大きい小砂粒を多く含む。



dd'

- ①黒色土 (10YR2/1): 固くしまっており、Kr-Thaと思われる火山灰を層状に含む。
- ②黒色土 (N2/): ①よりやわらかい。
- ③暗褐色土 (10YR3/2): ②よりやわらかい。
- ④黒褐色土 (10YR3/1)
- ⑤褐色土 (10YR4/4): 微細な橙色粒を含む。
- ⑥褐色土 (10YR4/4): やわらかくしまっていない。
- ⑦無褐色土 (10YR3/2): 固くしまっている。
- ⑧黒色土 (10YR1/7)
- ⑨褐色土 (10YR4/3): しまっていないが、④より固い。



bb'

- ①褐色土 (7.5YR4/4): S G 1の風土。乾きが早く、サラサラしている。
- ②黒色土 (N1.5/): S G 1の硬化面。固くしまっている。
- ③暗褐色土 (7.5YR3/4): S G 2の硬土。①より少し脆い。
- ④黒色土 (N2/): S G 2の硬化面。固くしまっている。
- ⑤黒色土 (10YR1/7): ④よりやわらかい。
- ⑥黒褐色土 (7.5YR2/2): 1mm程度の粒状の石を含み、しまっている。
- ⑦黒褐色土 (7.5YR2/2): 1mm程度の板状の石を多く含む、⑤より固い。
- ⑧黒色土 (10YR1/7): やや軟らかい。
- ⑨黒色土 (10YR2/1): 固くしまっており、弱粘性。
- ⑩黒色土 (7.5YR1/7): ④より粘性が強い。
- ⑪無褐色土 (7.5YR2/2): ①より大粒の石を多量に含む、しまっていないがボロボロとくずれる。
- ⑫黒色土 (7.5YR1/7): ④より粒が小さい。
- ⑬黒色土 (2.5Y2/1): やわらかく、しまっていない。
- ⑭暗褐色土 (10YR3/3): 1~5mm程度の粒状の石と微細な橙色粒を疎らに含む。
- ⑮灰褐色土 (10YR4/2): やわらかく粘性がある。
- ⑯灰褐色土 (10YR5/2): ⑬より大粒の石を密に含む、砂質。
- ⑰にぶい黄褐色土 (10YR4/3): 非常にやわらかく、編状の堆積が見られる。
- ⑱にぶい黄褐色土 (10YR5/4): 非常にやわらかく、しゅわいている。砂質。



cc'

- ①黒色土 (2.5Y2/1): 粘性があり、しまっていない。
- ②黒色土 (7.5YR1.7/1): bb'の④に似ている。
- ③黒色土 (7.5YR2/1): ②より粒が細かい。
- ④黒色土 (5Y2/1): ①よりやわらかい。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/3): ④よりやわらかく砂質。
- ⑥にぶい黄褐色土 (10YR5/4): 2~5mm程度の石を含み、しまっていないがボロボロとくずれる。
- ⑦暗褐色土 (10YR3/3): 1mm程度の粒状の石を密に含む、砂質。
- ⑧にぶい褐色土 (10YR4/3): ⑦と⑧の中間の小砂粒を多量に含む、砂質。
- ⑨黒褐色土 (10YR3/1): 1mm程度の粒状の石を少量含む砂質。
- ⑩褐色土 (10YR4/4): 5~10mm程度の小砂粒を多量に含む、砂質で、しまりが無い。
- ⑪無褐色土 (10YR3/1): 5mm程度の小砂粒を少量含む、やわらかい。



ee'

- ①黒色土 (N2/): やわらかい。上位から徐々に色が薄くなる。
- ②黒色土 (10YR2/1): やわらかい。
- ③黒色土 (N2/): 硬化面、非常に固い。
- ④黒褐色土 (10YR3/2): やわらかく、しまっていない。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/3): アカヤギと思われる粒を含む。
- ⑥黒色土 (N2/): 硬化面、非常に固い。



第114図 SE1-2、SG5-6土層断面図 (1/40)

## SG 6 (第113図・114図 d d'・e e')

遺存状況は悪く、硬化面が約3m残り、調査区北東角へ抜けていくのがわずかに観察される。土層断面の観察により、SG 5に切られているので、構築時期はSG 5以前と推察する。

## SE 1 (第113図・114図 a a'・b b'・c c')

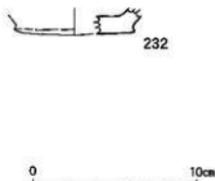
調査区を南北に横切る本遺構は、南端で東に大きく曲がり南東角へぬける。現存長約19mを測り、主軸は概ね北の方向を取る。幅員は上面で約1.5～2.2m、深さは完掘状態で最大約1.5mを測り、断面はV字状を呈している。SE 2を切っているので、SE 1はSE 2を作り替えたものと推察される。また、構築時期は、SG 1とSG 2に切られているので、SG 2以前と推察される。

## SE 2 (第113図・114図 a a'・b b'・c c')

本遺構は、調査区南東角から屈曲して北へ伸びるが、現存長約7mで、SE 1に重複しながら消滅する。構築時期は、SE 1に切られているのでSE 1以前と推察される。

### (3) 遺物 (第115図232)

232は、土師器の杯の底部である。SG 2の硬化面底より出土した。底部の一部であるため、時期は特定できないが、ヘラ切りで推定底径6.6cmである。



第115図 SG 2 出土遺物実測図 (1/3)

## 2 I 区の調査

### (1) 調査の概要

I 区は、本遺跡が立地する丘陵部西側斜面に位置する。調査前は、畑地として利用されており、基盤整備により、客土が約1m～2m地積する。確認調査において本調査区の東と西の2つのトレンチでアカホヤ面に遺構を確認した。

そこで、本調査では表土及び客土を重機で除去し、精査していくとアカホヤ面で13条の道路状遺構と2条の溝状遺構を検出するに至った(第116図)。

### (2) 遺構 (第116図)

#### SG 7 (第116・117図 A A')

I 区南西端に位置する本遺構は、現存長約6.5mを測り、主軸は概ね北東の方向を取る。SG 8に切られている。

#### SG 8 (第116・117図 A A')

SG 7を切る形で位置する本遺構は、現存長約7mを測り、主軸は概ね北東の方向を取る。幅員は上面で約50～60cm、深さは最大約25cmで、断面はU字型となる。土層断面の観察により、SG 7を作り替えたものと推察される。

硬化面は、幅員約40～50cm、厚さ約20cm、7層で形成されている。長い間踏み固められた結果、このような厚い硬化面になったとも考えられるが、一次調査の結果を踏まえると、人為的な土木工事(版築)によって形作られた可能性が高いと考えられる。

#### SG 9 (第116・117図 B B', C C')

SG 8の北約1mに平行して位置する本遺構は、現存長約9mを測る。SG 10に切られており、東端ではSG 10に重複する。硬化面は、幅員約20～30cm、厚さ10～15cm、遺構底部に3層で形成される。埋土中より黒曜石の剥片が出土した。

#### SG 10 (第116・117図 B B', C C')

現存長約11mを測り、主軸は概ね北東の方向を取る。幅員は上面で約0.8～1.3m、深さは完掘状態で最大約30cm、断面は上部の開いたU字型となる。土層断面の観察により、SG 9を作り替えたものと推察される。

硬化面は、幅員約30~40cm、厚さ5~10cmで遺構底部に1層で形成されている。

#### SG11 (第116・117図D D')

I区東部中央で検出した遺構である。遺存状況が悪く、約3.5mの長さしか確認できなかった。幅員は約40~50cm、深さは約40cmを測る。硬化面は幅員約30cm、厚さ5~8cm、遺構底部に3層で形成される。

#### SG12 (第116・117図G G')

I区のほぼ中央に位置する本遺構は、現存長約7m、幅員約30~40cm、深さは完掘状態で最大約20cmを測る。遺構は、SG17に切られており、SG17に交差しながら東に曲がり、約5m先で消滅している。また、SG17より以南は遺存状況が悪く、硬化面底部のみが残り、調査区中央南部で消滅している。

SG17と交差している部分の硬化面の下からは、約2mの間に4基のピットを確認した。これらのピットは、長径約28~48cm、短径約20~32cmを測り、楕円形を呈している。ピットの並びを円の中心間距離でみると約30~70cmとまばらで、深さは約5~7cmと浅い。

#### SG13 (第116・117図E E')

本遺構は、調査区南西角から北東方向に伸び、調査区中央でSG14に重複しながら消滅する。SG14に切られている。

#### SG14 (第116・117図E E')

調査区南西角から北東方向に伸び、調査区中央でSG17と接して一時消滅するが、北壁近くのSG18の埋土上部に硬化面がわずかに残り、断面観察からSG13を作り替えたものと推察される。現存長約16m、幅員約70~80cm、深さ5~15cmを測る。削平により遺存状況は悪く下部しか確認できなかった。土層断面の観察により、SG18を切っている。

#### SG15 (第116図)

I区のほぼ中央に位置するが、削平により遺存状況が悪く、底部の約2mの長さしか確認できなかった。SG17との接点で消滅する。

#### SG16 (第116・117図I I')

調査区西部でSG17、SG18と重複し、調査区中央部からは、北へ曲がり、消滅する本遺構は、現存

長約9m、残深約50cmを測る。硬化面を断面I I'付近で約3m確認した。断面観察からSG17とSG18に切られている。幅員は、確認できなかった。

#### SG17 (第116・117図I I'・G G'・F F')

I区を東西に横切る本遺構は、調査区中央までSG18と重複するが、SG18に沿って蛇行せず、ほぼまっすぐに東へ伸びる。延長約25m、幅員約60~120cm、深さ約20~60cmを測り、断面は上部の開いたU字型を呈す。東端と西端の底面のレベル差は、約1.6mで東に下る。硬化面は、中央のSG14と交差する付近で消滅し、中央より東部では硬化面を確認できなかった。埋土中に新燃岳スコリア(1717年)が見られる。

#### SG18 (第116・117図I I'・H H'・J J')

I区を東西に蛇行しながら横切る本遺構は、延長約25m、幅員約80~130cm、深さ約40cmを測り、断面は上部の開いたU字型を呈す。東端と西端の底面のレベル差は、約1.5mで東に下る。

硬化面の遺存状況は悪く、中央から東部はほとんど残っていない。西側に一部残る硬化面は、幅員約15~30cm、厚さ2cmで、遺構底部に形成される。SG17に切られている。

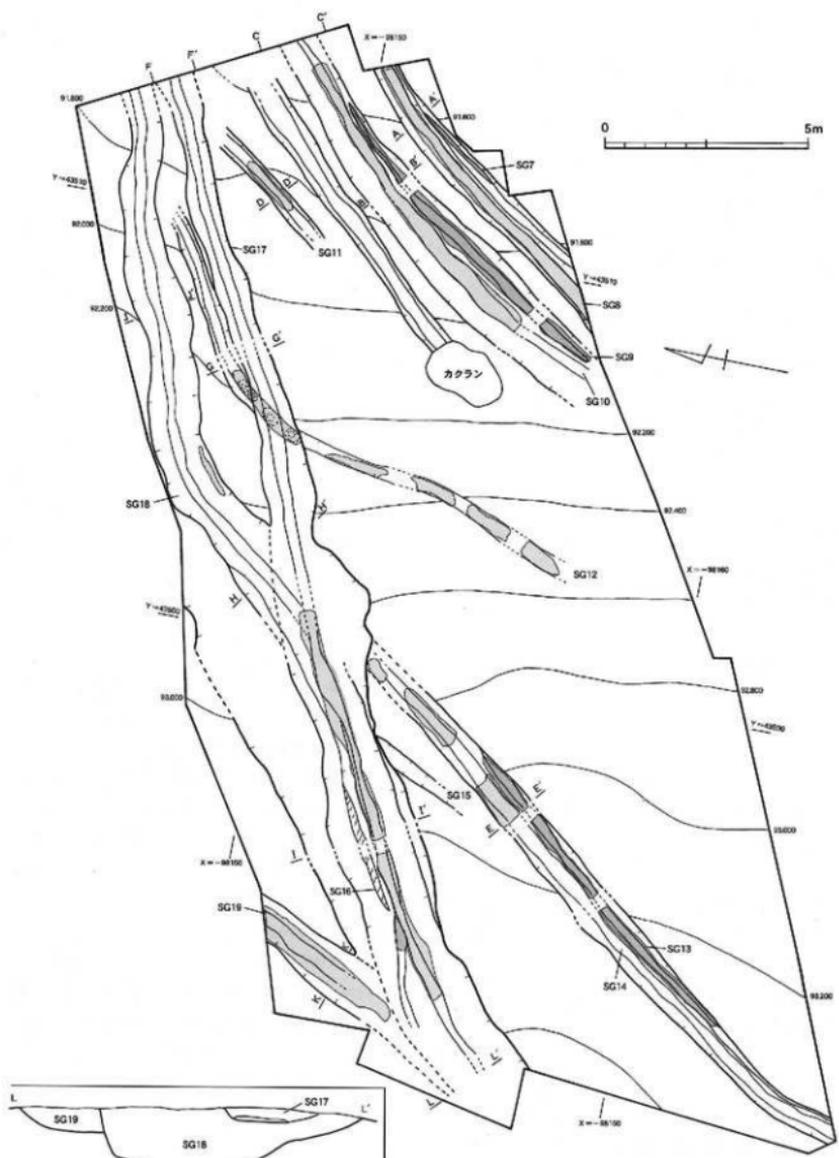
埋土中から霧島高原スコリア(10C~13C)が検出される。

#### SG19第(第116・117図K K')

I区北西端に位置する本遺構は、調査区北壁と西壁に接し、現存長約4m、幅員約90~120cm、深さ約25~30cmを測る。硬化面は、幅員約40cm、深さ約25cmで、遺構底部に8層で形成される。SG18に切られている。遺物は検出されなかった。

#### SE3 (第116図)

SG10の約1m北に平行して位置する本遺構は、幅員約50~80cm、深さ約10cmを測る。南西端は、擾乱に接して消滅し、北東端は、調査区東壁近くで消滅する。硬化面、遺物とも確認できなかった。



第116図 I区道路状遺構全体図 (1/120)



AA'

I 区

- ①黒色土 (10YR2/1): 非常に固く硬化している。微細な褐色粒を含む。
- ②灰褐色土 (10YR4/2): 砂質で非常に固く硬化している。
- ③黒色土 (N2): 微細な褐色粒をわずかに含み、非常に固く硬化している。てかりがあり弱粘性。
- ④黒色土 (N2/1): 微細な褐色粒を含みまっている。
- ⑤黒褐色土 (10YR3/1): やわらかい。
- ⑥黒色土 (10YR2/1): しまっている。
- ⑦黒褐色土 (2.5Y3/1): 微細な褐色粒が細い塊状に入る。非常に固く硬化している。
- ⑧黒褐色土 (2.5Y3/1): アカホヤと思われる粒をわずかに含み、固くしまっている。
- ⑨黒色土 (2.5Y2/1): 部分的にてかりがあり、非常に固く硬化している。
- ⑩黒褐色土 (10YR3/1): ⑤よりやわらかい。
- ⑪黒褐色土 (10YR3/2): 砂質で、非常に固く硬化している。
- ⑫黒色土 (2.5Y2/1): アカホヤと思われる粒を塊に含み、固くしまっている。
- ⑬黒色土 (10YR1/1): 微細な褐色粒が塊状に入り、非常に固く硬化している。



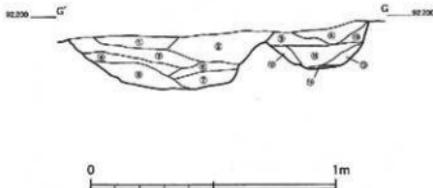
CC'

- ①黒色土 (N2/1): 上位より下位が少し軟らかい。微細な褐色粒を含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/2): 微細な褐色粒を含み、①よりしまっている。
- ③暗褐色土 (10YR3/3): 砂質でややしまっている。
- ④黒色土 (10YR2/1): 1~2mm程度のアカホヤと思われる粒を含み、非常に固く硬化している。



EE'

- ①暗褐色土 (7.5YR2/3): 軟らかく、やや粘性あり。
- ②暗褐色土 (7.5YR2/3): ①に黒色土が混じり、やや粘性あり。
- ③暗褐色土 (7.5YR4/3): 軟らかく、粘性あり。
- ④黒褐色土 (7.5YR3/1): 白色粒が細に見られ、褐色粒が上位に目立つ。非常に固く硬化している。
- ⑤褐色土 (7.5YR4/4): 軟らかく、しまりが無い。
- ⑥灰褐色土 (7.5YR4/2): 1mm以下の褐色粒と白色粒が全体に見られ、非常に固く硬化している。



BB'

- ①黒色土 (N2/1): 上位より下位が少し軟らかい。微細な褐色粒を含む。
- ②黒色土 (N2/1): ①より軟らかく、微細な褐色粒を①より密に含む。
- ③黒色土 (10YR1/1): ②より軟らかいが、褐色粒は少ない。
- ④黒色土 (10YR2/1): 1~2mm程度のアカホヤと思われる粒を含む。
- ⑤黒色土 (N2/1): 微細な褐色粒を含み、①よりしまっている。
- ⑥黒色土 (N2/1): 2mm程度のアカホヤと思われる粒を塊に含み、軟らかい。
- ⑦黒色土 (N2/1): 微細な褐色粒をこわくわずかに含み、⑤より軟らかい。
- ⑧黒褐色土 (10YR3/2): 微細な褐色粒を含み、かなりしまっている。
- ⑨黒色土 (10YR2/1): 1~2mm程度のアカホヤと思われる粒を含み、非常に固く硬化している。
- ⑩黒褐色土 (10YR2/2): やわらかい。
- ⑪黒褐色土 (10YR2/3): 固く硬化している。
- ⑫黒褐色土 (10YR3/1): 上位はやや砂質で、非常に固く硬化している。
- ⑬黒褐色土 (10YR3/2): 非常に固く硬化している。



DD'

- ①黒褐色土 (10YR3/1): 砂質でしまっている。
- ②黒色土 (10YR2/1): 微細な褐色粒を含み、非常に固く硬化している。
- ③黒褐色土 (10YR2/2): 微細な褐色粒を多く含み、非常に固く硬化している。
- ④黒色土 (N2/1): 非常に固く硬化している。



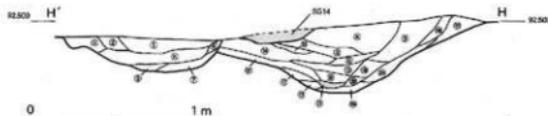
FF'

- ①黒褐色土 (7.5YR2/2): 1mm以下の褐色粒を30%程度含み、粘性がある。
- ②黒褐色土 (7.5YR2/2): 1mm以下の褐色粒をわずかに含み、①より粘性がない。
- ③黒褐色土 (7.5YR2/2): 下位にバミスを含み、①より粘性がない。
- ④灰褐色土 (7.5YR4/2): 褐色粒を多く含み、粘性なし。
- ⑤黒褐色土 (7.5YR2/2): 褐色粒は少なく、やや粘性がみられる。
- ⑥灰褐色土 (7.5YR4/2): 1mm程度の褐色粒を多く含み、粘性がややある。

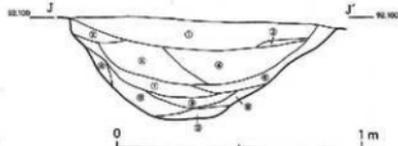
GG'

- ①黒褐色土 (7.5YR2/2): 褐色粒を多く含み、軟らかい。上位にバミスがみられる。
- ②黒褐色土 (7.5YR2/2): 上位に褐色粒を多く含み、①よりやや硬質。
- ③黒褐色土 (7.5YR2/2): 褐色粒はあまり含まず、部分的に硬質。
- ④暗褐色土 (7.5YR3/3)
- ⑤暗褐色土 (7.5YR2/3): 粘質はなく、砂質上で2~3mm程度のバミスを含み。
- ⑥暗褐色土 (7.5YR3/3): アカホヤと思われる褐色粒を含み、やや粘性がある。
- ⑦暗褐色土 (7.5YR2/3): 2~3mm程度のバミスを含み、ザラザラしている。
- ⑧黒褐色土 (7.5YR3/1): 褐色粒を含み、軟らかい。
- ⑨黒褐色土 (7.5YR2/2): 褐色粒は含まず、軟らかく、粘性がある。
- ⑩暗褐色土 (7.5YR3/2): 褐色粒を⑨より多く含み、軟らかい。
- ⑪暗褐色土 (7.5YR3/4): やや粘性がみられる。
- ⑫暗褐色土 (7.5YR3/4): 褐色粒が見られ、⑪よりやや明るい。
- ⑬暗褐色土 (7.5YR3/4): 褐色粒が⑪より多い。
- ⑭黒褐色土 (7.5YR3/1): わずかに硬化面が残る。

第117図 I 区道路状遺構土層断面図 1 (1/20)



- HH'**
- ①黒褐色土: 1m以下の橙色粒を全体に含み、土質はサササウに粘性なし。
  - ②黒褐色土: ①よりやや多量な橙色粒を含む。
  - ③黒褐色土: アカサヤと見られる暗褐色土を多く含み、粘性なし。
  - ④黒褐色土: 黒褐色土の中に暗褐色土が混入し、やや粘性あり。
  - ⑤黒褐色土: ③よりやや橙色率があり、パミスをまばらに含む。バサバサして軟らかい。
  - ⑥暗褐色土: 橙色粒はほとんどなく、2mm程のパミスを含む。
  - ⑦暗褐色土: パミスが少量見られ、橙色粒は含まず、やや粘性あり。
  - ⑧黒褐色土
  - ⑨黒褐色土: 1m以下の暗褐色土と白色粒が含まれ、軟らかくバサバサしている。
  - ⑩暗褐色土: ⑨より橙色粒がやや多い。バサバサしている。
  - ⑪暗褐色土: ⑨よりさらに橙色粒が多く、黒褐色土でありながら、全体がやや粘性を帯びている。
  - ⑫暗褐色土: 橙色砂質土(30%)と黒褐色土(70%)の混上。
  - ⑬にぶい黄褐色土: ⑬よりさらに橙色砂質土の割合が多い。
  - ⑭にぶい黄褐色土: 橙色砂質土で、2mmの橙色粒を極少量含む。
  - ⑮暗褐色土: 下位に橙色砂質土を少量含む。
  - ⑯二つ穴黄褐色土: ⑮よりやや粗い粒子(5mm程)の砂質土で⑮よりやや硬質。
  - ⑰灰黄褐色土: 砂よりやや粗い粒子があり、⑮より粗い。⑮より粗い。⑮より粗い。
  - ⑱暗褐色土: 橙色の塊状砂質土。やや硬質。
  - ⑲暗褐色土: 黒褐色土に褐色土が混入し、やや粘性あり。
  - ⑳暗褐色土: 粘性で褐色粒を含む。硬質である。
  - ㉑暗褐色土: ⑲よりさらに硬質の層がある。
  - ㉒暗褐色土: 白色粒の筋が見られ、やや硬質である。
  - ㉓暗褐色土: 暗褐色粘質土(50%)と砂質土(50%)の混上。
  - ㉔暗褐色土: 黒褐色土と暗褐色土が混入し、やや硬質。
  - ㉕暗褐色土: 暗褐色粘質土(20%)と砂質土(80%)の混上。

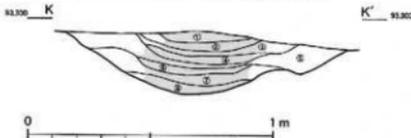


- JJ'**
- ①黒褐色土(10YR2/2): 1m以下の橙色粒がわずかに見られ軟らかい。やや粘質。
  - ②黒褐色土(10YR2/2): ①よりバサバサしている。
  - ③暗褐色土(10YR3/3): 1m以下の橙色粒が全体に見られ、砂質に近い。①より粗い。
  - ④暗褐色土(10YR3/3): 1m以下の橙色粒が全体に見られ、砂質に近が③より軟らかい。
  - ⑤暗褐色土(10YR3/3): ④より橙色粒が少なく、やや粘質。
  - ⑥褐色土(10YR4/0): ④よりさらに1m以下の橙色粒が多く、黒褐色土に橙色粒が混入し、粘性なし。
  - ⑦暗褐色土(10YR3/3): ⑤より硬質。
  - ⑧暗褐色土(10YR3/1): 橙色粒は見られず、やや粘質。
  - ⑨暗褐色土(10YR3/3): 1~5mmの褐色粒を含む。1m以下の白色粒が見られ、やや硬質。
  - ⑩暗褐色土(10YR3/4): ⑨より褐色粒が多く、硬質。
  - ⑪暗褐色土(10YR2/2): 橙色粒、褐色粒をほとんど含まず、やや粘性あり。
  - ⑫暗褐色土(10YR3/4): 橙色粒を含み、粘性があり、やや硬化している。



- II'**
- ①a黒褐色土(7.5YR3/1): 1~2mm程の橙色粒をまばらに含む。下位に炭化物を含む。やや粘質土。
  - ①b黒褐色土(7.5YR3/1): 全体に2~4mm程の炭化物を含む。微粒の橙色粒を含む。やや粘質土。
  - ②黒褐色土(7.5YR3/1): 1~2mm程から微粒の橙色粒を全体に含むため、黒褐色土ながら褐色を呈す。炭化物は見られ、サササウとして粘性なし。
  - ③黒褐色土(7.5YR3/2): 1m以下の橙色粒を多く含む砂質土。本性格が見られる。
  - ④a黒褐色土(7.5YR3/2): aと同様に褐色粒を含む砂質土。下位に砂質の水溶性有機物のような筋が見られる。
  - ④b黒褐色土(7.5YR4/2): 1m以下の塊状な橙色粒と少量の炭化物を含む。やや粘性がある硬質土。
  - ⑤暗褐色土(7.5YR2/2): 5mm~2cm程の炭化物が全体に見られる。微粒の橙色粒が上位に少量見られる。
  - ⑥暗褐色土(7.5YR2/2): 1mm程の橙色粒が全体に見られ、炭化物はない。やや粘性がある。
  - ⑦黒褐色土(7.5YR3/1): サササウしており、炭化物、橙色粒を含まない。
  - ⑧黒褐色土(7.5YR3/1): 5mm程のパミスがわずかに見られ、やや粘質である。1m以下の橙色粒が上位に少量見られる。
  - ⑨にぶい黄褐色土(7.5YR5/3): 5mm程のパミスを下位にわずかに含む。やや硬質。
  - ⑩灰黄色土(7.5YR4/2): 黒褐色土と壁層の暗褐色土の混上。

- ⑪暗褐色土(7.5YR3/3): 全般にパミスが見られる。やや粘質である。
- ⑫a暗褐色土(7.5YR3/3): aと同様の土層だが、パミスは見られない。
- ⑫b暗褐色土(7.5YR3/3): 上位にパミスを含み、暗褐色土粒を少量含む。
- ⑬暗褐色土(7.5YR3/4): パミスを含まず、暗褐色土粒をaより多く含む。
- ⑭暗褐色土(7.5YR3/4): 暗褐色土粒を含み、粒子が細かく緻密である。
- ⑮にぶい黄褐色土(10YR5/2): 非常に固く硬している。
- ⑯C灰黄褐色土(10YR4/2): 黒褐色土と黄褐色土の混上。軟らかい。
- ⑰a灰黄色土(10YR4/0): 黒褐色土と黄褐色土の混上。軟らかくて柔らかい。黒褐色土がやや多い。
- ⑰b灰色土(10YR4/0): aに比べ黄褐色土の割合が多い。
- ⑱にぶい黄褐色土(10YR4/0): 砂質土。
- ⑲aにぶい黄褐色土(10YR4/3): 非常に固く硬化している。
- ⑲b暗褐色土(7.5YR4/2): 1mから1cmほどの橙色粒を含み、炭化物が若干見られる。⑲aより粘質ではない。
- ⑲c暗褐色土(10YR3/4): 2cm程の橙色粒を含む。
- ⑲d暗褐色土(10YR2/1): 褐色粒を含み、サササウして粘性なし。
- ⑲e暗褐色土(7.5YR4/2): 1mm程の橙色粒が上位に見られ、サササウして粘性なし。
- ⑲f暗褐色土(10YR3/3): やや粘質で、暗褐色土に黒褐色土がまばらに見られる。
- ⑲g暗褐色土(10YR3/3): やや粘質で、暗褐色土を少量含む。
- ⑲h暗褐色土(10YR3/3): aに1mm程の橙色粒が上位に見られる。
- ⑲i暗褐色土(10YR3/3): ⑲aに近く、非常に固く硬化している。



- KK'**
- ①暗褐色土: 非常に固く硬化しており、少量の褐色粒を含む。
  - ②褐色土: 橙色粒と白色粒を含み、中央部は、非常に固く硬化しているが、両サイドは軟らかい。
  - ③褐色土: ②と同様だが、褐色粒が②よりやや大きい。
  - ④褐色土: ③よりやや黒味を帯びている。
  - ⑤褐色土: ③よりさらに黒味が強い。
  - ⑥黒褐色土: 褐色粒・白色粒を含み、小粒もわずかに含む。非常に固く硬化している。
  - ⑦黒褐色土: ⑥より黒味を帯びる。中央部は非常に固く硬化しているが、両サイドは軟らかい。
  - ⑧黒褐色土: ⑦より黒味を帯び、非常に固く硬化しており、粘性がある。

第118図 I区道路状遺構土層断面図2 (1/20)

以上述べてきた遺構の前後関係をまとめると下表のようになる。

古 ← → 新		
S G 19	S G 18 [埋土に霧島高原スコリア (10C~13C) を含む]	S G 17 [埋土に霧島新燃享保軽石 (1717年) を含む]
S G 16 S G 13→14		
S G 15 S G 12		
S G 7 → 8 S G 9 → 10 S G 11 S E 3		

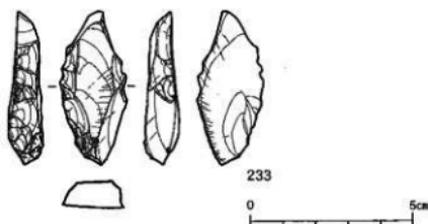
これらの道路状遺構は、南西方向から北西方向につながり、傾斜がゆるやかになる山の裾にそって構築されたものと推察できる。

また、音明寺第1遺跡の方向から音明寺第2遺跡一次調査区の西側谷へ湧水を求めて往来があったものと推察できる。

隣接する東睦原第1遺跡三次調査でも道路状遺構が確認されているので、今後の報告が待たれるところである。

### (3) 遺物

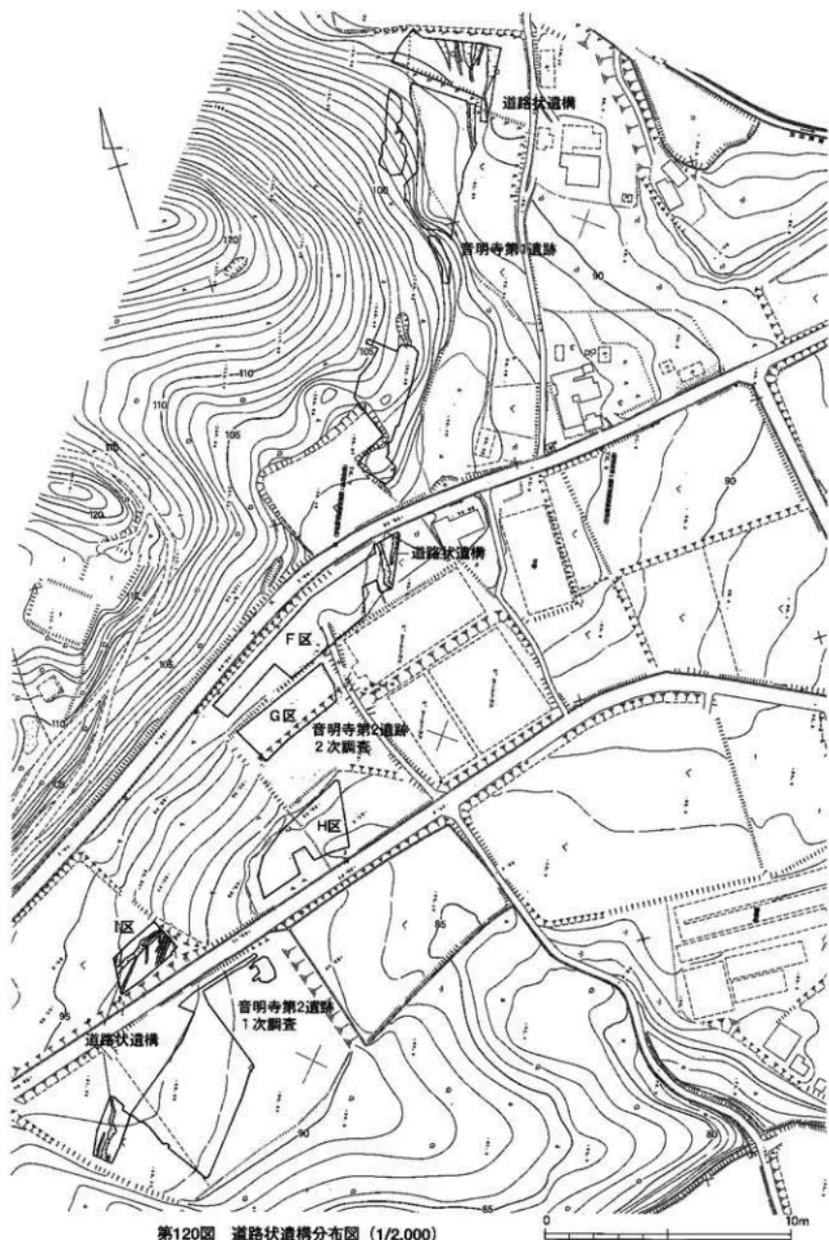
遺物はほとんど出土せず、第119図233は、S G 16の埋土中より出土した剥片尖頭器である。頁岩A製で両側縁とも裏面側から調整加工が施され、裏基部に平坦剥離が観察される。



第119図 SG16区出土遺物実測図 (2/3)

### 3 小結

音明寺第2遺跡一次調査及び、本二次調査、音明寺第1遺跡で確認された道路状遺構を第120図に示した。3遺跡の道路状遺構が同時期ものと考えれば、



第120図 道路状遺構分布図 (1/2,000)

## 第V章 自然科学分析

### 第1節 テフラ検出分析

#### 1 分析結果

テフラ検出分析の結果を第17・18表に示す。SE 1bb'では、試料4と試料2に細粒の褐色スコリア(最大径1.2mm)が含まれている。火山ガラスは、試料20を除くほとんどの試料に含まれている。とくに顕著な濃集層準は認められない。これらの火山ガラスには、淡褐色や無色透明で平板状のバブル型や繊維束状に発泡した軽石型の火山ガラスが多い。またSE1cc'の試料1には、軽石やスコリアが含まれていない。この試料には、淡褐色や無色透明のバブル型や繊維束状に発泡した軽石型の火山ガラスが比較的多く含まれている。これらのことから、SE1については、褐色スコリアより下位にあると考えられる。

SG9BB'では、いずれの試料からも褐色のスコリア(最大径1.2mm)が含まれている。その中では、試料2に比較的多い。これらの試料には、ほかに淡褐色や無色透明のバブル型や繊維束状に発泡した軽石型の火山ガラスが比較的多く含まれている。一方、SG10CC'では、試料3～1に多くの褐色スコリア(最大径1.1mm)が含まれている。火山ガラスとしては、いずれの試料にも、淡褐色や無色透明のバブル型や繊維束状に発泡した軽石型の火山ガラスが含まれている。

SG17FF'では、試料8より上位の試料から褐色スコリア(最大径1.2mm)が検出される。その中では試料4にとくに多くのスコリアが認められる。火山ガラスとしては、試料4を除くいずれの試料にも、淡褐色や無色透明のバブル型や繊維束状に発泡した軽石型の火山ガラスが含まれている。

SG16・17・18II'では、試料11および試料7～1に褐色スコリア(最大径1.1mm)が含まれている。試料9には、粗粒の灰色軽石(最大径7.2mm)が少量含まれている。SG17・18HH'の試料1には、粗粒の灰色軽石(最大径4mm)が多く含まれている。SG5dd'では、いずれの試料にも褐色スコリア

(最大径1.2mm)が含まれている。これらの中では、試料3にとくに多くのスコリアが認められる。火山ガラスとしては、試料9～5に淡褐色や無色透明のバブル型や繊維束状に発泡した軽石型の火山ガラスが含まれている。SG14の試料からは、淡褐色や無色透明のバブル型や繊維束状に発泡した軽石型の火山ガラスが検出されたものの、スコリアは検出されなかった。

#### 2 考察

屈折率測定の対象となった試料のうち、SG18試料8に含まれるテフラ粒子のうち、褐色スコリアについては、岩相や斜方輝石の屈折率などから霧島火山と考えられる。本遺跡周辺で褐色スコリアについては、従来10～13世紀に霧島火山から噴出した霧島高原スコリア(Kr-ThS, 井ノ上, 1988, 早田, 1997)と考えられていることが多い。このスコリアについては、より下位のテフラに由来する可能性もあるものの、従来記載されているKr-ThSの斜方輝石の屈折率の範囲に入る。なお屈折率測定の対象となった火山ガラスについては、その特徴や屈折率などから、約6,300年前\*1に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 町Ⅲ・新井, 1978)に由来すると考えられる。また、スコリアがとくに多く含まれる上位の試料4に含まれる斜方輝石の屈折率は、値が若干低めではあるものの、Kr-ThSの斜方輝石の屈折率の範囲に入る。以上のことから、スコリアはKr-ThSに由来する可能性が高いと考えられる。

しかしながら、これらのスコリアについては、スコリアの顕著な濃集層準よりかなり下位にも含まれている。これは下方への攪乱の結果と考えることも可能かも知れないが、霧島火山はKr-ThSの噴火の前にもスコリア質テフラを噴出させていることから(井ノ上, 1988, 早田, 1997など)、顕著な濃集層準がKr-ThSの、そしてその下位のスコリア検出開始層準にKr-ThSより下位のテフラの降灰層準のある可能性が考えられる。これらのテフラの問題については、遺跡周辺の泥炭層などよりテフラの堆積保存

状態の良い地点での土層の観察記載さらに分析が必要である。

SG17II'の試料7に比較的多く含まれるテフラのうち、灰色軽石については岩相や斜方輝石の屈折率などから、1717(享保2)年に霧島火山から噴出したと考えられている霧島新燃享保軽石(Kr-SmK, 井村・小林, 1991, 町田・新井, 1992)に由来する可能性がある。その元来の降灰層率は、試料9付近にあって、降水などによって流失している可能性がある。なお火山ガラスについては、その特徴や屈折率などから、K-Ahに由来すると考えられる。SG17HH'で認められた軽石層(試料1)についても、軽石の特徴や斜方輝石の屈折率などから、Kr-SmKと考えられる。

### 第3節 植物珪酸体分析

#### 1 分析結果

##### (1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第19・20・21表に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。なお、イネ科栽培植物(イネ、ムギ類、ヒエ、アワ、キビなど)および照葉樹(アカガシ亜属、シイ属、クスノキ科、マンサク科など)に由来する植物珪酸体は、いずれの試料からも検出されなかった。

##### [イネ科]

キビ族型、ヨシ属、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)、ウシクサ族B(大型)、Bタイプ、Cタイプ

##### [イネ科-タケ亜科]

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型(チシマザサ節やチマキザサ節など)、ミヤコザサ節型(おもにクマザサ属ミヤコザサ節)、未分類等

##### [イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

#### (2) 植物珪酸体の検出状況

##### ① H区東壁(第20表)

AT直上のⅧ層からK-Ah直下のⅣ層までの層準について分析を行った。その結果、Ⅷ層(試料14~16)では、ミヤコザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族A、イネ科Bタイプ、イネ科Cタイプ、ネザサ節型、クマザサ属型なども検出された。Kr-Kb混のⅥc層(試料11、12)では、ミヤコザサ節型が大幅に増加しており、ススキ属型やイネ科Bタイプなどは見られなくなっている。Ⅴ層(試料8~10)では、クマザサ属型がやや増加しており、ススキ属型やメダケ節型も出現している。K-Ah直下のⅣ層(試料5~7)では、メダケ節型やネザサ節型が大幅に増加しており、ミヤコザサ節型は減少している。おもな分類群の推定生産量によると、Ⅴ層より下位ではミヤコザサ節型、Ⅳ層ではメダケ節型やネザサ節型が優勢となっていることが分かる。

##### ② H区西壁(第21表)

Kr-Kb直下のⅧ層からKr-Kb直上のⅤ層までの層準について分析を行った。その結果、Ⅷ層(試料12~14)では、ミヤコザサ節型が多量に検出され、キビ族型、ヨシ属、ウシクサ族A、イネ科Bタイプ、イネ科Cタイプ、クマザサ属型なども検出された。Kr-Kb混のⅥb層(試料10、11)では、ミヤコザサ節型が大幅に減少しており、イネ科Bタイプなどは見られなくなっている。Kr-Kb直上のⅤ層(試料8、9)では、ミヤコザサ節型が大幅に増加しており、キビ族型、ヨシ属、クマザサ属型もやや増加している。おもな分類群の推定生産量によると、全体的にミヤコザサ節が優勢となっていることが分かる。

地点	試料	観石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
SE 1 b b'	2	++	濁	1.2	++	bw/ps	灰濁、透明
	4	++	濁	0.8	++	bw/ps	灰濁、透明
	6	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明
	8	-	-	-	+	bw/ps	濁
	10	-	-	-	-	bw/ps	灰濁、透明
	12	-	-	-	-	bw/ps	灰濁、透明
	14	-	-	-	-	bw/ps	灰濁、透明
	16	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明
	18	-	-	-	++	-	灰濁、透明
	20	-	-	-	-	bw/ps	-
SE 1 e c'	1	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明
	2	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明
	3	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明
	4	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明
	5	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明
	6	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明
SG 9 B B'	1	+	濁	1.2	++	bw/ps	灰濁、透明
	2	++	濁	1.2	++	bw/ps	灰濁、透明
	3	+	濁	0.7	++	bw/ps	灰濁、透明
	4	+	濁	1.0	++	bw/ps	灰濁、透明
SG 10 C C'	2	++	濁	1.0	-	bw/ps	灰濁、透明
	3	++	濁	1.1	-	bw/ps	灰濁、透明
	4	+	濁	1.0	++	bw/ps	灰濁、透明
SG 17 F F'	2	++	濁	1.1	+	bw/ps	灰濁、透明
	4	+	濁	1.2	+	bw/ps	灰濁、透明
	6	+	濁	1.2	++	bw/ps	灰濁、透明
	8	+	濁	0.8	++	bw/ps	灰濁、透明
SG 16・17・18 11	2	+	濁	1.2	++	bw/ps	灰濁、透明
	3	++	灰濁	2.8, 1.3	++	bw/ps	灰濁、透明
	5	++	灰濁	1.1, 0.8	++	bw/ps	灰濁、透明
	7	++	灰濁	2.5, 1.0	++	bw/ps	灰濁、透明
	9	+	灰濁	7.2	+	bw/ps	灰濁、透明
	11	+	濁	0.9	+	bw/ps	灰濁、透明
SG 17・18 H H'	1	+++	灰濁	4.0	-	-	-

++++とくに多い, +++も多い, ++中程度, +少ない, -認められない。  
最大径の単位は, mm, bw: パブル型, om: 観石型。

第17表 テフラ検出分析結果(1)

地点	試料	観石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
SG 5 d d'	1	+++	濁	1.1	-	-	-
	3	+++	濁	1.2	-	-	-
	5	+	濁	0.8	++++	bw/ps	灰濁、透明
	6	+	濁	0.7	+++	bw/ps	灰濁、透明
	9	+	濁	0.8	+++	bw/ps	灰濁、透明
SG 14 検出	1	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明
	2	-	-	-	++	bw/ps	灰濁、透明

++++とくに多い, +++も多い, ++中程度, +少ない, -認められない。  
最大径の単位は, mm, bw: パブル型, om: 観石型。

第18表 テフラ検出分析結果(2)

検出密度(単位: X100粒/g)

分類群	学名	C 区産量					
		6	9	11	12	14	15
イネ科	Gramineae (Grass)						
キジコ型	Panicum type	15	29		28		21
シシコ型	Phragmites type	7	15				7
ススキ型	Miscanthus type	15	7				7
ウシクサ属 A	Andropogoneae A type	22	80	28	31	72	57
ウシクサ属 B	Andropogoneae B type	7					7
C タイプ	B type						7
C タイプ	C type						7
タケ科	Bambusoideae (Bamboo)						
メダコ型	Paniclathus sect. Medake	118	7				
ネギ科型	Paniclathus sect. Neesae	559	22	14		14	7
クマザサ属	Sasa (except Miyakozasa)	80	68	62	21	14	14
ミヤコザサ属	Sasa sect. Miyakozasa	128	305	197	312	123	71
未分類群	Others	187	58	28	7	7	7
その他イネ科	Others						
根状毛根	Hair root origin	22	22	32	14	22	7
棒状毛根	Rod-shaped	483	204	275	57	263	150
未分類群	Others	312	349	408	305	312	342
植物体総量	Total	1961	1165	1014	779	783	736

おもな分類群の推定生産量(単位: kg/ha-cm)

シシコ	Phragmites (reed)	0.46	0.92		0.46	0.45
ススキ	Miscanthus type	0.18	0.09			0.09
メダコ型	Paniclathus sect. Medake	1.35	0.08			
ネギ科型	Paniclathus sect. Neesae	2.58	0.10		0.07	0.03
クマザサ属	Sasa (except Miyakozasa)	0.50	0.49	6.32	0.16	0.11
ミヤコザサ属	Sasa sect. Miyakozasa	0.41	0.92	6.59	0.94	0.27

タケ類の比率(%)

メダコ型	Paniclathus sect. Medake	37	5			
ネギ科型	Paniclathus sect. Neesae	23	7		6	10
クマザサ属	Sasa (except Miyakozasa)	12	31	25	14	30
ミヤコザサ属	Sasa sect. Miyakozasa	8	27	65	80	84

検出密度(単位: X100粒/g)

分類群	学名	C 区産量					
		6	9	11	12	14	15
イネ科	Gramineae (Grass)						
キジコ型	Panicum type	109	21	7	21	14	27
シシコ型	Phragmites type	22	14	7	7	7	7
ススキ型	Miscanthus type	15					7
ウシクサ属 A	Andropogoneae A type	26	42	49	14	43	53
ウシクサ属 B	Andropogoneae B type	7					7
D タイプ	B type	15					14
C タイプ	C type						14
タケ科	Bambusoideae (Bamboo)						
メダコ型	Paniclathus sect. Medake		7				
ネギ科型	Paniclathus sect. Neesae	102	42	7	28	7	27
クマザサ属	Sasa (except Miyakozasa)	328	285	140	163	463	485
ミヤコザサ属	Sasa sect. Miyakozasa	80	49	56	7	78	80
未分類群	Others						
その他イネ科	Others						
根状毛根	Hair root origin	14	7	7	7	14	40
棒状毛根	Rod-shaped	649	321	147	179	313	666
未分類群	Others	554	460	313	305	420	600
植物体総量	Total	1963	1264	736	745	1389	2019

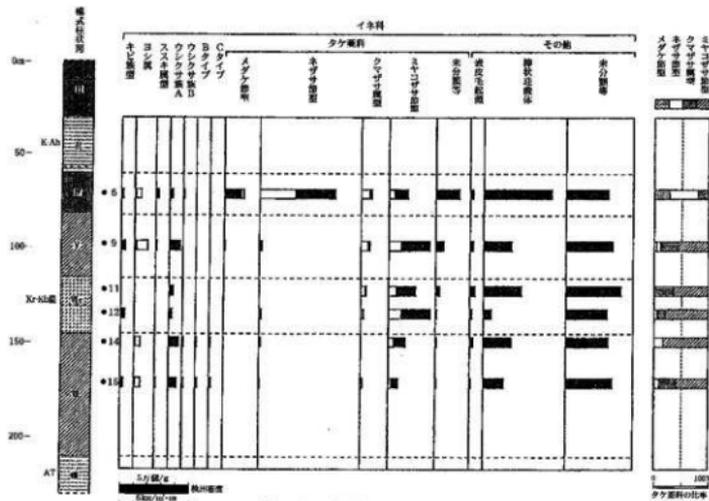
おもな分類群の推定生産量(単位: kg/ha-cm)

シシコ	Phragmites (reed)	1.08	0.85	0.44	0.43		0.43
ススキ	Miscanthus type	0.36					0.68
メダコ型	Paniclathus sect. Medake	1.38					
ネギ科型	Paniclathus sect. Neesae	0.03					
クマザサ属	Sasa (except Miyakozasa)	0.77	0.31	0.05	0.21	0.56	0.30
ミヤコザサ属	Sasa sect. Miyakozasa	0.58	0.26	0.42	0.21	1.29	1.44

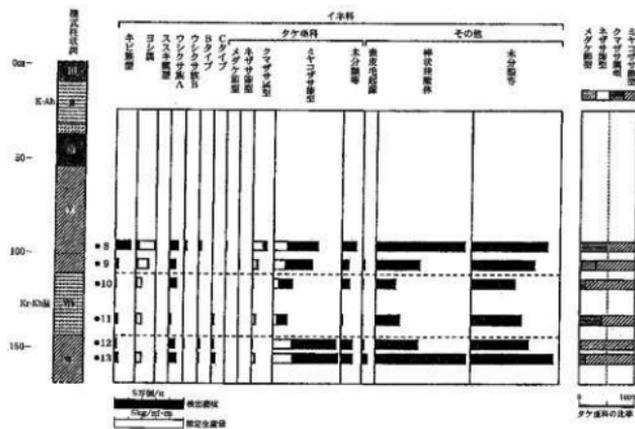
タケ類の比率(%)

メダコ型	Paniclathus sect. Medake	6					
ネギ科型	Paniclathus sect. Neesae	3					
クマザサ属	Sasa (except Miyakozasa)	43	26	11	40	4	12
ミヤコザサ属	Sasa sect. Miyakozasa	54	71	89	60	90	88

第19表 植物体産物分析結果 1



第20表 植物珪酸体分析結果 2 (H区東壁)



第21表 植物珪酸体分析結果 3 (H区西壁)

## 第Ⅵ章 まとめ

本道跡では、鬼界アカホヤ火山灰層 (K-Ah)、小林軽石 (Kr-Kb)、始良Tn火山灰層 (AT) を調査における主な鍵層として、確認調査及び一次調査の結果をふまえ、四つの文化層と道路状遺構を想定して調査を進めた。本章では、各時代・各文化層ごとに、若干の言及を行いまとめたい。

### 1 旧石器時代第Ⅰ文化層について

第Ⅰ文化層は、始良Tn火山灰層下の暗褐色土層 (IXa層) [東九州自動車道 (都農～西部) 建設に伴う調査では「MB2」相当] である。H区では、礫群1箇所を検出し、剥片類を12点出土したが、他の調査区では、この層からの遺構・遺物の検出はなかった。道一つ隔てた一次調査のD・E区では79点の石器が、さらに西側のC区では遺物集中区や礫群が検出されたことを考えると、それらの縁辺部ではなかったかと推察する。

### 2 旧石器時代第Ⅱ文化層について

第Ⅱ文化層は、小林軽石 (Kr-Kb) を含む層下部の褐色土層 (VIc層)～暗褐色土層 (VII層) [「MB1」相当]～いぶい黄褐色土層 (VIIa層) [「ML2」相当] である。遺物出土の連続性や接合状況から一つの文化層ととらえ報告した。H区に限ってみると、東部遺物集中区では、約400mの範囲に約1,100点の遺物が出土した。また、西部遺物集中区では、約140mの範囲に約450点の遺物が出土した。使用石材は、頁岩が約49%、ホルンフェルスが約41%を占める。また、二つの遺物集中区からはナイフ形石器と石核の出土が多い。ナイフ形石器は、定型化されておらず、形態も調整も多様である。その使用石材は頁岩が50%を越し、ホルンフェルス製は約12%である。

逆に石核は、頁岩製が約30%、ホルンフェルス製が約53%と比率が逆転する。また、接合個体数もホルンフェルスが頁岩の1.5倍と多い。このことは、ホルンフェルスを使用して製品の製作を試みたが、うまく製作できず、破棄した可能性も考えられる。

石核や剥片からは、①礫面から直接不定形の剥片を取り出したものや、②大きな母岩から厚手の横長剥片を取り、礫面を敲いて小さな剥片を取り出したもの、③打面を転移しながら不定形の剥片を取り出したもの、④打面を転移しながら縦長の剥片を取り出したもの、⑤打面を転移せずに縦長の剥片を取り出したもの等が観察される。したがって多様な方法で剥片を取りだしていることが伺える。

### 3 縄文時代早期について

F区からは小さな土器片が多数出土した。出土層位から縄文時代早期に属する土器であり、押型文系 (本道跡の第1類)、獣毛痕土器 (本道跡の第2類)、無文土器 (本道跡の第3類) などが出土した。第1類は、施文から (a) 縦山形押型文、(b) 横山形押型文、(c) 楕円形押型文に分けられる。出土した遺物が細片であったため、施文からの判断になるが、第1類 (a) は、「ヤトコロ式土器」系と考えられる。

### 4 アカホヤ火山灰降灰以降

F区東部とI区において道路状遺構が検出された。出土遺物がごくわずかなことから標茶時期の確定はできない。しかし、テフラ分析によってSG5とSG10、SG18の埋土中より霧島高原スコリア (Kr-Ths、10～13世紀に霧島火山より噴出) が、またSG17の埋土中からは霧島新燃享保軽石 (Kr-SmK、1717年霧島火山から噴出) が検出された。さらにSG1の硬化面より土器の底部が出土したことから、これらの道路状遺構は、古代から近世に断続的に構築されたものと考えられる。

#### 【参考文献】

- 加藤晋平、鶴丸俊明著「石器入門事典—先土器」柏書房
- 大塚初重、戸沢光則編「最新日本考古学用語事典」柏書房
- 新富町文化財調査報告書「平成8年度 町内遺跡発掘調査概要報告書第21集」1997
- 高岡町教育委員会「高野原遺跡」高岡町埋蔵文化財調査報告書第23集 2002
- 宮崎県教育委員会「音明寺第2遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター調査報告書第81集 2003

添 付 資 料  
石器計測表及び土器観察表















































レイアウト番号	注記番号	国十進標 Y座標	国十進標 X座標	標高 (m)	区	西上層	種類	器 種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考・組合関係
	2776	-98138.092	43588.101	85.143	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	4.4	2.0	0.9	7.4	
	2781	-98138.102	43588.856	85.964	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	5.0	5.2	1.6	36.6	
	2782	-98138.985	43586.797	83.036	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	2.0	1.0	0.4	0.7	
	2783	-98138.138	43586.377	83.036	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	4.8	3.6	1.1	17.5	
	2784	-98138.501	43585.742	85.978	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	1.7	2.2	0.5	0.8	
	2785	-98138.512	43589.423	84.877	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	2.7	2.4	0.8	3.0	
	2786	-98138.516	43589.714	84.546	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩C	1.4	2.0	0.6	1.8	
	2787	-98138.861	43588.823	84.940	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	3.1	1.7	0.7	1.3	
	2788	-98138.406	43588.862	84.578	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	2.2	1.4	0.4	1.3	
	2789	-98138.438	43588.779	84.883	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	3.7	3.4	1.0	8.1	
	2790	-98138.511	43586.781	81.990	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩H	2.5	3.0	0.6	4.0	
	2792	-98138.321	43588.691	84.994	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	4.7	2.6	0.8	8.1	
	2793	-98138.211	43586.619	84.966	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	3.5	3.6	1.8	21.4	2604, 2793, 2892
149	2794	-98138.348	43588.303	81.879	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	3.5	4.2	1.5	20.7	1301, 2557, 2794, 2800, 2420
	2796	-98137.971	43588.686	84.655	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	2.7	2.4	0.8	3.7	
	2797	-98137.894	43588.701	85.031	Ⅱ	Ⅲ	石巻	砕片	頁岩A	1.5	0.9	0.3	0.4	
151	2800	-98137.365	43589.972	85.075	Ⅱ	Ⅲ	石巻	砕片	ホルンフェルス	7.4	4.7	2.1	73.5	1301, 2557, 2794, 2800, 2420
	2801	-98138.980	43589.302	85.684	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	9.2	7.8	3.0	102.4	1361, 2801
	2802	-98138.630	43589.447	85.176	Ⅱ	Ⅲ	石巻	砕片	頁岩A	1.3	0.8	0.2	0.3	
	2803	-98138.164	43589.542	85.523	Ⅱ	Ⅲ	石巻	砕片	頁岩A	1.1	0.9	0.2	0.1	
	2804	-98133.216	43586.381	86.335	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	1.5	1.5	0.2	0.5	
	2806	-98138.259	43588.311	87.401	Ⅱ	Ⅲ	石巻	石塊	ホルンフェルス	4.2	7.9	4.2	186.3	
160	2810	-98138.048	43579.051	87.102	Ⅱ	Ⅲ	石巻	行石	ホルンフェルス	8.5	11.7	4.9	514.7	2810, 2925, 2945
	2822	-98138.868	43580.115	87.039	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	4.3	4.6	2.2	45.5	
	2837	-98137.329	43480.200	87.000	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	3.7	5.2	1.5	45.3	
15A	2845	-98137.205	43579.539	87.654	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	3.0	2.6	1.1	6.3	2810, 2925, 2945
	2911	-98138.076	43579.752	87.889	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	7.7	3.9	1.5	34.2	
	2915	-98138.734	43579.840	86.760	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	10.9	4.7	1.6	72.0	
	2916	-98138.276	43579.977	86.896	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	2.8	3.3	1.1	10.7	
159	2925	-98137.725	43579.839	87.012	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	5.1	5.4	1.7	30.1	2810, 2925, 2945
	2927	-98137.013	43580.858	86.966	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	3.6	2.7	1.1	8.5	
	2932	-98139.286	43580.700	86.686	Ⅱ	Ⅲ	石巻	砕片	頁岩A	1.5	0.9	0.3	0.4	
	2935	-98149.450	43579.003	85.816	Ⅱ	Ⅲ	石巻	砕片	頁岩A	1.2	0.7	0.2	0.1	
	2952	-98135.288	43579.712	86.968	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	4.7	2.3	0.6	7.2	
	2953	-98135.812	43579.825	85.936	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	3.0	3.6	1.0	9.5	
	2954	-98133.718	43580.378	86.857	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	7.3	3.0	1.4	23.7	
	2955	-98136.688	43580.247	85.787	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	5.8	4.7	1.5	39.8	
	2956	-98138.739	43580.478	85.773	Ⅱ	Ⅲ	石巻	砕片	ホルンフェルス	0.9	0.9	0.3	<0.1	
165	2997	-98136.022	43580.446	86.710	Ⅱ	Ⅲ	石巻	石塊	ホルンフェルス	4.1	5.7	3.9	102.2	2258, 2997
	2999	-98137.665	43580.013	86.787	Ⅱ	Ⅲ	石巻	砕片	頁岩A	1.1	0.7	0.2	<0.1	
	3019	-98136.258	43579.622	86.810	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	7.8	6.6	2.0	90.4	
	3020	-98136.096	43579.138	86.902	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	3.9	3.1	0.9	5.2	
	3024	-98136.044	43579.066	86.846	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	7.5	4.9	1.6	47.8	
	3035	-98137.095	43582.049	86.571	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	1.8	1.9	0.5	1.4	
	3037	-98137.616	43586.308	86.425	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	6.5	2.7	1.5	28.0	
	3039	-98145.997	43581.792	85.983	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	2.1	1.2	0.6	1.3	
	3040	-98138.315	43577.431	87.043	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	頁岩C	3.6	4.1	1.1	10.8	
	3127	-98127.628	43572.585	86.581	Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	6.8	4.2	3.0	57.9	
84	3131	-98129.239	43574.728	86.534	Ⅱ	Ⅲ	石巻	ナイフ型石	頁岩A	2.1	2.3	1.7	23.5	
	3129	-98129.382	43571.990	85.550	Ⅱ	Ⅲ	石巻	砕片	頁岩A	0.5	0.2	0.1	<0.1	
178	3140	-98128.730	43570.537	86.629	Ⅱ	Ⅲ	石巻	石塊	砂岩	16.9	6.6	5.3	800.9	
156	3121 07972				Ⅱ	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	8.8	4.5	4.0	132.6	

添付資料5 音明寺第2遺跡遺物計測表(第Ⅱ文化層)Ⅰ区

レイアウト番号	注記番号	国十進標 Y座標	国十進標 X座標	標高 (m)	区	西上層	種類	器 種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考・組合関係
190	2808	-98153.490	43587.382	91.282	I	Ⅲc	石巻	角磨滅石巻	ホルンフェルス	6.1	1.6	1.3	9.7	
189	2838	-98152.702	43504.731	91.557	I	Ⅲc	石巻	割片(表面磨)	ホルンフェルス	5.3	4.0	1.6	34.0	
	2844	-98155.600	43500.507	91.844	I	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	1.8	2.0	0.4	1.6	
	2845	-98157.436	43003.856	91.670	I	Ⅲ	石巻	割片	頁岩A	8.7	6.7	1.8	124.9	
	2847	-98155.607	43501.763	91.834	I	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	1.8	1.0	0.5	29.07, 2948	
	2848	-98155.072	43001.796	91.628	I	Ⅲ	石巻	割片	ホルンフェルス	1.5	1.3	0.3	0.5	2947, 2948
191	3121 07972				I	Ⅲb	石巻	石塊	頁岩A	2.5	3.5	5.0	50.6	
192	3121 07972				I	Ⅲc	石巻	石塊	頁岩A	6.5	6.7	5.3	91.0	

添付資料 6 音明寺第 2 遺跡 F 区出土土器観察表

レイアウト番号	種別	器種	口径 (mm)		手取・高さ・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備考	
			口徑	底徑	器高	外 面	内 面	外 面			内 面
193	縄文土器	深鉢 口縁部				壱人窟山形押型文	ナゲ	明赤陶 (7.5YR5/4)	明赤陶 (7.5YR5/4)	2mm以下の白色粒、0.5mm以下の黒色光沢粒を多く含む。	
194	縄文土器	深鉢 口縁部				壱人窟山形押型文	ナゲ	明赤陶 (7.5YR5/4)	明赤陶 (7.5YR5/4)	2mm以下の白色粒、0.5mm以下の黒色光沢粒を多く含む。	
195	縄文土器	深鉢 口縁部				壱人窟山形押型文	横ナゲ	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/4)	3mm以下の乳白色粒、1mm以下の黒色粒を多く含む。	
196	縄文土器	深鉢 胴部				壱人窟山形押型文	横ナゲ	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	明赤陶 (7.5YR5/4)	3mm以下の乳白色粒、1mm以下の黒色粒、透明光沢粒を含む。	
197	縄文土器	深鉢 口縁部				山形押型文	山形押型文 ナゲ	黄 (5YR6/6)	明赤陶 (5YR5/6)	1mm以下の乳白色粒を多く含む。2mm以下の赤褐色粒と灰色粒をわずかに含む。	
198	縄文土器	深鉢 口縁部				山形押型文	山形押型文 ナゲ	黄 (5YR6/7)	明赤陶 (5YR5/7)	1mm以下の乳白色粒を多く含む。3mm以下の赤褐色粒と灰色粒をわずかに含む。	
199	縄文土器	深鉢 胴部				山形押型文	ナゲ	黄 (2.5YR6/6)	黄緑な白色粒と2mm以下の赤褐色粒を多く含む。1mm以下の黒色粒をわずかに含む。		
200	縄文土器	深鉢 胴部				横円押型文	横ナゲ	赤褐 (5YR4/6)	褐色 (7.5YR4/6)	1mm以下の黒色粒、白色粒を含む。	
201	縄文土器	深鉢 胴部				ナゲによる割痕	割痕状	黄褐 (2.5Y5/3)	にぶい黄褐色 (2.5Y5/2)	2mm以下の黒色光沢粒、2.5mm以下の白色粒、1.5mm以下の灰色粒を含む。	
202	縄文土器	深鉢 口縁部				横ナゲ	横ナゲ	黄灰 (2.5Y4/2)	黄灰 (2.5Y4/2)	1mm以下の白色粒を多く含む。0.5mm以下の透明光沢粒を少量含む。	外面に繋付部
203	縄文土器	深鉢 口縁部				ナゲ	横ナゲ 斜方向の割痕	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	1mm以下の内黒光沢粒を少し含む。1.5mm以下の黒色粒をわずかに含む。	
204	縄文土器	深鉢 口縁部				ナゲ 縦方向の割痕	横ナゲ 横方向の割痕	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	3mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の白色粒を少し含む。	
205	縄文土器	深鉢 口縁部				ナゲ	横ナゲ	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	1mm以下の白色粒、透明光沢粒を多く含む。	外面に繋付部
206	縄文土器	深鉢 口縁部				横ナゲ	ナゲ 斜方向の割痕	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	2mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の白色粒を少し含む。	
207	縄文土器	深鉢 胴部				ナゲによる割痕	割痕状 縦毛痕	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (2.5Y6/4)	2.5mm以下の赤褐色粒、灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む。	外面に繋付部
208	縄文土器	深鉢 口縁部				横ナゲ	横ナゲ	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/4)	3mm以下の乳白色粒と1mm以下の黒色粒を含む。	
209	縄文土器	深鉢 口縁部				横ナゲ	横ナゲ	明赤陶 (5YR5/3)	明赤陶 (5YR5/6)	1mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を含む。	
210	縄文土器	深鉢 胴部				ナゲ	ナゲ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	4mm程度の黄褐色粒、2mm以下の赤褐色粒、黄褐色粒、1mm以下の黒褐色粒を含む。	
211	縄文土器	深鉢 口縁部				横ナゲ	横ナゲ	明赤陶 (5YR5/5)	明赤陶 (5YR5/5)	1mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を含む。	
212	縄文土器	深鉢 口縁部				横ナゲ	横ナゲ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	明赤陶 (5YR5/3)	1.5mm以下の透明光沢粒と黒色光沢粒を多く含む。1mm以下の白色粒を少量含む。	
213	縄文土器	深鉢 口縁部				横ナゲ	横ナゲ	明赤陶 (5YR5/5)	明赤陶 (5YR5/5)	4mm以下の白色粒を多く含む。2mm以下の黒色粒と微細な光沢粒を少量含む。	

レイアウト番号	種別	器種部位	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
			口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
214	縄文土器	深鉢 胴部				横ナデ	横ナデ	黄 (5YR6/6)	黄褐色 (10YR6/6)	1cm以下の黒色光沢粒、乳白色粒を少し含む。	外面に塗付着
215	縄文土器	深鉢 胴部				横ナデ	横ナデ	にぶい黄緑 (10YR5/4)	にぶい黄緑 (10YR5/4)	1cm以下の黒色光沢粒、1.5mm程の黄褐色粒、2mm以下の淡黄色粒を含む。	
216	縄文土器	深鉢 口縁部				横ナデ	横ナデ	にぶい黄緑 (10YR6/4)	にぶい黄緑 (10YR6/4)	1cm以下の白色粒を多く、1mm以下の透明光沢粒を少し含む。	外面に塗付着
217	縄文土器	胴部～ 底部				横ナデ	横ナデ 押押さえ	にぶい黄緑 (10YR6/5)	黄褐色 (2.5Y5/2)	1cm以下の黒褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む。	

添付資料7 音明寺第2遺跡 G区出土土器観察表

レイアウト番号	種別	器種部位	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
			口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
218	縄文土器	深鉢 胴部				横ナデ	横ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい赤褐 (5YR4/4)	3mm以下の赤褐色粒と黒色光沢粒を少し含む。	
219	縄文土器	深鉢 胴部				横ナデ	横ナデ	明赤 (7.5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	3mm以下の赤褐色粒と1.5mm以下の黒色光沢粒を少し含む。	
220	縄文土器	深鉢 胴部				横ナデ	横ナデ	明赤褐 (2.5YR3/6)	明赤褐 (5YR5/6)	2mm以下の透明粒と赤褐色粒を多く含む。0.5mm以下の黒色光沢粒をわずかに含む。	
221	縄文土器	深鉢 胴部				横ナデ	横ナデ	黄 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	2mm以下の透明粒と赤褐色粒を多く含む。0.5mm以下の黒色光沢粒をわずかに含む。	

添付資料8 音明寺第2遺跡遺物計測表 (縄文早期)

レイアウト番号	法記番号	出土層 Y層様	出土位置 X層様	器高 (cm)	区	出土層	種類	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考・組合関係
222	381	-90460219	33601259	96.167	F	V	石器	石鏡	チャート	1.6	1.4	0.1	0.7	
223	286	-90555380	42000280	94.532	F	V	石器	石鏡	チャート	1.4	1.4	0.3	0.5	
226	362	-98052689	42065830	95.665	F	V	石器	石鏡	チャート	1.2	1.2	0.2	0.2	
221	383	-90556440	43379210	94.275	F	V	石器	石鏡	頁岩A	2.7	1.3	0.3	1.9	
227	412	-98051201	43695080	95.886	F	V	石器	石鏡	頁岩A	1.6	1.3	0.1	0.6	
228	453	-98054770	43060230	95.748	F	V	石器	石鏡	ホルンフェルス	2.7	1.9	0.5	1.6	
230	505	-98063150	43578300	96.409	F	V	石器	石鏡	ホルンフェルス	2.0	2.4	0.4	1.3	
230	506	-98064210	43562430	96.643	F	V	石器	石鏡	チャート	1.6	1.5	0.4	0.5	
225	1221	-98138750	43661800	87.726	H	V	石器	石鏡	チャート	2.7	2.4	0.6	2.2	
231	1223	-98139520	43563130	86.060	H	V	石器	石鏡	成教岩A	3.5	3.7	3.9	99.6	

添付資料9 音明寺第2遺跡遺物計測表 (アカホヤ降灰以降)

レイアウト番号	種別	器種部位	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
			口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
232	土師器	胴部～底縁			確定6.6cm	縦横ナデ	縦横ナデ	黄褐色 (7.5YR5/6)	黄褐色 (7.5YR5/6)	精良	

レイアウト番号	法記番号	出土層 Y層様	出土位置 X層様	器高 (cm)	区	出土層	種類	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考・組合関係
223	3030	-	-	-	I	SG16	石器	割刀・刺棒	頁岩A	4.8	2.1	1.1	10.3	



調査区遠景 (南より)



調査区全景



基本土層 (F区南壁)



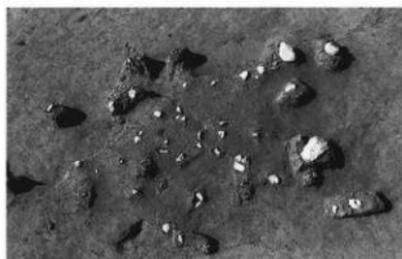
利用石材



SI 4 検出状況



SI 1 検出状況



SI 3 検出状況



H 区 東 部 遺 物 集 中 区



陥し穴 状 遺 構



SG 1・2・3・4 検出状況



SG 5・6 土層断面 ee'



SG 7・8 土層断面 AA'



SG9·10土層断面BB'



SG16·17·18土層断面II'



SG17·12土層断面GG'



SG17·18·19土層断面LL'



SE1·2完掘状況



SG11·12·17·18完掘状況(東より)



I区発掘作業風景



現地説明会風景